334
208

戸山銃敵著

人物評論

奇人正人

東京　活人社發行

334-208

序

奇人正人の一書、其批判する所果して當れりや否や、僕未だ容易に之を斷ずること能はず、然りと雖も廬山の面目は南北横看すべし、或は之を正視すべし。影の壁に映るもの、光線の大小と、距離の遠近と、見るものゝ位置とに依りて千差萬別ならざるを得ず。必しも吾の見る所を以て人の見る所に同ふするを得ざるなり。唯だ見るもの眼無限にして見らるゝものゝ本體は依然として不易なるは則ち疑ふべからず。批判する人あり、批判せらるゝ人あり、紛々として共に地上に在りと雖も、人間眞己の價値に至り

大正
1. 10. 14
内交

て誰れか之を知るを得ん。果して然らば、人の世に立つ、何ぞ毀譽褒貶の間に心を勞するの要あらんや。之を一場の遊戯と見做して可なり。唯だ夫れ遊戯文字なりと雖も批判するものゝ眼識は則ち其中に存す。僕は「奇人正人」の書に通じて些か著者其人を知ることを得たり。人を論じて自ら肝膈を掩ふ能はず。孔丘曰く我を知るものは春秋、我を罪するもの亦春秋なりと眞なる哉此言。

大正元年九月

澁谷の村舍に於て

愛山逸民

自叙

予、海外に浪遊すること二十年。偶頃者歸來つて都外に卜居し、竊に閑眠を貪らんと欲しゝに。不幸厥地は陸軍射場に接し、朝暮銃聲轟々、天猶其懶臥を厭ふものゝことし。

乃ち戯に魔王の廳を叩き、青鬼赤鬼累々六百餘頭顧を獲たり。獲るに隨つて、其面目を描き其行藏を問ふ。精粗繁閑一に禿筆の行くが任にして毀譽褒貶みな廳論の歸する所たり。

但、銃聲の轟々たる固より無心、筆者の喝々たる亦是れ無意。無意に聽き無心に語る、遂に無何有の人たらざるを得ず。故にいふ、斯書を讀んで徒に嗔恚の焰を燃すことなかれ、又叨に臍の宿換をなすことなかれ。語未だ畢らず、廳上忽ち

聲あり、曰く喝、此饒舌漢。

浪遊何所得。不若舊書生。嚙豆英雄罵。呵毫群鬼驚。乾坤胸底宿。
日月指頭橫。都外求閑臥。却聞萬弩聲。

大正元年十月朔旦

戸山銃聲識

目次

一、閥族の親分子分……一
二、首領と陣笠……二九
三、財界百鬼……七〇
四、古武士……一三六
五、長脇差……一七〇
六、浪人組……一八八
七、有耶無耶……二六五
八、附燒刄……二九五
九、中毒性……三二四

十、大風呂敷……三五六
十一、箆　迷……三七四
十二、變り者……四〇七
十三、頭陀袋……四五二
十四、野幇間……四八三
十五、尻の光……四九八
十六、出稼連……五一六
十七、骨董品……五九〇

目次終

人物評論

奇人正人

戸山銃聲著

一　閥族の親分子分

南瓜も蔓が茂らざれば實が少い、茂り過ぐれば畑が瘠せる。されば今の政治畑に轉つてゐる、大小幾多の南瓜頭を點檢して。其茂り工合、生り鹽梅を知るは、畑持つ身の田吾作には、最も肝心な一件だんべい。

大御所

大勳位公爵大將元帥
樞密院議長
山縣有朋

◎俗界の階級を上り詰めて、卒是れから羽化登仙の身分になるべき所だが、御當人未だ中々俗界を脱する能はず、軍事外交其他一國の重要問題は勿論幾多

配下のものゝ進退迄、一々面倒を見てやると云ふのだから、其は〳〵お忙いことだ。

◎彼が奇兵隊員として、下の關の英艦砲擊に、素ッ裸に長槍を横へて飛出して以來、明治の軍將として軍政改革、二大戰役等に參劃し、政治家として自づから内閣を組織し、地方制度の釐革、其他彼の功績は頗る著しいとの事だが、吾人未だ腑に落ちる程に其詳細を聞かない。

◎純忠至誠は、彼の標榜だが、其錢を愛し、且つ餘りに俗界の權勢に戀々し、又竊に妓を愛し妾を蓄ふるが如き、之を果して高潔無垢の大人と稱すべきか、其標榜に伴へる人格!!　大に疑しい處だ。

◎彼は故伊藤の長逝後、長閥の大本尊で、部下の連中は竊に彼に媚びて、大御所の敬稱を捧げてゐる。

◎其餘命の程も幾何もあるまいから、大抵に婆婆を見切つて、餘計なお世話をせず、ドシ〳〵後進の自由活動に任したら什麼だらう、マサカ後進として迂濶に大計を誤ることはあるまい。

長閥三尊の後繼

陸軍大將侍從長兼内大臣公爵　桂　太郎

◎彼れ武人として大將たり、文官として再び内閣首相たり、富を成すこと巨萬を超え（相場をやる）美人は兩手に花の觀あり。（お鯉の方）而して今や外遊中途に歸るも、三たび天下乘取の素地を作るの用意は感心の至である。

◎彼れ圓顏で下膨なる如く、福德は持つて生れた天分で、武勳も文勳も彼以上で、其位勳爵祿の彼に下るもの少からず。而して獨り彼が山縣、大山等の大々元老と竝び、井上松方等を凌ぐに至つては、之を幸運と云はむか、巧者と云はむか、何人も其榮達の異數に驚かざるを得ない。

◎力めて敵を作らず、何れの元老にも善く、進んで富豪に密接し、乾兒を植付くるに敏なること、刻下彼に若くものなかるべく、機來れば何時でも天下の權は彼の掌裡に歸せんとするの勢だ。

◎彼が長閥に在つて伊山井三尊の跡目を一身に集め、勳爵既に人臣の榮を極むるも、權勢の念寸時も休まず、進んで機を作り、機を捉ふるに汲々としてゐる。

夫の閑雲野鶴を伴とし靜に天地の大に親しむは、遂に彼に望み能はぬであらうか。

◎此稿を畢るの時、彼れ侍從長兼内大臣任命の報あり。補弼の重職だ、宜しく一切の私念を擲つて君德を大にせんことを望む!! 信女の孕むは醜いものだよ。

茫々又茫々

陸軍大將大勳位元帥公爵　**大山　巖**

◎薩摩武人の棟梁として、恰も長閥の山縣に於けるが如き觀がある。然れども彼は山縣よりも勢利に恬淡で、黨を樹て根を張り、天下を我物顔する樣な慾張根性がない。

◎長幹巨軀、其形貌の茫寞たる如く、其言爲行動亦た茫々寞々である。其でも久しく陸軍大臣參謀本部長其他の要職を經て、元老の地位に立つ樣になつたのだから、何等かの特長がなくて叶はぬ。

◎特長は即ち茫寞で、他のものは兎角功名顔がしてみたく、悧巧振て見たいが彼は一切那麼な事に頓着なく、何處迄も惚け切つてゐる。而して何となく重量

があり、馬鹿にも出來ず、部下皆其能を盡くすことが出來る。

◎日露戰役に彼は總司令官兒玉は總參謀長として出征し、時々我軍の危險に陷ることがあると、兒玉は慌てる。軍の司令官も迷ふ。此時彼が例の茫寞の顔を撫して、呑氣千萬の諧謔を言ふ、而も其數語にて三軍の氣鎭ると云ふ風であつた。こゝらは故從道に似た處があるが、薩人の茫寞は何時も内に深奥の智術を包んでゐる。

内田山の雷

議定官大勳位侯爵　**井上　馨**

◎元老連の財界に勢力あるもの、松方あり大隈あるも、共に井上の根柢深く枝葉繁きには及ばない。故に財界に著しき變動あれば必ず先づ内田山に彼のご機嫌を伺ふことになつてゐる。

◎三井、藤田、貝島、麻生の徒は最も彼に密接し、其他間接に直接に其意見に聽き、其聲援を乞ふもの、蛛絲の如くに全國に瀰漫してゐる。故に大銀行、大會社の創立は勿論、時の内閣で拙に彼の癖癖にでも觸れようものなら、忽ち瓦解の止む

なきに至ることがある。往年阪谷藏相が、豫算の失錯で、彼に大喝され、遂に掛冠の止むなきに至つた樣なのは、其適例である。

◎昨年大患に罹り、幾たびか彼の瀕死を傳へられたが、天壽なる彼は再び回生して、更に從前よりも强健となつた程に丈夫な體軀である。

◎酒池肉林の豪遊が好で、黃金の山を築くこと、勳爵の高きこと、古器名珍を多藏すること、其等俗惡なる本能慾の發揮は皆好で、而して彼は其を殆んど十二分に滿足せしめたのである。

◎故に俗惡崇拜の眼よりすれば、彼の如きは一代の豪だらうが、其以上の見地よりすれば、何等の價値をも認めない。

幕裡の大海相

軍事參議官
海軍大將伯爵　山本權兵衛

◎世人は、久しく山本內閣の現出せんことを期待しつゝあるも、薩派衰頽の今日、到底其現出は想も寄らぬことだ。

◎山本は智勇辯力共に一代の雄なるも、固より洪量盛德の大人にあらず、唯私

恩を售り、私黨を樹てゝ帝國の海軍を自家の海軍視するだけの男だ。

◎往年彼が好敵手は桂なりしも、桂は頻に幸運に乘じ、遂に人臣の榮を極め無上の權勢を握り、彼は桂の後繼たる寺內にだに稍もすれば、乘越されんとするに多少煩悶の情見ゆるも、單一海軍の勢力のみを以てしては如何ともする能はず、竊に機の熟すを待てる樣だ。

◎彼の海軍に於けるは、猶山縣、寺內等の陸軍に於けるが如く、重要事件は一々其認許を得ざる可からず、而して海軍幹部は勿論各方面の要職は悉く彼の腹心と股肱の徒で塡たされてゐるから、一たび彼に楯突くものある時は、直に馘首處分に遭ふのである。

◎東鄕柴山、上村の徒、みな戰場の功は赫々たるも、海軍部內には何等の勢力なく、寧ろ彼の意を迎へてる位だ。

◎彼は曾て山內滿壽治と結び、軍艦注文のコンミッションを刎ねしため、今や百萬の產を有し、猶益々盛に貨殖の道に腐心してる樣だ。

◎夫人は越後女で昔娼婦に賣られてたのを、彼に見染られ玉の輿に乘た者だ。

三代將軍

朝鮮總督　陸軍大將伯爵　寺内正毅

◎山縣を大御所とし桂を二代將軍とすれば、彼は差詰め三代將軍と云ふ格だが、此後果して内閣の首班に立ち得るや否や。

◎彼は極めて小廉恪謹で、部下の呈出する書類にも決して官判などを押す樣なことなく、必ず首尾通觀しなければ、氣が澄まぬといふ神經質で狹量な男だ。

◎薩派全盛の川上時代には參謀本部を逐出され、或は教育總監部に葬らるゝ等、天下彼あるを知るものもない位だつたが、一たび參謀本部次長となり、兒玉の後を承けて陸相となるや、前後十年の壽命を保ち、牢乎たる勢力を植うることゝなつた。

◎其間に日露戰爭に會し、日韓合併をやり、彼の威名は中外を傾け、今にも寺内内閣の組織されん計りに持囃された。

◎然るに彼が總督として朝鮮の政治振、又對議會の態度は、一に窮屈なる陸軍式にして到底彼に政治家としての手腕德望を見出す能はず、流石の大御所、二

代將軍も彼の跡目はチト思案ものだらう。

◎桂は兎も角も軍人で政治家の素質を備ふるも、彼は軍政以外に一向長所を見出さぬ。寧ろサーベル專問に、ビリケン式を發揮した方が得策だ。

田舍寺の小僧上り

樞密顧問官　子爵　清浦奎吾

◎山縣系の政治的方面を代表せる一元老である。平田、大浦の如きものあるも、其閲歷斤量みな彼に下るものである。

◎今や樞密院に匿るゝも、機一たび熟せば何時にても新内閣を組織するに躊躇せまい。彼も既に耳順の坂を超ゆると二歲だ、急がずば日が暮れるよ。

◎熊本の田舍寺の小僧より身を起し、年十七で廣瀨淡窓の塾頭となり、次で月給八圓で、埼玉縣の學校教員となり、其より司法省に入り、累進して司法大臣迄漕付けたものだ。

◎頭腦透明で、辯說も旨く態度も悠揚逼らぬ處がある。曾て上院に研究會を率ゐて官僚軍の氣勢を張り、又政府委員として下院に快辯を揮つたこともある。

◎山縣系文治派の雄將として、曩に白根專一を喪ひしより、彼れ其後繼者として、武斷派の寺內等に對立の態である。兎も角今一度は、彼の舞臺姿を見度ものだ。

破壞力最も猛烈

貴族院議員子爵　大浦兼武

◎今の官僚系で、彼と對抗し得るは後藤平田の徒だらうが、兩者とて彼の險辣深刻で、其破壞力の猛烈には敵はない。是れ畢竟彼が警吏として半世を閲せる後天性の然らしむる所だらう。

◎中央派のおん大將として、何時も大小三四十の陣笠を操縱し、機の乘ずるあらば、馬を陣頭に進めんと虎視耽々、寸隙をも許さない。而して彼の牙城は上院にあつて、盤踞挺立し、恰も萬兵を霧中に潜むるが如き觀がある。

◎第一次の西園寺內閣を毒殺したのは、彼が張本人だと云ふことだが、此前桂が政友派と情意投合をやつた時も、反對の隊長であつた。斯く彼は絕對的官僚主義で押通すのだから現內閣も油斷は出來ない。

◎彼の部下に於けるは恩威並至る方で、特に儉素自づから奉じ、他に衣食を分つを吝まない。故に部下も能く悅服する。此邊後藤の豪華なるとは、趣を異にしてるが、何れにしても、他年天下取の準備をさ〳〵怠りなしと云ふべしだ。

二宮宗の大先達

貴族院議員法學博士子爵　平田東助

◎彼は清浦、大浦、小松原と併せて山縣系四天王の隨一で、親分山縣の謹嚴方正の部分を代表したものだ。且つ二宮尊德宗の信者で、何處迄も學究的な點に彼の生命を認むることが出來る。

◎彼は米澤出身で、書記官たり參事官たり法制局長官たり、桂內閣に內務大臣として扇要の地を占むるに至つたものだ。是より先彼は獨逸に留學し、法制學を究め、殊にスタイン、グナイス等の說を祖述し、山縣系中の學者を以て目せられてゐる。

◎曾て公伊藤の下に法制事務に參與せしことあるも、伊藤の政黨內閣主義なるに反し、彼は獨逸流の帝室內閣論、官僚專權說に中毒せるものなれば、到底撥

の合ふ譯のものにあらず、却て山縣系に歡迎され、又其爪牙となるは自然の數である。

◎彼は此の如く理窟一天張で、尊德宗なるだけ、融通の利かぬことも夥しい。曩に電車市有問題の沸騰せし時、後藤の如きは竊に爲にする處あらんとせしも、彼の頑張れる爲に、其志望を擅にする能はざりしと云ふじやないか。

◎桂にして又內閣の後を承くるの秋も來らば、彼も軈て入つて其幹部の一椅子を占むことだらう。

自選外相

前遞信大臣 男爵 **後藤新平**

◎奧州水澤の貧家の小僧より躍進して大臣となり華族となり、更に幾多の前途を有する彼れ後藤新平は、亦た一代の俊髦である。

◎一見順風に帆を上げた樣だが、中途相馬事件に連座投獄されしこともあり、未だ兒玉などの知遇を得ざる以前には隨分煩悶もした。

◎彼の躍進を促したのは、全く先賢の援引で、彼に安場の推輓、兒玉の信任、山縣

桂寺內等の援護結託なくんば、如何に藻掻いても、結局病院の親玉位で終つたかも知れぬ。彼亦た幸運兒だ。

◎人に接する豪快跌宕で、如何にも天下の英雄は使君と操の感あらしむるが、其內頗る周密で、寧ろ神經過敏な位だ。

◎人氣取は寸時も怠らぬ場合に依れば活辯もやる、唱歌も作る、飜譯者ともなるお忙しいことだ。

◎種々な機會を利用し、中々巧に財力を作る、乾兒を作る。デ他年風雲に會せば、一鼓して天下を取らんの意氣もホノ見ゆる。大浦、平田等より役者が一枚上だ。彼の眞價は須らく今後に看取すべしだ。

長閥の力はこんなもの

參謀總長 陸軍大將 子爵 **長谷川好道**

◎體力强健で勇猛無類だが、惜しむらくば周到なる智謀と溫潤淸肅の德が缺げてゐる。故に帝國陸軍の參謀總長としては、甚だ如何はしきものだが、其處は平氏にあらざれば人にあらざる樣な長閥全盛の陸軍だもの。

◎同じ長閥にも故品川彌次郎だの乃木希典の如き嚴正なる人物のないでもないが、伊藤、井上、山縣桂の諸元老を初め、概して素行の點には批難を免れない。

◎然らぬだに今の青年將校の日々に華奢に流れ、淫蕩に陷り、士氣の腐敗し勝なるに當り、其策源府の最高位にあるものが、賣笑婦などに浮名を流す樣では、教育總監部だの、檢閲使などが、如何にヤキモキするも、士氣の振興は、チト浮雲ないものだよ。

◎全體から彼は佐久間左馬太に似た點が多いが、其操行なり、部下に對する態度の公明ならざるの疑あるは、能く一致してゐる。願はくば三省して古名將の餘風を酌むべしだ。

何時迄の女房氣取か

海軍大臣男爵　齋藤　實

◎明治三十九年一月、西園寺内閣の成立當時、彼れ山本權兵衛の後を承けて海相に累進せしより既に七年の星霜を閲するも、何等刮目の擧を見ない。

◎彼は當初山本に簡拔されて次官となり、更に大臣に据つたのであるが、大臣

としての實權は猶山本の掌裡にあり、日常事務以外、重要問題は一切山本の指揮を仰がねばならぬ。

◎第二世山本としては、其駙馬の次官財部がゐる。故に彼は財部が大臣たる秋までの間の楔子にしか過ぎないのだ。

◎伴食も此處迄行けば、寧ろ憐むべしであるが、薩閥全盛の海軍で苟も榮位を得んとせば、此に出づるの外は妙術もあるまいよ。

◎彼は男後藤と同郷で、幼時均しく水澤藩の給事であつたが、兩つながら勤勉汝を玉にして天下の名士となつた。然るに彼は其頃より温厚で、後藤は暴れものだつたか、此天質は其儘に發展し、後藤の產を作り、乾兒を植ゑ、元老に結び、頻に風雲の會を窮ふに反して、彼は朴々として其職を守るのみだ。

桂部屋の負角力

貴族院議員　前文部大臣　小松原英太郎

◎曩に文相として、彼は隨分力めた樣だが、南北朝問題其他幾多の大小波瀾を捲き、教育界にも、一般社會にも、氣の毒な程不評判であつた。

◎然れ共其昔彼が山陽新報其他江湖評論等に筆を執るや、屢々政府顚覆論など激越の文字を聯ね、爲に筆禍を買ひ入獄した位であるが、一たび官僚系の人となるや、忽ち去勢されたる如く小廉曲謹の温良爺となつた。

◎彼は後藤、大浦、平田の徒に比すれば、人格はズット上だが、智謀、隱忍、勢力みな遠く及ばない。

◎彼も再び内閣の椅子を占むるの時期は來らざるべく、上院にあつて官僚の旗旆を飜し、時々教育問題などに儚なき氣焔を上ぐる位でお了ならむ。

◎咆哮せる虎豹も、食に飽けば則ち眠る、彼も今や衣食に窮せず、位勳の高階に上る、其漸く眠らんとするは、亦た常人の習だらう。

熊本の三秀才

貴族院議員 前警視總監 **龜井英三郎**

◎熊本出身で、少時嘉悅塾で内田、林田と彼とを併てせ三秀才と稱せられたものだが、今に至るまで三者は雁行して青雲を翱翔し、猶各々多少の前途を有してゐる。

◎彼は廿一年に大學を出で、郷先輩井上毅の下に法制局試補となり、其より鰻上りに知事となり、遂に警視總監迄榮進したものだ。

◎由來非常な精勵家で、先年東北大飢饉の際には、連日徹夜して事務を視、爲に幾多の部下を神經衰弱に陷らしめた程であつたが、爲に僅に半歲で納稅整理を完了して、時人を驚した。

◎彼の總監時代では、掏摸檢擧、署長更迭、花柳界取締等が、主なる事績である。彼は一面磊落で一面極めて神經質だ、デ此兩面が克く調和するに至らば、其人物も一段の價値を增すだらう。

◎四疊半に美人を擁して喃々するのが、大々的好物で、之が爲に屢々お土產頂戴して病院の厄介となる、蓋し之は彼の郷友内田、林田何れ劣らぬお仲間だから、今更改宗も出來まい。

攻略隼の如し

前遞信次官 貴族院議員 **仲小路廉**

◎年齒正に四十六、體健にして氣鋭、且つ法學の素養豊にして行政的手腕の練

磨あり、何處に出しても一騎當萬位な闘將だ。三代遞信次官として女房役を勤め、兎角の評はあつたが、未來の大臣候補として、若槻床次等と共に有數吏僚の一人だ。

◎彼は少時非常な苦學をして、判檢事試驗に及第し、爾來判檢事として名聲を博した就中金玉均事件、鐵管事件、日清戰後遼東還付に關し、六政黨聯合して政府に逼りし際の如き、彼の態度は實に光彩陸離たるものがあつた。

◎清浦法相時代に、遣外法官九人組の一に加はり、無學閥の威を示し、歸來長森藤吉郎等と共に、司法官增俸問題に熱狂したが、之は敗れた。

◎清浦は能く彼を引立てた、而して彼亦た清浦に心服してる樣だ。一體彼は伯兒玉と同じく德山の出身であるが、餘り閥族のお蔭を蒙らなかつたものだ。其家庭の如き、清肅圓滿で、彼亦た廉潔の士である。

好事務家

前大藏次官　貴族院議員　若槻禮次郎

◎頭腦明快で手腕の冴加減は、前遞信次官の仲小路廉と伯仲の間にある。殊に

政府委員として議場に立つや、三百の舌頭をして、襲擊の罅隙なからしむるが、彼は何處迄も防衛的で、他は攻擊的なるの相違がある。

◎廿五年の赤門出で、ズン〳〵頭を擡げ、藏相桂の時には其餘威を借り塚田、櫻井の如き先輩連を容赦なく追拂つたものだが、實際官僚派の豫算掛として、彼の右に出づるものはなからう。

◎次の官僚內閣には、彼は無論保險附の藏相だらう。故に中央派などでは、其等を見込で大分崇めてる樣だ。

◎彼の揚名の第一着は、日露戰役中財務官として、我が財政狀態を歐洲に紹介して著しく信用を加へしめたのにある。爾來幾多の盤根錯節に會して、立派に切拔けて行く鹽梅は、一寸水際立つて見ゆる。マー民軍に大刀打の敵手としては、賴母しい男だ。

亂世の闘將

中央製糖株式會社取締役　貴族院議員　闘　清英

◎山縣麾下蠻勇派の隨一にて、大浦、松平、安立及彼は恰も硬派四天王の觀あり

大浦には固より弟分なるも、豪膽にして行動の猛烈なること、戰國時代の闘將としては、無類の資格を有してる。

◎彼は佐賀の三平（江藤新平、大木民平、關新平）と嘔はれたる新平の弟にて學問としては漢學及法律英語の初歩を解するに過ぎざるも、法官として約二十年雌伏し、次で佐賀、長野等の知縣となる。彼の佐賀に知縣たるや、大隈全盛時代なりしにも拘はらず、猛烈なる蠻力を揮つて、黨員を屏息せしめたものだ。

◎ポーツマウス條約後、國論沸騰し、例の日比谷燒打事件で、内相芳川警視總監安立も辭職の止むなきに至り、桂内閣も將に瓦解せんとするに臨み、彼は桂、大浦の囑に由つて、長野より馳せ至つて安立の跡を襲ひ、大に努力し、間もなく政府の更迭と共に兩者に殉して職を退いた。

◎敵としては飽くまで強く、味方として頼母しい男だ。然るに今や豹變して砂糖屋の世話方となる、不相變意氣豪壯だ。彼の將來は猶捨てたものでない。

次の陸相？

第一師團長
陸軍中將　**木越安綱**

◎精力絶倫で思慮嚴密、加之に泰西の學に通じ、且つ修養怠らぬ處があるから、決して長く師團長などに留まるものでない。

◎曩に上原の陸相となるに先ち、彼も候補者として最も呼聲高かりしに視ば、上原の後を襲ふものは、恐く彼の外になからう。

◎金澤出身で、閥族に緣固はなさゝうだが、彼は曾て桂の第三師團長たりし時、其參謀長として、深く相結び、爾來巧に其睾丸を握つてるとのことだから、彼の將來は存外安固で、且つ準長閥以上のものだ。

◎彼は對談の間にも、紆餘曲折あり、擒縱自在の妙あるが如く、何を爲さしても、頗る政略に長じてゐる。故に他年山縣逝き、桂、寺内等の老退する時に閥族を率ゐて民軍と殿戰するものは彼だらうとの評がある。

◎風采素朴で、和服の時は、田舍の村長然としてるが、獨り眼光爛々として、肺腑を射るの慨がある。

大臣の適材

内務次官　**床次竹次郎**

◎薩摩隼人も海軍を除けば、其他の方面に語るに足るものは、寥々晨星の如しだ。就中日本銀行總裁の子三島と、内務の床次は最も注目するに足るものだらう。

◎彼も赤門を出て、官僚生活の或時代迄は、圭角八面で、到處に議論縱横、意氣軒昂で、藏相渡邊國武などにも、屢々喰つて掛つたことがある。

◎某年彼れ新潟に官に在りし日、偶〻知縣勝間田に禪を修むるを勸められ爾來俄に斯道の人となり、何時か其面目を一變して、優裕逼らざるの士となつた。

◎彼は白仁、山座の徒と親交があるが、其性格亦た兩者を折衷した樣に、極めて純良にして豪宕な處がある。要するに才で行かずして、學問人格で立つ方だ、修練を重ね來らば、好個の國務大臣たるに足る。

◎頃者三敎合同問題では、大分味噌を付けた樣だが、之は自家野孤禪の味のやり損をしたものだらう。

事勿れ主義

京都府知事
貴族院議員
大森鐘一

◎宮城の寺田及京都の彼は老耄知事の一對で、一切萬事時代後れで、什麼にも仕樣のないものだが、各其筋の親玉に、追從輕薄の加減で、今日迄生延びたものである。

◎寺と女と名所の番頭としては、ヨボ〳〵でも差閊はなささうなもの丶京都には工業として織物陶器、其他手工品で年々三四千萬圓を產出するのだから、之を時勢の進運に後れぬ樣に、鞭韃して行くには、耄碌の腕には無理な注文だ。

◎特に京都は我邦の一大公園として、世界の耳目を娛ましむるに足るものがある。然れども現狀では、客臭くて話にならぬ、之を大公園たらしむるには、猶多大の施設を要する旁以て有爲の人材を要する譯だ。

◎奥繁其他膳下の毛のない貎どもの、自在に操るには、大森の如きは格好だらうが、其では府民が堪るまい。蓋し彼及び寺田の如きは、猶他に若干あるだらうから、是等は漸次淘汰して後進の路を開くべしだ。

副總督

朝鮮總督府警務總長陸軍少將
明石元次郎

◎福岡出身で、少時は辛酸苦楚を嘗めたものだが、彼が陸軍士官學校及陸軍大學に學ぶや、何時も優等の成績を得、松石、宇都宮を併せて當時の三俊として持囃されたものだ。

◎日露戰役中は、歐洲にあり、巧に彼地革命黨を煽動して、敵軍の氣勢を挫き、戰後寺内ビリケン總督に重用せられ、殆んど副總督の實權を有し、朝鮮經營の衝に當つてゐる。

◎朝鮮經營に於ける彼の批難は、雨よりも繁しだが、彼は世論を顧みず、其所信を斷行して、一意報國の實を擧げんとしてゐる樣だ。

◎伊藤曾根の緩漫駘蕩の政略に馴致されたる後に、嚴霜烈日の武斷統治を以てするや、不平怨嗟の聲沸騰するは、固より自然の數である。而して又短日月の間に其功果を見んとするは、到底不可能の事である。

◎唯此際は此武斷連に任じて、今一兩年徐に其成行を見るさ、マサカ世評で矢釜しき程の心配もあるまいよ。

陸相の卵？

陸軍省軍務局長
陸軍少將　田中義一

◎長閥の寵兒で、陸相の卵の一だが、本人は閥族視せらるゝのが大嫌で、常に其親玉連を罵倒してゐる。快濶簡勁で、毫も邊幅を飾らざる處に、彼の價値は見ゆる。此點は同じ長人でも、長岡や岡などの氣取るのに較ぶると、餘程氣持が好い。

◎昨年伯大隈が麻布三聯隊を訪ふた、彼時に聯隊長であつたが、大に之を歡迎して、遇するに元帥の禮を以てし、分列式を行ふた。尋常の男なりせば、大隈嫌の親方共に憚つて這麼な眞似はしきらぬのだ。之が例となつて、本年も大隈は何處かの聯隊で分列式の禮を受けた。

◎革命騷の支那に勃發するや、彼は逸早く小倉師團に出師準備を命じた。而して彼は人に向つて、之は我が方寸より劃出されたものだと豪語してゐる。

◎彼は往年の軍務局長宇佐川に、何處か似てる樣だが、快味は宇佐川よりも多いだが是から追々お手元拜見の榮を得ることゝしやう。

◎岡市之進と云彼と云ひ、猶幾多の長閥將星がゐる。此分では當分長閥萬歳だ。

永い壇の浦だ

熊本縣知事　宗像　政

◎彼は由來悲歌慷慨の士で、西南の役には薩軍に投じ、役後五年の苦役に處せられ、二十七年に熊本より代議士に選出され、次で三十年の松隈内閣成るに及び、埼玉縣知事に任用せられた。

◎松隈内閣の瓦解と共に黨人等みな官を罷めたが、獨り彼は其地位に嚙り付いて動かなかつた。且つ壇の浦迄やッつけると云ふので、一時有名であつた。

◎爾來知事として今日迄續いたが、彼の運命は知事でお終だらう。前任地廣島は革新派の醜類が跋扈してる處だつたが、彼は始終喧嘩腰で制裁を加へ、大に其等を屏息せしめた。

◎彼れ家庭に不幸で、近年新妻を迎へしに、大切の〳〵陽物に故障あり、遂に根元より切斷して了つた相だが閨裡の愁傷察するに餘りありだ。

臺灣の落武者

神奈川縣知事　大島久滿次

◎臺灣で後藤系の宮尾、長尾の徒と衝突し、結局後藤が一睨に喧嘩兩成敗で、双方共に馘られたものだ。

◎彼は到底後藤の敵でない、だが彼の在灣中大に政友會議員等を款待し、原の覺目出度かりし爲に、後藤の面當に彼を神奈川知事に擢んでたとのことだ。

◎彼も臺灣では強敵を引受けてゐた爲に、隨分内外の惡罵も劇しかつた樣だが、其實左程の惡人でも、辣腕家でもない。

◎林本源事件では、大分甘い汁を啜つた樣に噂されたものだが、之も評判倒れで得る所は高輪の邸宅位なものだらう。

◎臺灣の如き魍魎國で、味噌を付ける位だから、餘程確りしなければ、内地の游泳は六づかしい、況や彼の如きは、一たび官海を離るれば、潰しの利かぬ先生だから、宜しく奮勵向上して、其立脚點を失ふ可からずだ。

戰國の闘士

長崎縣知事　安藤謙介

◎無鐵砲なこと、地方官中第一の評がある。而して政友最負で、原敬を崇拜する

こと一通でない。

◎曾て愛媛縣知事時代に、餘り政友會員と結託して、反對黨員の根據を覆し、且つ無謀な土木を起し、縣民を困弊さしたので、平田の馘る所となつた程の猪勇だ。

◎彼は軍人として戰鬪攻伐の部將などには、適任かも知れぬが、常識本位の地方官には、何處から見ても不合格だ。而して親分の光は難有いもので、彼が退官後、韓海漁業で蹉跌し大に逡巡困阨の裡より救はれて、長崎に荒川の跡を襲ふ樣になつた。

◎彼が知縣の壽命も、現內閣限りだらうから、是迄の罪亡しに溫健と親切で、縣民を愛撫したら宜からう。要するに彼の如きは、戰國時代に生るべき其なのが過つて太平無事の聖代に飛出したものだ。

世の中はつねにもかもななぎさこぐ
海士の小舟の綱手かなしも

源實朝

二　領首と陣笠

陣笠は首領の上に戴くものだが、首領の御意次第で、大切にもさるゝ。首領なければ陣笠の用所はない、陣笠なければ首領も職が出來ぬ。政界兩者の關係、近づいて之を觀るも亦た一興だ。

風流宰相　內閣總理大臣侯爵　西園寺公望

◎彼の顏を見れば俳優然としてゐる。其趣味を問へば詩歌俳諧歌舞演藝頗る多方面である。公卿出身として、故伊藤や桂の肉慾一天張なると、自づから趣を異にしてゐる。

◎政治家として學問識見は當代第一流ならむも、淡泊にして執着力に乏しく眼先が見へ過ぎて永く御輿の馬鹿噺に伴ふ能はず。故に玉石混淆單權勢を攀ぢたく財の蔓に絡付きたい、政友黨の總親分としては、誠に賴母しからぬことだ。

◎だが曩に自由黨創立以來の首領板垣を捨つる弊履の如かりし彼等は、其自

我慾を充たすに不利と見なば、彼を逐ふと復亦た板垣の如くならむ。

◎彼の佛國より歸朝するや、熾に自由主義を皷吹して、閥族と戰ひしが、我邦にあつては容易に其理想の行はれざるを見、漸次其主張を緩和し、爾來幾たびか閣班に立ち又自づから內閣を組織する樣になつた。

◎黨首として故伊藤の跡目には宜からむも、眞に親分的の活動をなすと、故星の如きは、到底彼に望む克はぬ處だから、夫の金城湯池を擁せる官僚軍を擊摧することは、六づかしいものだ。

蠻骨蠻音の中に多智を包む

文部大臣 衆議院議員 **長谷場純孝**

◎文盲な文部大臣、其新任前後は、省內は勿論、敎育界の元老連に、隨分文句も多かつたものゝ。サテ愈々其椅子を占め、從來の問題を、片ッ端から人氣を損せぬ樣に埒を明け、且つ敎育者の旌表とか、優遇とか、拔からず愛嬌を振蒔き、部下の愚見なども、襟を開いて傾聽してやるので、忽ち人氣を一變し、從來になき好大

臣として、令名嘖々とは誠にお目出度い譯だが、理窟を賣物の敎育家も、亦た與みし易いものじやないか。

◎卓磊の風貌に、破鐘的の蠻聲を有し、材幹亦た侮られざるものあり、下院議長として、一段の男振を上げ、爾來頓々拍子に、今日の位置に上つたのだが、中宵彼が薩摩の邊隅で、郡長たりし時を思はゞ、今昔の感抑如何だ。

◎彼は桂、寺內にも親交あり、蘇峰などには師事する位なものだが、往年蘇峰は彼の爲に國民紙上で大に太鼓を敲いたものだ。兎も角も政友會では元田、大岡、杉田等よりも後輩で、此位置を贏ち得たのは、聊か誇るに足るものだらう。

親任官の嬉しい事

衆議院議員 拓殖局總裁 **元田肇**

◎辯護士としては古いもので、一時東京辯護士會長などもしたが、今や既に彼の法律眼は、模糊として老たりだ。

◎國民協會を西鄕、品川等と創立した頃は、彼も佐々克堂等と共に其尻馬に乘り得意滿腹で奔走し、後憲政黨に走つたものだ。

◎卓見もなければ、大節もないが應變の利く才子で、矢張大岡、尾崎の徒だ。マー拓殖總裁などが其運命の絶頂だらう。

◎彼は穉氣滿々で、勳位官職が大に有り難い方だ。今度親任總裁になつたのが、餘程嬉しいと見へて、頓に愛嬌の安賣をなし、腰の折方が違ふと云ふにやないか。こゝらは長谷場、大岡などに酷似してゐるよ。

◎豐前豐後には、維新前後文人墨客が多かつただけ、今猶彼地方のものは、其餘韻を傳へてゐる。彼も亦た其一人で、時々五七言絶句などを拈くつて同人間に誇視するが、是は罪がなくて宜い。

正直で潔白に過ぐ　代議士　島田三郎

◎沼南島田三郎は、代議士として第一期より繼續して、横濱市より選出された名物男で、曾て加藤高明が、三菱の金力と前外相の名望を負ふて、彼と鹿を同市に爭ひしも、一蹴の下に仆せし程、彼は同市民に信頼されてゐる。

◎下院の演壇に於ける彼は雄辯滔々眞に立板に水を流す樣で、什麼なる難問

題も、一たび彼の手に觸るれば、理路整然として庖丁氏の牛を解くが如くである。唯惜しむらくば辯に威重なく情味なく、熱氣なきとである。議員の何人も偶には贅語重復の弊を免かれぬが、獨彼は其弊なくして、多少疾辯の方だから、熟練の速記者も彼には大に閉口する相だ。然れども達辯無比の割合に一向に反響がないので、矢尻連は彼を島田喋郎と稱し蓄音機と同視してゐる。

◎彼は今や國民黨に籍を置き、首領株ではあるが、他の河野、仙石、片岡と一般黨の運命を制するの地にはゐない。同黨では何と云つても犬養、大石が其砥柱である。

◎彼の最も持囃されしは、毎日新聞に據り、公民派を代表して、星亨と戰へる時代である。當時の同紙は風霜滿紙、一言一句敵の腸を抉ぐる計りで、有繋の星黨をして狼狽せしめた程で、夫の伊庭想太郎の亨を市會議事堂に刺すや、其幕下の壯士等は、伊庭をして斯擧に出でしめしは、彼の使嗾に由るものとし、竊に彼を付覘ひて、匕首を向けんとした位である。

◎昨年彼は在米同胞の求に應じて渡米し、各所で其意見を述ぶると共に、移住

狀態を視察した。是より先き我が外務省では、彼の渡米を聞き直に駐劄領事等に命じ、日本贔負の白人を語らひ、歡迎準備をしてゐたので、彼の到着後は移住同胞及白人より、歡迎に次ぐに歡迎と云ふ大持てで、大に日米外交の圓滿せるに感心し、歸來頻に圓滿熱を吐いて廻つてゐるが、何ぞ知らむや、彼れ好々爺！！旨く俗吏に一杯喰はされしとを。由來彼地移住者は、常に我外交の拙にして弱腰なる爲に、移民拒絶は勿論種々の壓迫を蒙りつゝあれば、一度本國の硬骨議員を招待して、其間の消息を、仔細に本國の輿論に訴へしめんと、扨こそ喋郎先生を態々聘し奉りしに、逸早くも其裏を掻れて煙に卷れ、幸に議場に彼が機關砲の亂射を免れたものである。小刀外交の効目は覿面だが、馬鹿を見たのは、在米同胞じやないか。

◎彼のお人好を云へばまだ有る。今の妻君の前の妻君は美的で氣轉も利いてた。處が餘りに氣轉が利き過ぎて、子飼の書生と密着いて了つた。之には先生も大に怒つて、早速叩き出したものゝ、其後茫然自失の態であつた。然るに先妻の父たる人大に氣の毒がりて、更に今のを周旋したとのことであるが、之は彼の罪

ちやないが、不幸なる歴史の一であらう。

◎彼は熱心なる基督信者で、平生身を持する極めて謹嚴で、座右の一物と雖もチャント整頓し、塵一本も留めないと云ふ風であるが、萬事斯の式で毛色の異つた人を容るゝが出來ない。故に論客としては誂向だが、清濁竝びに漕分けて行く、政海の首領としては、到底何の望もない。其人格が餘りに高潔單調で局量が小さ過ぎるのだ。

◎彼は新聞の主筆及議場に於ける一騎打の鬪將として最も適任である。其前半生は殆んど其でありたので名聲も大に揚つたものゝ、今や管城を拋つて、專ら一枚の舌あるのみにして、且つ亦た頽然老境に入つて來たから、彼か往年の英姿は長に見ることは出來まい。

豹變も嘸の爲？

前東京市長　代議士　尾崎行雄

◎愕堂の前半生は、卓厲風發だが、其後半生に至つては、寧ろ愍然至極である。

◎彼れ弱冠にして、北國の一新聞に招聘せられ、宴會の席次、時の知事の上に座

を設けしめ、北國ものゝ膽を破りし如き、又常に國葬を受けずんば我れ死せじと豪語し、遂に暫時なりとも文相を贏得しが如き、大に其意氣を看るに足る。

◎又下院議員としては、曾て屢々民黨の急先鋒として、議政壇上に政府攻擊演說をなし、莊重の辯、侃諤の議、一時海内の耳目を聳動せしめたものである。

◎彼の鳩山和夫等と前後して、進歩黨を去り政友會に走り、次で東京市長となるや、其意氣頓に沮喪し、亦た往年の颯爽を見ることの出來ない樣になつた。而して今や東京市民の催促を受けて、ヤット其椅子を去り、復た政界の浪人となつた。苦肉屋は云ふ之は夫人テオドラに去勢されたが爲で、彼は既に骸骨許りの愕堂となつてゐると。

國民黨第一の財政通

衆議院議員　武富時敏

◎紅木屋侯爵と渾名さるゝだけ、誠に威儀堂々たる紳士だ。若し國民黨の天下となることもあつたらば、彼は業に既に立派な藏相であつたらうが、國民黨も今の樣に微々振はないでは、未來永刼彼に椅子の廻ることもあるまい。

◎佐賀は松田正久の本據で、政友會の勢力頗る優勢だが、此中に立ち、彼の地盤は屹然として動かない處を見ると、選擧民歸依の程も察せらるゝ。

◎財政通としては、國民黨の第一人で、自稱天狗の加藤裏天などは、到底足元にも寄付ぬ。而して日比谷原頭の彼の財政演說は氣格雄大、論旨明晰、三百頭顱を悉て謹聽せしむるの値がある。

◎然れども彼の威儀、彼の辯說には、何となく態とらしい處がある。即ち天籟の自然に鳴る樣な味がない。又其人となりも、餘りに理が勝ち過ぎて情に乏しい。彼に強いて缺點を求めば、マー此位な處だらう。

膾の宿換

衆議院議長　大岡育造

◎中央新聞の社長として、大分永く蹈止つて居たが、到頭財政を持切れずして向角の每日の島田三郎と前後して落城した。但し政友會の機關として引繼いだから、多少の獲ものは殘つたらうし、又新聞の爲には莫大の惡摺もし、一種の智見も拓いたらう。

◎鳩山が衰弱し、軈て又鬼籍に上り、杉田が耄碌し、他に一寸格好な柄がなかつたので、彼は必死の運動をして、ヤット下院議長となつた。下馬評は取々であつたが、其議長振は滿更捨てたものではない、二場所も蹈んだら致堂位な値は確だ。

◎彼に人格と識見は問ふ程野暮だが、唯長く政黨員として、陣笠より經へ上つただけに、中々世故に通じ政界の掛引には妙を得てゐる。

◎初めて議長となつた嬉さに、歸國して祖先の墓前で報告祭をやつたなどは寧ろ稚氣愛すべしだが、本年の選擧に一時佐々木照山に攻められて、大狼狽をやつた處は滑稽だ。

關西實業の旗頭

大阪商船會社長　衆議院議員　中橋德五郎

◎手腕識見膽略を併せ有し、關西實業界に猛虎負嵎の勢あるは、大阪商船の中橋德五郎である。彼が大藏省管船局長を休めて、民業に就きしは既に久しいことだが、當時の商船は、危險狀態にあり、今にも破滅せんとせるを、彼は社運を挽

回せしのみならず、發展又發展、遂に郵船及東洋汽船と對抗する迄になつた。

◎彼は曩に遞相に擬せられたこともあるが、其力量は、決して後藤や山本權に讓るものでない。何れ一度は、內閣大臣の列に加はるであらう。

◎金澤には故櫻井一久、早川千吉郎、三宅雪嶺等模範的人物が少くないが、就中彼は最も手應のある男だ、而して之を贅六の巢窟に祀込めた色彩は格別に面白い。

◎時々紅閨に白脛の化物を擁するが、一切の閑日月は、殆んど歐米新刊書の披閱の爲に潰して了ふ。彼の頭の硬化せざるは、之が爲めだとも傳へらるゝ。此次下院議員となつたが、什麼な啼音を、日比谷蛙の中に揚ぐるか、一寸刮目に値するテ。

辛抱の餘德

代議士、辯護士　衆議院副議長　關直彦

◎改進黨時代に、彼は尾崎、高田、鳩山の徒と雁行して、幾戰場を經へ來れる古兵だが、其割合に上達せず、モー此儘で成佛するのかと思つてゐたら、此次推されて、

下院副議長となつたのお目出度い。

◎學問人物共に言ふに足る程のことはないが、今回彼の競爭者たる加藤裏天輩より一枚上手だ。長い間辯護士たり政黨屋たりし故で、辯舌は明晰で品のよい處がある。

◎明治十六年の大學出身で曾て日報社に入り操觚の人ともなつたが、此方では到底福地櫻痴などの後塵をも拜め相になかつたから、速に退却して專ら舌の力に籍ることゝなり、明治廿三年を下院議員の初舞臺として、其後今日まで幾たびか東京市より選出されたものだ。

◎山の芋も鰻に化け、蜊蚌も蛙になる、人間も辛抱が續けば、乞食も長者になるの習だから、彼の副議長も、其爲めだとすれば、別段珍しくもない。

◎和歌山出身で馬匹改良株式會社取締役で、一寸金儲口も窺いて見る癖があるッて。

豆腐屋の成上り

衆議院議員
東洋拓殖會社理事
野田卯太郎

◎彼は前期議會では、才賀、淺羽と相竝んで、議院三大男の隨一で、身長五尺八寸體量三十二貫回院に押出しても三役角力に負けぬ體格だ。

◎筑後の豆腐屋の倅で、一人前の男になる迄には、立志傳にもあり相な苦勞をしたものだが、段々出世して福岡縣會の副議長となつた其頃其地位を利用して、三井の三池炭坑に便利を與へたのが緣となり、侯井上と昵近になり、更に桂に結び、轉じて北筑の炭坑王貝島と親しくなつた爾來彼の選擧運動費は、貝島で受込んだ相だ。

◎常識に富み、萬事に要領を得て、且つ膽力もある。故に少々な學問才氣を負へる政黨員等は唯一押に押潰されて了ふ。

◎當年六十の坂に上り、永江純一とは同鄕同庚同黨で又最も親しく、相待つて北九州に重きをなしてゐる。

◎一時勸銀總裁に擬せられたが、之は適任らしかつた。俳句を好み大塊と稱してゐる。年は稍老いて來たが、元氣旺盛で、是れから大に其武者振を示すだらう。

◎彼の質は鐵無垢位には踏める、百錬其功を奏して需用無邊な譯だよ。

未來の藏相自撰

代議士　早川鐵治

◎彼は岡山生の男で、札幌農學校を出たが、一向農學には力を用ゐず、專ら政治外交を研究し、爲に三ケ年も米國留學をやつた。

◎外務の小吏より鰻上りに政務局長までなつた。阪谷芳朗、奥田義人、添田壽一などは、大學豫備門での同窓生で、又頗る懇意な方であつた。彼等が皆大臣次官の地迄行つたから、彼とても其儘官途にあつたら、無論大使や次官位にはなれたらう。

◎然るに元來磊落放縱の彼には、ソー永く窮屈な官海游泳は出來ない、政務局長を打留として野に下つた、サテ野人となると、游泳の呼吸が全然違ふから、彼も一時は大に逡巡閉息した。が何を是式の事がと腕に捻をかけて奮闘したものだ。其より滅切〳〵と賣出し、今では慥に實業界の幕相撲となり、財力名望兩つながら隆々とあがつて來た。

◎試に彼が關係事業を竝べて見ると、略下の如きものである。小樽材木、帝國肥

料、牛莊取引所、日本製粉、日本倉庫等の各會社で、何れも其重役である。此調子で進んだら、更に現位置に倍する位迄は行くだらうが、彼は別に政治上の野心がある。

◎曾て銀座の本國堂に觀相させしに、彼は未來の大臣の相貌を帶びてると云ふので、喜ぶまいとか、マルデ有頂天となり、逢ふ人毎に自惚談をなし、果ては夢に大臣を視た程だ。之ある哉〳〵、本年の總選擧には、政友會より打て出て、對馬に國民黨の飛將福本日南を破つて、見事に月桂冠を上げた。實業界の新選良として、彼は大阪の中橋徳五郎と相對して慥に議場双璧の評がある。

◎財力權力併せ得るのが、當代人物の標的たる以上、彼も一歩〳〵に其射距離に入つて來たものである。彼れ當年四十八、天下の事を定むるは是れからだ、好漢更に奮一奮せよ。

◎頃日もう大臣にでもなつた積で、家人等に御前〳〵と呼ばしてる相だ、是は山本藏相が、本年は豫算難で辭職するだらう、其跡釜は己に極つてると云ふ寸法な相だが、チト早手廻じやないか、本國堂も聞いて呆れるよ。

銅價相場で人物も高低する

衆議院議員　坂本金彌

◎彼は四國方面の銅山で成功し、一時は政界に花柳界に、ドシ〳〵黃白を蒔き大に名前を賣出したが、頃者銅の方が面白くないと見へて、彼の呼聲が下火になつてきた。

◎銅價に高下ある如く、彼が銅を以て賣出したとすれば、又其下落と共に滅入つてくるのは、自然の成行である。

◎表面に活躍はしないが、裏面の潛勢力は、未だ中々侮られぬものがある。其幕下としても、西村丹次郎を初め數名を算し、率となれば何物にも、一刀酬うるの覺悟もあれば、氣魄もある。

◎山師で政界に乘出し、一時名聲を轟かしたものに、故平岡浩太郎があるが、彼は才と勇とあつて、且つ舞臺で躍ることが好であつた。坂本も山師で、政治に指を染むる處は相似てゐるが、之は樂屋で仕事をする方で、彼の舞臺面を事とするのとは、大に趣を異にしてゐる。兎も角も岡山では犬養に亞ぐの立物である。

多才身を過る

衆議院議員　鶴原定吉

◎領事、日本銀行理事、大阪市長、朝鮮總務長官等に歷任し、種々なる方面に活動したが、那の方面にも可ならざるなく、相當の成績を擧げた處を見ると、彼は全く才の人だ。

◎此次福岡で、玄洋社の老將進藤喜平太と戰い、危い處で下院議員となつたが、サテ議會の働振は什麼なものだらうか、政友會でも彼を部將扱にするだらうから、或は面白い藝當を演ずるかも知れない。

◎才人の常として忍耐と執着がない、彼も此原則に準じて境遇は頻繁に轉輾したものゝ、何一つ成功したものはない。

◎然れども彼は性來淡泊洒脫な男で、惡錢も貯めない、虛名にも急らない、到る處に人に愛せらるゝの德を有してゐるが、就中化粧のものに最も好るゝ相だから、之は用心が肝要だ。

小福堂

衆議院議員
古川鑛業會社理事　岡崎邦輔

◎智略あり且つ男らしい處は、犬養木堂に酷似してゐる。政友會も選擧毎に陣笠の數は殖ゑるが、彼の如き男は、滅多に入つて來ない。

◎彼の畑は紀州で、判骨の多い處だ。故伯陸奥に引立てられ、其關係より星と親しく。遂に政友會に於ける、樂屋策士のチャンピオンとなつた。

◎陸奥の遺紀念が、入つて古川銅山王の跡目となる。彼は隨つて古川鑛業會社の理事として、其後見役となるのは、自然の順序である。而して原敬は彼と結び、此に彈藥の補給を得。彼は亦た原に依つて、野心を政界に逞せんとする、繩も絢らなければ、用をなさぬものだテ。

◎彼の下院議場にあるも、未だ正々堂々の議論を聞かない。紛糾せる政界の諸問題に對しても、亦た其矢面に立つて、血戰したことはない樣だ。徹上徹下幕裡の智者、樂屋の策士だ。蓋し頗冠して一寸女を摘み、其尻を傍の痴漢に拭はするか如き藝當は、朝食前のことならむか喝。

是でも政友會の名士

衆議院議員　伊藤大八

◎現今星の乾兒で名を成せるものは、森久保作藏、利光鶴松、日向輝武、山口熊野、井上敬次郎、菅原傳等十指を僂むるも猶餘りあるが、伊藤大八の如き、亦其中の一流に位するものだ。

◎星は一種の人傑だつたが、事を成すに手段を擇ばず、人を養ふに人格を問はなかつたから、所謂乾兒は殆んど鷄鳴狗盜の徒計だ。

◎彼れ大八も黨人としては古顏で、一寸小才も利く、度胸もあるので、烏合の衆を馭するには、必要缺くべからざるものらしい。

◎彼が奥繁の前の幹事長の遣口に見るも、中々什麼して隅に置けぬ捌方をやつた。今では彼も首領株で、金も貯る、男も賣れる、先づ身分不相應な出世とも云ふべしだが、兎角人は椽の下の力持を厭はず、辛抱が第一さ、

◎某待合と某旗亭、彼が采配を仰ぐものも少くない、而して彼は此處に遊び、之を肝養るのか好だ。其眞面目は、這麼な處から窺くが捷徑だらう。

下院の叔孫通

法學博士　衆議院議員　鵜澤聰明

◎今の下院法曹家としては、彼と花井卓藏がオーソリチーだらう、袍の長島高木、松源の徒は到底兩者と太刀打は六づかしい。而して兩者とも人格の高潔で、頭腦の玲瓏な處も克く似てゐる。

◎曩に朝鮮制令權問題で、彼は政友會と議合はず、一時脫黨せんと迄激昂したが某々等の慰撫を得てヤット思止つた位で、清濁混淆の政友會の如き大集團中に彼あるは、塵埃堆裡に珠玉を見る樣だ。彼の立場よりすれば、其中に捲込れて、均しく濁波を揚ぐるの可否は考物だ。

◎彼は由來溫良の君子で、鬪將としての資格に乏しい。故に平時の叔孫通としては適任だが、有事の秋に迅雷的の腕を輝ふことは六づかしい。

◎不得要領寺の正久入道は、彼が渴仰の本尊で、其一言には大抵な不平をも嚙潰して了ふ。蓋し這は相互の德性の感通とも云はむ歟。

◎彼は土臭くて、拜金熱の強い千葉生だが、毫も其氣のない處が千萬兩の値だ。

國民黨の爆裂彈

日本生命保險會社々長　代議士　片岡直溫

◎關西實業家として、錚々たるものゝ一人だ。兄直輝は電鐵敷地の事で、大分醜聲を洩してるが、兩者の性格は酷似した處がある。

◎彼は曾て師範學校を卒業し、警部長を勤めたと云ふ位だから、其學問官歷は語るに足りない。が謀叛氣もあり、度胸もよく、才氣もある。加之に自由黨の盛なりし頃、高陽會を起して之に抗したこともある程だから、一筋縄ではいけぬ男だ。

◎國民黨創立の一員として、仙石貢と共に、其兵糧方を勤めたが、兩者共に一面官僚系に款を通せるものとされ、或者には國民黨の爆裂彈として危險視されてゐる。

◎保險屋の親爺で、政黨屋を兼ねたる彼は、勿論保險が主で、政黨が從だ。卽ち主なるものゝ便宜を得んが爲に、從の看板を買つたのだ。猶岩下清周の議員に於けるが如きものである。今春の議場で、山本瘧相に喰つて掛りし如き、稍氣焰の

稱すべきものあるも、一皮剝けば亦た一山師にしか過ぎない。

蟹甲將軍

衆議院議員　井上角五郎

◎彼は拜金宗の本山慶應義塾出身で、且つ海外出稼の問屋たる廣島の產で、其卑吝惡辣の凡を代表した樣な男である。

◎痘痕滿面で、天下の公道を橫に行くと云ふので、蟹甲と稱されてゐるが、彼の蟹甲たるは、獨り其のみでなく、猛烈の敵に遭へば穴中に遁れ、虛の乘ずべきものあれば忽ち出でゝ掠奪をやると云ふのが、最も適切の評だ。

◎曾て官僚の爪牙の積りで、中央派であつたが、北海道炭坑問題で、一向當局のものが援けて呉れぬので、忽ち節を變へて政友會に走つた。

◎名を賣り功を成す上には、能く財を散ずるが、之に反して隱德的の事には、鏹一文も出さぬ。故に我が選擧區には惜氣なく黃白を蒔いて、ご機嫌を取り、又最愛の山の神には、常に千金を捧げて悅を買ふことに努めてゐる。

◎機才辯舌共に一頭地を拔いてるか、何分にも人格下劣でお話にならぬ、如何

にして之を濟度せば可ならむか。南無、畜生發菩提心。

特殊部落の隊長

衆議院議員　安達謙藏

◎大浦兼武が中央派の首領なれば、彼は副首領だらう。前桂內閣時代に、彼の鄕里熊本に歸るや、揚言して曰く、大浦農相の官邸は、安達の事務室同樣だ、而して次官祕書官亦た我がご用を奉ずるものだと、彼が鬼面を被つて選擧區民を服せしむるの術見るべしだ。

◎彼は故佐々克堂の稍小型なだけで、其性格、行動共に頗る彷彿した處がある。而して國權黨の變化したる、中央倶樂部を提げて、兎も角も一縣下を靡服せしめる點は、豪勢なものだ。

◎彼は相當の學殖あり、手腕あり、德操あり、優に一方の雄たるの資格あるに拘はらず、何を苦んで閥族の爪牙たり、吏僚の走狗たるや。好しんば官僚の天下となるも、內閣の一椅子だに割取さるゝにあらず、依然として陣笠の親玉で世には糞味噌同樣に惡罵さるゝとは、情ないぢやないか。

◎事大主義で國を亡し、身を過つたものは少くない。今の時に於て彼亦た大に出處進退を熟考すべしだ。

京都府の一勢力

衆議院議員 辯護士 奥繁三郎

◎政友會幹事長として、幾多先輩を凌いで、選任されたる處を見れば、彼の凡骨ならざるを知るに足らむ。

◎彼は京都府下の一寒村に生れ、初め師範學校を出で、小學教員たりしも、永く草莽に埋るゝを慨して、私立法學校の講義錄に由つて、法律を研究し、受驗を經て辯護士となり、爾來漸く政界の活舞臺に上つたのだ。

◎腕はあるが高潔な男じやないで、出世の第一歩として惡錢を貯め、其より舞鶴軍港、遊廓、移轉京都府政等に關係して、巧に奔走し、次第に地盤を築き、遂に抜くべからざる一勢力を作つた。

◎政友會に入つてからは、西園寺直參の一人となり、近來滅切男振を上げて來た。彼には何等學識の特出せるものはないが、氣膽聊か人に超ゆるあり、又衆を

纏むるの才幹がある。今の調子で發達し行かば、十年の後には優に幕相撲の上位に立つ樣になるだらう。

奥繁と好取組

前衆議院議員 服部綾雄

◎耶蘇坊主の成の果で、曾てシャートルで日本人會長などをしてゐたことがある。其頃大分小金を貯めてゐたと見へ、此前の選擧などは其で爭つたものらしい。

◎犬養直參で、腕もあり、辯力もあり、多少の學殖もある點より見れば、奥繁の原敬に於ける樣だ、而して兩者の力量は殆んど互角なものだらう。

◎靜岡の貧乏士族で、曾て岡山に中學校長をしてゐたとの緣故で、前議會には岡山から選出された程の男だから、中々一筋繩で行くものぢやない。

◎シャートルでは、彼も大分幅を利せてゐた者と見へ、今猶米國歸の百姓どもが、彼の名を記して其偉なることを稱してゐる。是位ならば、彼は寧ろ移住地の土となる方が可なりしならむ。厭迫の強い彼地では、彼の如きは重要人物だ、而

も之が内地に歸れば、同じ樣なものは幾何でも圍栗の背比べをしてゐる。殊に横井、金森金尾など、坊主の俗化したものは、餘り結果も可くないじやないか。

唐辛子位に利ける

衆議院議員
東京市助役
田川大吉郎

◎多少の政見もあり、氣力もあり、事務の才もある。人格は小さいが、役に立つ男だ。而して明治二年生で、元氣最も旺盛の時だから、まだ大に進境がある。

◎早稲田大學出で、基督主義で、都新聞記者となり、鄕里長崎より選ばれて議員となり、東京市助役となる、之が彼の行逕の一般である。

◎痩形で風采の揚らぬ、取付の惡い男だが、近年俗吏となつてより、大分圭角を磨落したものと見へ、應對振なども圓熟して來た樣だ。

◎然れども時として滿々たる壯心の勃發することあり、他との衝突を免れないが之が即ち其進境の餘地ある所以で、衝突全滅の時は今日の如き活氣ある彼を見ることは出來ないだらう。

◎彼の辯說は條理もあり、熱氣もあるが、情味に乏しい、今一段の修練を得たいものだ。兎も角も空拳より起ちて、今日あるに至れる、彼の努力は亦た稱するに足るのだ。

財通の一人

代議士
町田忠治

◎本年の新代議士として、注目に値するものは福岡の鶴原定吉、對馬の早川鐵治、大阪の中橋德五郎及秋田の町田忠治位のものだらうとの評がある。

◎彼は大學選科を出でゝ、東洋經濟雜誌を發刊し、伯大隈の知遇を得て洋行し、彼地經濟狀態を研究し、歸朝後日本銀行に入り、樞要の一椅子を占めしが、鶴原等の山本と衝突するに及び、連袂勇退し、更に大阪山口銀行に入り、其理事として最近に至つたのである。

◎贊六の中では、彼は中橋德五郎等と同じく、剛骨を以て稱せられ、且つ大阪銀行組合委員長として、大に氣焰を揚げたものだが、一方に反感を買つて、多少の批難排擊を受けた。

◎山口銀行の今日あるは、彼の力に籍るもの多からうが、彼の今日あるも、亦た

其爲で兩者相待つて効を爲したものだ而して同行當主の歐洲より歸朝するに及び、議合はずして辭任したが、猶覇心滿々たる彼は、是より政界に如何にして光彩を放つか、一寸刮目に値するものがある。

往年の杉田鍍金係

代議士　海軍大佐　八田裕二郎

◎往年杉田定一が、議會で屢々海軍行政を攻擊して、海軍通の名を博し、福本日南が海軍の一著、一時海内の耳目を牽きしが、種の出所は、時の休職海軍大佐八田裕二郎であつた。

◎彼は福井の産で、海軍第一期の留學生として、大將東郷等と共に、英國に留學し、且つ膽才兩つながら水準を拔いてゐるから、穩當に勤上げてゐれば、業に既に大將株になつてゐたらう。

◎然るに薩閥全盛の海軍のことゝで、事毎に暴慢壓迫の點多く、骨鯁の彼には我慢がし切れず、遂に爆發して、時の軍務局長の權兵衛と衝突して、彼は休職となつたのである。

◎當年耳順の坂を越えてゐるが、體力意氣共に盛で、本年の選擧には敵將山田卓介を追落して、政界の陣頭に立ち、二十年來骸骨の氣を吐かんとしてゐる、杉田既に上院に葬られ、日南敗れし今日、彼の出陣は最も振つてゐる。

電氣のお蔭

衆議院議員　電鍍會社重役　才賀藤吉

◎電氣屋の小僧から成上げて、今では幾多電氣會社の大株主となり、成金黨の一人となつたが、彼の財産は、負債を差引すれば零となるとの評もあるが、何でも漢でも、其巨大の胴體相應に、實業界に飛躍してる所が生命だ。

◎本年の選擧に、復た愛媛縣から、最高點で當選した、彼も賀田金や梅原龜七等と均しく、數萬金を擲つて買票したので、選擧民は金に跪拜したのである、之では我が立憲政治も、頗る不安千萬なものぢやないか。

◎電氣業にかけては、彼も老練熟達であらうが、政治には聾盲同樣なものだ、彼は代議士てふものが、餘程名譽なものゝ如くに思惟して、競爭もしたらうが、之は其人物次第で、役にも立つが又害にもなる。

◎彼の如きは寧ろ議會の無用物で、選擧區の面汚しで、又本人の不得策此上なしだ。那麼な穉氣と衒氣は、早く拔にして、眞正の實業家として、更に大に雄飛するのが緊要だろうよ。

俄政治屋

衆議院議員
東京印刷會社其他五六會社重役
星野錫

◎眞面目なる實業家で、溫良恭謙讓の君子人に近い方だ。勿論彼として相當に本能慾もあることゝて、昔は屢々爛燈影暗き室に、虞氏の淚を濺がしめ、或は箕踞相圍んで花牌を弄したこともあるが、年月自づから人を濟度して、今は大眞面目の紳士となつたのは目出度い。

◎生粹の江戸つ兒で、印刷製本業には久しき經驗を有し、遂に其を以て志を成すに至つたのだ。政界は初土俵で、什麼な藝當を演ずるか未知數だ。

◎近來議院も著しく元氣消沈し、膿汁臓腑に漲ると云ふ光景だから、各方面より新顔議員の選出されたのは、兎も角も吉兆である。

◎然れども政界には、黨閥あり、情弊あり、排擠あり、欺瞞あり、暗鬪あり、其御し難

きこと行き難きこと、決して賢實なる實業界を渡るの比にあらず、彼須らく緊褌一番すべし、然らざれば單木偶となつて、員に過ぎざるのみならむ。

華族界のレコード破り

川崎造船所社長
代議士
松方幸次郎

◎ヤンキー型のチャキ〳〵で、往年米國より歸朝するや、公伊藤は、彼に式部官たらんことを以てせしも、彼は笑つて之を辭し、爾來實業界の人となりしが、後推されて神戸商業會議所會頭となり、次で現地位に立つ樣になつた。

◎彼は侯松方の三男だが、極めて平民的で、常識に富み、事務に練達せる才子である。近年神戸新聞を經營し、又新代議士と云ふのだから、所謂鬼に金棒で、勢力隆々として旭日昇天的だ。

◎然るに一昨年故櫻井一久の補缺戰で、彼は七萬圓の軍用金を投じて、貧寒の狀師野添宗三と鹿を爭ひて、見事に落選したことがある。當時世人は、金權の末

だ神戸人を腐化せざるを以て、多としたものだ。

◎我元老連の伴共は、概して愚息計りなるに、獨り侯松方の多子なるに拘はらず、賢息の少からざるは、聊注目するの値がある。今の調子で進まば、他年實業界の元老たることも出來樣て。

小頭山

九州日報社長
代議士
大原義剛

◎大原義剛は、目下頭山幕下、第一の股肱とも云ふべく、體量二十何貫の、大兵肥滿の好漢だ。曾て慶應義塾に學び、政治經濟の大體にも通じてゐる。前一度下院議員となつたが、二三ヶ月で議會解散のため、其後久しく浪人生涯を送てゐた。

◎一昨年頃、森山吐虹の後を承けて、太平洋通信社を主宰してゐたが、昨年に至り、彼が鄕里福岡の九州日報に入り、其社長となり、本年の總選擧には危い點數で當選の一人となつた。

◎武骨で鷹揚な男だが、割合に算數的頭腦があり、玄洋社仲間では、最も緻密家として推されてゐる。だが彼の算數も畑水練な處が多いと見え、曾て日露戰役

中、筑紫組てふ漁業團を組織して渡滿したが、之は見事に失敗したものだ。

◎辯は訥で、其擧措もテキハキしないが、何處となく愛嬌もので、膽力も確りしてゐる。で頭山杉山、故大河内輝剛等には、大に負にされたものだ。彼は固より嚢中毎時も、金氣の乏しい男だが、卒鎌倉と云ふ場合には、其等三者の懷に飛込んだものだ。想ふに福岡縣に於ける、前度の下院議員候補者の平均費用は、八千圓であつた相だから、今回は少くも一萬圓には上つたらう。之を金氣乏しき彼が兎も角も調辨して、一鹿を擒にしたのだから、其手腕亦た侮るべからざるものがある。

◎彼れ元來筆舌の人にあらず、殖産興業の材にあらず、其親分的にして、小頭山たる處に、生命を託するものだ。故に今の下院議員の役廻位が最も適任だらうか。然りとて議場の雄となることは六かしい、で幕裡の立廻などには面白からう。回首すれば今の日本には、此種の人が中々多い樣だが、之も速成科卒業の文明國に、有勝の現象である。

◎彼も柄にない艶聞がある。其は往年の戰役に漁業團長として、大連へ出征の

際ッヰ出來合つた戀中で。今でも時々彼を福岡に見舞つて呉れる相だ。見舞は れる人は、定めし隨喜の涙を溢すだらうが、之を聞かされる山の神は、嘸つらかんべい。

◎第一總選擧以來、彼も玄洋社の健兒として、大暴れに暴れたものだ。就中朝鮮に於ける、天佑俠の一擧は、其最も豪快なるものゝ一だらう。

◎彼は頭山、杉山等に私淑して、親分になるのが大好だ。ダガ一方に財力を有せざれば、親分たるの實を擧ぐる能はず。彼も之を知るが故に、從來之を作ることに於て、多少の苦心はした樣だが、畑に鰻は育たないので、遂に其念をも絶ちしものゝ如く、今や新聞經營にのみ刻苦してゐる。財政窮迫の九州日報をして、今日あらしめしは、彼の力の大に存する所だが、果して之をして理想通に發展せしめ得ば、彼が大好の親分たることは、期せずして到來するであらう。

隻眼片鱗

（二）

◎高木益太郎は江戸ッ兒で、狀師界の花形役者だ。本年は日本橋を根據として鹿を逐ひ、最高點で當選したが、議場の掛引は何等見るに足らない。而れども彼の將來は猶悠々たるものだ。

◎江間俊一は手取相撲だが、頃者一向に其名が聞えぬ樣になつた。多分花よりも、團子の方に凝つてるのだらう。

◎高木正年は盲者だが、中々のお喋りで、島田三郎も裸足で逃出す位だ。選擧民には意外の信用があり、毎度當選に洩れない。本年政友派運動員等は、彼を屁込まさんため、其演說場の隣で胡椒を薫べて、彼を困らしたが、彼はコッ〳〵咽びながら、到頭其目的を達した。

◎漆昌巖と金尾稜巖は、還俗坊主の一對だ。何れ劣らぬ金と名譽の奴隷だが、目方を量つたら昌巖坊の方が、少々上手らだう。

◎森久保作藏は三多摩郡の親分で、星幕下の雄である。立憲治下の政客として は、其知見も甚だ怪しいものだが、意氣膽量は確りしたものだ、少くとも動物園の虎公以上だ。

◎菊地侃二は悧怜で穩健で、關西政友派の中樞人物だ。曾て大阪府知事ともなり、二千石の名を辱しめなかつたが今や既に老たりだ。

◎神藤才一は佛國仕込の軍人出身だけに、中々腕自慢で。ムト金モヨ鐵輩には一寸も退かなかつたものだが。近來何を感ずつたか、頓に大人しくなつた樣だ。

◎肥塚龍は改進黨以來の名士だが、近來滅切老込んで了ひ。前期議會の副議長で婆婆の渡納をしたものだ。

◎改野耕三は初期以來の代議士で、沈香も焚かず屁も放らずの方だが。穩和で古いが取得で、今ぢや政友幹部の隨一人だ。

◎高橋光威は三田出身で、英米遊學もやり、唐辛子のヒリヽとした處がある。原敬の祕書となり、又吉植庄一郎と共に中央新聞の主幹となつてゐる、マー小型の原と見ば差閊へなからう。

◎大竹貫一と坂口仁一郎は、越後軍の老將だが。前者は無所屬に入つてより、光彩日々に減じ。後者は、國民黨の幹部組として重をなしてゐる。蓋し前者は射利に急なるため、特に輪廓の明瞭を缺くに至れりと、眞僞如何を知らずだ。

（二）

◎卜部喜太郎は國民派中の硬骨で、特に議政壇上の快辯を以て推されたものだ。將來の十分なる政客だ。宜しく靜に扶搖萬里の翼を養ふことに努めよ。

◎中島祐八は、群馬出身の百姓議員で、隨分古顏だつたが、今回は際どい處で落ちた。特長はないが熱心な男で陣笠の上乘だ。

◎日向輝武は星幕下の一珍で、曾て米國皿洗より身を起し。移民業で澤山溜込み、議員として、强氣一天張で通してゐる。嗚の蛇夫人と共に、近來大に賣出て來た。

◎吉植庄一郎は新聞出身で、今亦た中央新聞の幹理者だ。議員としても、時々一騎駈の奮鬪をする。人格は小いが、役に立つ男だ。

◎長島鶯太郎は千葉選出議員で、辯力雄勁、國民軍の高木益太郎に相當るに足らんか。

◎關和知は犬養の片腕と頼まるヽだけ、才氣縱橫な處があるが。本年の逐鹿には、脆くも敗衂したものだ。

◎小山田信藏は本年水戸市で、朝鮮歸の峯岸繁太郎と戰ひ、見事に之を蹴落し

て月桂冠を上げたが、彼は唯才の人で託孤の信なきものだ。

◎小久保喜七は大阪事件以來、自由黨の暴れものだが、頗る眞劍な男で、賴母しい處がある。城南と號し、一寸漢詩をヌタくる。

◎根本正は本年茨城より最高點で選出された。彼はネモ正と呼ばれ、未成年禁酒法案の提出者として古いものだ。

◎內藤魯一は、今は昔、伯板垣を刺せる相原尙褧を取押へしを以て、有名な男だが、古風を失はざる眞の壯士で、一貧生涯を終つたものだ。前々議會で、彼が憲政建設の氣焰を吐いたのが、恐く其棹尾の一節だつたらう。

◎清水市太郎はバリストルの肩書を有し、屢々下院で辯說を揮ふが、氣魄なく重味なく、廉ものゝ蓄音器を聽く樣だ。

◎八束可海は中央倶樂部の若武者で、中々多情な才物だ。

◎大野龜三郎はお味方黨の一員としては、第二期の選擧以來續出したもので、政客としては、何時も愚圖〳〵だが、利を射るの敏なること、鳶の油揚を掻ふ樣だ。議院は則ち沸揚の覘ひ場だ。

（三）

◎小川平吉は政友軍の一裨將で、多少の俠骨もあり文字もあるが、本年は意外の落選をした。彼の人品骨柄は、小久保城南に彷彿してゐる。射山と號し素人天狗の詩作家として亦た互角だ。

◎翠川鐵三は叛骨もあり蠻骨もある男だが、近年黃白宗に門を換へたらしく、往年の意氣を見ない。

◎中村彌六は昔背水將軍として勇名なりしが、一たび布引丸事件で醜名を流し、續いて穢多村に籍を移して以來、天下亦た彼を說くものがない。

◎管原傳は星の幕下で、日向山口等と均しく移民の血を吸ふた方だ。訥辯だが何時も當選して、議事進行係と目されてゐる。

◎齋藤二郎は政友派の矢尻屋だつたが、今次は落選した。曾て星の祕書でボーイ代りを勤めたものだ。

◎遠藤良吉は、又の名ズブ州と稱し、何時も酒を被りて、議場に怒鳴るが、之がホンの附燒刃で、其森々たる長髯の如きは、亦脅しの一武器にしか過ぎない。

◎長晴登は、政友陣笠組の飛上りものだ。古い壯士だが、立廻りが悧口で、今猶調法がられてゐる。

◎守屋此助は喋郎先生の亞流で、喋べる外は、金儲が命から二番目のお道樂だ。

◎福井三郎は小才の廻る男で、進歩黨から政友に走つたものだ。議院よりも待合の女將などに幅が利き、時々其臍繰を捲上ぐるとは罪なことだ。

◎橋本太吉は三田出身で、尾の道唯一の長者だ。品格のある紳士で、前途矚目するに足る。

◎古島一雄は古い新聞記者で、今は萬朝報と日本及日本人に執筆してゐる。寸鐵的の批評は巧だが、お喋は餘り旨くない。本年は理想選擧で當選し、大の得意だが、之は、三宅黑岩の餘光だテ。

◎花井卓藏は刑法博士として、又議院の立法學者として、一頭地を拔いてゐる。氣力あり識力あり辯力あり、慥に當代の曉鐘だ。

◎荒川五郎は官僚の走狗となつて、大に努めてゐるが、其割合に頭が上らぬ。彼の如きは、才あつて識なきものだ。

◎村松恒一郎は記者出身として、前議會には多少注目されてゐたが、今次は落選したものゝ、成田榮信の選擧違犯の判決如何で、或は其跡に据るやも知れぬとて、ヤキモキしてる相だ。

◎大內暢三は故近衞公の知遇を得た程あつて、極めて思想の堅固な處がある朝鮮事業に腐心し、朝鮮通として議院に重をなしてゐる。

◎箕浦勝人は進歩黨の古參で、報知新聞の社長だが、由來可もなく、不可もなく平々凡々で押通して來たものゝ。最早夕陽西山に沒せんとし、彼の影も薄きこと幽靈の樣だ。

◎木下謙次郎は犬養との喧嘩で名を揚げたが、到頭穢多村に走り、竊に風雲の會を待つてゐる。隱險狡智だが、少々功名に急り過ぎて却て躓く。

◎井上敏夫は政友會唯一の海軍通で、海軍少將の古手だが、氣焰更に揚らず、此儘成佛の仲間だテ。

◎中島行孝は新顏議員中での唯一老人で、何でも瞑途の土產に、月並の肩書を取つた相だが、其でも雛妓征伐と、金儲には今猶餘命を忘れて、ご熱心なだとサ。

三　財界百鬼

黄金萬能、之あれば華族にもなれる、大臣にもなれる。況や美人宏屋、錦衣玉裝は皆其心の儘だ。血の氣の多い、慾氣盛りの餓鬼連が、夢寐にも、之を忘るゝ能はずして狂奔するは、南無、理り責めて、憐なりと謂ふべしだ。

實業界の覇王　第一銀行頭取男爵　澁澤榮一

◎青淵先生澁澤榮一の名、今や天下に籍甚す。彼の財界に於ける位置は、曾て政界の伊藤敎育界の福澤の如きものありしが、老來大に悟る所あると見へ、幾多の關係事業を退き、唯一つ第一銀行を董督するのみにて、全く隱居役の地に立つ樣になつた。

◎青年の奬勵より、財界政界の忠言者たること、恰も伯大隈の早稻田學園に據り、常に天下國家のために、苦言忠言を絶たないのに似てゐる。

◎彼れ少小にして武州の僻邑より起りて、維新の宏業に參與し、吏として大藏省にあり、野にあつては專ら經濟界の牛耳を執り、兎も角も有終の美を濟せる

大立物たることは、天下の業に既に熟知せる所だ。

◎產を作ること、彼よりも多く、名を成すこと、彼より幅廣きものあるも、實際國本培養の功を積めること、彼の右に出づるもの、自今幾人かある、即ち其今日あるは決して偶然ならざるを知るべしだ。

塵積んで山を成す　銀行王　安田善次郎

◎澁澤は寬仁小度、安田は殘忍大度の評があるが、之は克く肯綮を穿つてゐる。

◎彼は見込が立てば、株劵でも何でも思切つて金を貸す。例へば雨敬の將に破產せんとする時、又鈴久の鐘紡株に融通せる如き、到底尋常銀行屋の斷行し能はざる所である。即ち彼は一種の大思惑師にて、而も其が的中に的中を重ねたのだ。

◎曾て東京に於ては、三井、三菱第百、第十五、第一の五大銀行を第一級とし、安田銀行は其下風に立ちしが、今や一躍して、彼等を厭倒せんとしてゐる。且つ全國に、其下銀行、關係銀行の多きこと、他に其類を見ざる所である。

◎全國富豪鑑を作らば、三井・三菱を東西の兩關とし、彼は少くも、三役を下らぬ位置である。

◎彼が少時、富山より飛出して東京に來り、日本橋の鰹節問屋の丁稚となり、爾來千辛萬苦して、現位置を築けるを回顧せば、感興果して奈何だ。節約、勤勉大膽は彼が成功の信條である、天下彼の後塵を拜せんとするもの、宜しくこの信條に準據すべしだ。牡丹餅は決して無暗に、棚から落ちて來るものぢやないテ。

至誠一貫

海外貿易商
森村銀行頭取
森村市左衛門

◎日本商人の常として、殊に外國人相手のものは、其取引の初には、品質も善く價格も相當なものを送り、漸く信用を得んとするに當り、頓に劣惡の品を混じて暴利を貪らんとし、或は全然外商を引倒すが如きもの、年々比々として輩出し、國運隆昌の一方には、燼にこの忌むべき惡印象を加へつゝある。

◎然るに彼れ森村は、最も此點に注意し、明治初年より現今に至る迄、至誠一貫し、邦人の外國貿易を營むものゝ中に、彼程の信用を持してゐるものはない、

◎且つ彼は特立特行の精神に富み、保護貿易の恩典などを受くるを屑とせず、久しき間、奮鬪に次ぐに奮鬪を以てして今日の富を成したものである。

○目下彼は內地は勿論紐育等に幾多の店舗を有し、雜貨輸出額一ヶ年三萬噸に上ると云ふ。

◎性、溫厚篤實、邸內に小學校を設け、或は慶應・早稻田・高千穗・女子大學其他孤兒院等に資金を義捐し、育英を老後の樂としてゐる、其高風亦た欽仰するに足る。

箱屋迄下つた時もある

日本銀行總裁
男爵
高橋是清

◎彼は野田・才賀等に讓らぬ大入道だが、割合に神經過敏で、局量狹小である、故に總裁男爵は餘程貴いものと自惚れ、老來頗る傲慢不遜になつてきた。

◎彼の前半生は、宛然たる小說中の人で、幼時仙臺藩より秀才として米國に留學せしめられ、留學中、惡漢に誘拐せられて、奴隸に賣飛され、愈々地獄の底に落ちんとするを、偶〻渡米中なる富田鐵之助に救はれ、歸來語學教師となり、大學生となりしも、素行修らず、遂に藝者の箱屋迄淪落したものだよ。

◎次で秘露銀山採掘の主任に撰擇されて渡航せしに、全然米國詐欺師の飜弄する所となり、發起人前田正名以下彼をも併せて大敗亡をした。此に於て再擧珈琲栽培を企てたが、復又敗衂し、遂に農夫となつて田舍蟄伏と決した。

◎偶〻、時の日銀總裁川田の知る所となりて日銀に入り、進んで正金頭取となり。日清日露兩役に功多く、爾來順風で押通し、昨年目出度現地位に漕付けたのだ。人物拂底の折柄につき、今少し謹愼周到の態度に出でなば、他の惡罵を免ることが出來樣て。

細心に過ぎ大膽なる能はず

興業銀行總裁　法學博士　**添田壽一**

◎彼は福岡縣下の一貧家に生れ、幼時は大に苦勞したもので、筑紫山濤の名を以て、筆を担いで巡歷したこともある。當時の彼は神童と稱せられた。

◎後大學を出で、大藏省に入り、大藏次官迄上り。其より臺灣銀行總裁となり、現

地位に轉じ、先般日佛銀行の爲に渡歐したが、彼も既に午後三時位な相場だらう、老後の思出に男爵でも得させたいものだ。

◎明敏細心で、何をさしても器用な男だが、膽略機才に乏しいので、到底有力なる政治家たり活發なる事業家には適せない。

◎學者たり、銀行家たり、教育家たるには、存外好模型かも知れぬ。一體神童などと呼ばれたものに、碌な人物はゐないものだ。多くは唯小才の利いた小僧で、膽、豆の樣なもの計りだ。彼は流石に秩序能く勉强したゞけに、學問も出來、事務にも練達だが、其器格は矢張豆僧の仲間だ。

今樣布袋

三井銀行常務取締役　**早川千吉郎**

◎溫容春の如き其風貌に示せる如く、彼は極めて圓滿なる性格を有し、現に嫌なことを持込れても直に之を謝絕し能はぬ程な佛性である。

◎金澤出身で、明治二十年に內田、林田、林、一木等と均しく帝大を出たもので、大藏省に入り、祕書官となり、參事官となり三十三年迄勤續し、同年退官三井に入

り、累進して現地位に上り、大藏大臣として、益田孝に亞ぐの勢力を有してゐる。

◎松方及井上は、彼が當初よりの親分にして、彼の今日あるは、一に兩侯の推挽に因るものである。而して彼の圓滿性に加ふるに、頭腦穎敏で、事務熟達、且つ何人とも調和し得れば、其銀行に於けるも、池田、米山の兩理事と克く一致抱合して、自づから盤石の基礎を築いたものだ。

◎彼も官海に乞食生活を今迄續けてゐたらば、次官或は大臣格になれたかも知れないが、溫厚醇良一天張の彼には、到底快刀亂麻の働は六づかしいから、マー長者の白鼠格が、一番安全で格好な處だらう。

三井家大宰相

三井合名會社顧問　益田孝

◎彼は其頰肉の豐下せる如く、常識に富み福德圓滿なる質にて、三井家には大功績あり、其大宰相を以て目せられてゐる。

◎佐渡の孤島に身を起し、夙に上京して先づ外國事情を研究し、開國論を主張し、當時麻布善福寺にありし、米國公使館の番兵などを勤めたことがある。

◎明治初年井上馨に知られ、大藏省の造幣權頭などになつたこともあるが、後井上と共に退き、井上の先收社を起して、外國貿易を創始するや、彼は其副社長として大に奮鬪した。

◎次で井上の推擧にて彼は三井に入り、先收社は變じて三井物產となつた。爾來三十有餘年、物產支店は世界の要地に散在し、今や我が外國貿易の王として立つてゐる。

◎彼れ能く人を鑑拔するの明あり、其感情を捨てゝ一に理性を以て斷ずるが故に過誤が少い。故中上川の如きも、彼の大に推挽して其功を成さしめた所である。

◎彼の弟に克德英作あり、嗣子に太郎あり、此彼の資質を稟けて、圓滿長者である。而して彼今三井家の顧問として、靜に風月を樂み、骨董いぢりに餘生を送つてる樣だ。

鍍金の鯱

東洋汽船會社長
淺野セメント會社長　淺野總一郎

◎彼は越中富山の醫者の家に生れたが、其が嫌で家を飛出し、横濱開港當時におでん屋、氷屋、竹の皮屋など種々浮身を窶して奮闘したが、先づ瓦斯コールタで大當をなし、其を資本に永き間の辛抱で、到頭日本富豪の列に入ることゝなつた。

◎東洋汽船及淺野セメントは、彼が事業の骨子で、此他猶幾多の事業に關係を有し、死に至るまで矻々として休まないのである。

◎近年高輪臺下に鍍金の鯱を戴ける宏大な樓屋を作り、大に世に誇つてゐるが、其俗醜驚くべき計りで、彼の心情は餘蘊なく此建築上に發露してゐる。

◎昨年は本所で、セメント工場移轉問題を惹起し一時は大騒をしたものゝ、結局條件付で埒は明いたが、同じ問題は門司にも飛火し相である。（但門司にも彼のセメント工場がある）

◎此の如く金を作る爲には、手段を擇ばず猛進するで、時々鼻梁を折られる、而して目的を達した結果は、金殿を作り、美人を蓄へ、飽くことなき本能慾を充たさんとするのだ。咄、彼の値も亦た知るべきのみだよ。

財産の三分

大和の土豪　土倉庄三郎

◎日本の土豪として最も聞えたるものに、越後の市島德治郎、山形の本間、伊勢の諸戸及大和の彼がある。

◎彼は大和の山奥吉野郡大瀧村の住人で、世々其地方に雄視せるものだが、彼の所有山林は十數里を聯ねて繁茂し、謂ゆる吉野杉は多くば彼の林中より伐出されて、灘、伊丹の芳醇を醸すの桶材となるのだ相だ。

◎全財産を三分して、一は子孫に、一は國家の有用事業に、一は教育事業に投じたいとは彼の生涯の信條で、彼は着々之を實行し、其附近の幾村に幾多の小學校を建設し、且つ俊秀の材は諸方に遊學さしてゐる。

◎曾て南清に採炭を、豪古に採金を企てたが、之は失敗に歸した。今や生産事業の主なるものは、林業と農業の樣である。

◎多年公共に盡くせる功勞に對して、勳五等を下賜されしも、彼は固辭して受けず、其は今猶縣廳にあり、遺場に困つてる相だ。

◎此他成瀬仁藏の女子大學建設の爲に、又自由黨創立時代にも、何れも多大の淨財を喜捨したものだ。

◎子福長者で十二人もあるが、外相內田の妻は彼の娘だ。兎も角華奢驕蕩を誇とせる今の富豪の中に、彼の如きは慥に異彩あるものだ。

鶴一本の資本

九州の炭坑王　**貝島太助**

◎九州で炭坑の貝島と云へば、兒童走卒みな之を知る程の一代長者だが、其本尊の太助は什麼な男かといふに、唯頑丈で文盲な老爺である。

◎三十餘年前迄は夫婦共稼で、日夜石炭坑の中に潛り込み、鶴嘴一本にかつかつ其日の命を支へたものだ。

◎運勢の乘つて來る時は妙なもので、僅少の資本で山を買たのが當り、其よりスル事ナス事意の如くに運び、遂に立派な坑主となり、擴張に擴張を重たが。

◎だが勢に乘じて餘り擴張せしため、忽ち資本に窮し、之を調達せんが爲に上京して某々に說きしも用ゐられず、爲に空しく歸航の途に就き、一日愁然として將に海にも投ぜんかと思へる途端、同船の井上伯の知る所となり、爾來其力を藉りて、遂に今日の大成を見る樣になつた。

◎彼の家は筑前直方にある、宏壯雄大の結構だが、其床の上には一の鶴嘴が据ゑてある、之は彼が昔を偲び、又子孫の奢を戒むる爲である。

◎彼の成功は、大部分は運の神の手傳ふ所だらうが、其昔を忘れずして、常に勤勉精勵するので、相待つて遂に大成したのだ。

三百萬圓の美擧

九州鑛業組合長　**安川敬一郎**

◎九州鑛山に成功したものは、貝島及彼以下大小數十名を算するも、眞に文明の書を讀み、當世の務を知るものは、彼を除くの外亦た其人あるを知らず。彼が九州鑛業組合長として、其盟主たるは至當な譯だ。

◎彼は福岡の貧乏士族で、故松本潛（郡長などせしことあり）の弟だ。壯時慶應義塾に學び、後其兄の業を承けて鑛業家となつた。

◎他の同業者の殆んど全部が、三井其他有力者に賓緣して成功せるに反し、彼

は當初より獨行して神戸の獨逸商人に直取引をなし、大に發展したものだ。

◎明治專門學校は彼が三百萬圓を投じて建設せる所で、其總董には博士山川を推し、大に育英に努力し、海内の富豪をして、顏色なからしめんとしてゐる。

◎溫厚寡默な男で、何等衒氣も野心もないが、友情に厚く、故平岡浩太郎に對しては、其死後迄大に面倒を見てゐる、即ち火災後の豐國炭坑を引受けし如きは其である。

◎彼は何處となく、小カーネギー型の處がある。學校設立の一擧の如きは、眞に彼をして百歲の後に生命あらしむるものだ。

天成の巨材

若尾銀行取締役　**若尾逸平**

◎彼は甲州軍の巨鎭で、橫濱富豪の三役の地を占め、頃者甥の幾造は、同市より選出せられて代議士となり、又一女を平沼專藏の相續人に妻すと云へば、彼が財界に於ける地盤は、益々堅固となるであらう。

◎當年九十幾歲の老翁だが、少時より鍛鍊せる體力の、老いて愈々壯なるの觀がある。

◎彼が眞に成功の舞臺に上り初めたのは、四五十歲頃よりで、其前は一勝一敗の小手調をした樣なものだ。尋常に行けば、百歲位な壽命ある人類だ百歲の死期迄戰ひつゞけてゆくものとすれば、何も急る必要もない、現に彼の如きは著るしき其一例ではないか。

◎彼は初め金二兩と桃十駄を、父より貰受けて、甲州の山奥を出陣し、爾來幾多の艱難を嘗めて、遂に今日の富を作つたのである。

◎明快、機敏、堅忍、洪量の天賦に加ふるに、好運を以てしたから、彼の今日は出來上つたのだが、彼に最も取るべきは、大局を見るの明あり、能く人に任じて疑はない處だ、是れ彼の門地なく文字なきも、既に財界に將たるの器たる所以だ。

出版界の飛將

博文館主　**大橋新太郎**

◎頃者博文館の創立二十五週年を祝した樣だつたが、事業も成功すれば早いもので、僅々二十五年で日本出版界の覇王となつたものだ。

◎其昔、彼が亡父の佐平と共に、越後の長岡より出で來り、本郷弓町に矮屋を借り、大家論集を發行した時は、實に微々たるものであつた。

◎處が運命の神は、此論集に宿つてゐたものと見へ、非常に賣行きよく、忽ち日本橋に出陣するの盛を見、其より專ら薄利多賣主義で、其發刊物は益々歡迎を受け、舊式の書舗は、何時の間にか悉く其風下に靡く樣になつた。

◎彼の父は頗る機敏豪放な男だつたが、缺點としては尻の括りが惡かつた。然るに彼は頗る細心周密であるから、相待つて至妙な運用をなしたものだ。

◎今や數百萬の富者となり、出版業の外瓦斯、製紙、紡績、製麻、建物等幾多の會社事業に關し、益々事業の手を伸ばしてゐる。先年代議士となつたが、此方は更に音も香もなかつた彼は何處迄も實業家の素質だから、驀直に進まば、猶多大の將來を有するものである。

外商と結託

高田商會主　**高田愼藏**

◎現今高田商會といへば、日本長者鑑の幕内に入るべき資格を有してゐるが、

會主の愼藏は佐渡の貧兒で、十八歳にして東上し、直に横濱に至り、獨逸名譽領事のエム・エム・ベアに投じて、其ボーイとなり、極めて忠實に働いたので、大に信用を得、其紹介で築地四十一番のアーレンス商會に傭はれた。

◎既にして數年の後、ベアとアーレンスと衝突して分離せるも、彼は依然として双方に信用深く、又彼自身の產も漸次殖えしため、遂に明治十四年一月に至り、アーレンス及ベア社の番頭たりし英人ゼームス・スコットと相謀りて三角同盟を作つて、高田商會が成立し、爾來潮の高まるが如くに今日の盛を成すに至つたのである。

◎彼が維新蒼桑の際、而も田舍小僧の身を以て、先づ外國商館に投じ、其より勤勉、正直、寬容の德を積みて、益々彼等の信賴する所となり、遂に長者鑑に上るに至れる、誠に偉とせねばならぬ。

◎然れども由來文盲の成上りものだ。家庭甚だ治らず、山の神の跋扈甚だしいと聞くが、其は如斯いふ連中に免かれぬものだんべい。

◎彼と同國の產に、三井の益田孝がゐる。寬厚の胸襟甚だ相似た處がある。

甲州軍の參謀長

東京電燈株式會社長
第十銀行頭取代議士
佐竹作太郎

◎財界と政界の勢力を兩手に提げて、帝都に翺翔せる彼は、甲州出身の錚々たるものである。が彼の生地は山城で、明治の初、山梨知縣藤村紫郎に伴はれ、甲府に來つて縣廳の小吏となり、爾來若尾、栗原の如き、其地勢力者の後援を得て、漸次其地歩を固めたものだ。

◎彼れ圭角取れて、和氣自づから人を魔するの力がある。而して中に才略の多少群を拔くあり、一方の頭領として立つの資格を備へてゐる。

◎若し其缺點を指摘せば、斷に乏しい處だらうが、人の和を得んと欲すれば、無暗に斷行計りも出來まいテ。

◎東京市政に於ける彼の勢力は絶大なもので、市長の取極も、彼の一諾を得ずんば決する克はずと云ふ位而して東電其他幾多の事業に對し、彼の位置は何れも堂々たるものだ。

◎縣廳の小僧より、一歩々々に地歩を占め、此處迄昇り來れる彼の努力は、亦た

多とせねばなるまいが、彼の運命も此邊で鳧の附け處だらう。

先見が資本

村井銀行頭取
村井吉兵衛

◎岩谷天狗、千葉松兵衛等と共に、曾て我煙草界の大成金として併稱されたものゝ中に村井吉兵衛がある。而して前兩者の名なきに比し、彼は益々成金の基礎を堅固ならしめつゝある。

◎先見の明と機慧の才は、彼をして成金たらしめた大々資本だ。彼元京都の微微たる煙草商なりしが、明治廿三年頃より卷煙草流行の勢を察して米煙の模造を始めたサンライス、ヒーロー等は最も時好に投じたものだ。

◎三十二年米人の資本を仰ぎ、一千萬圓の村井兄弟會社を起して、海内を風靡したものだ。次で官煙となるに及び、其代償金を以てカタン糸製造、石油採掘、銀行、鑛山、開墾の各方面に手を擴げ、年々隆運に向つてゐる。

◎彼の行口は上方流で何處迄も堅固だ。而して進退行止、一寸の隙もない。故に其地盤牢として拔くべからざるものあり、尋常成金輩の企て及ばぬ處である。

鬼の目にも涙

平沼銀行頭取
其他數會社重役
平沼專藏

◎高利の金貸で、一時彼は華族倒しと言囃され、其爲め二三十名の壯士に襲はれ巨額の金を强取られんとしたことがある。で彼は印半纏の人足體に變裝して急遽上京し、伊藤博文の許に駈込んだ。伊藤怪みて之を問ふと、彼は備に其事情を告ぐ。伊藤即ち曰く可と。聽て一書を裁し、時の内相井上に之を致さしむ。彼の再び横濱に歸れる時には、壯士等悉く豫戒令を食つて、亦た一人のあるなし。

（因に云ふ、當時彼は華族の爲に三十萬を逆に倒された相だ。）

◎此に於て彼深く伊藤を德とし、再び其門を叩き、厚く恩を謝して曰く「今回の厚恩眞に再生の想あり、金力にて可ならば、何なりとも奉公を命ぜられたし」と。伊藤は一笑して曰く「ソーカ己は金は要らぬが、那麽な志があるなら、夫の荒廢せる金澤文庫の修繕を賴む、お蔭で天下後世みな大に汝の力を德とするだらう」。

◎彼即ち急ぎ文庫を修理し、逸散の書を蒐めた。文庫の今日あるは、伊藤と彼の

爲である。一些事ではあるが、亦た美談として傳ふるに足る。

◎彼れ當年喜字の祝宴を張つたが、鑼鼓壯者を凌ぎ、日々に矻々として貨殖の事に腐心してゐる。彼の如きは實に奮鬪死に至るも休まないものである。

得意の位置

日本銀行
副總裁
水町袈裟六

◎高橋の日銀總裁となると共に、彼は大藏省財務官より入りて其副總裁となつた。

◎彼れ元來學究的の男なれば、現在の位置の適否は一寸判定に苦しむ次第だ。が桂の聲掛りもあり、又松尾臣善の後援もあれば、左程心配なこともあるまい。

◎彼は若槻禮次郎より、二三年前の赤門出でありながら、其位置常に轉倒して、若槻に乘越さるゝより、小癪に觸るゝものと見へ、曾て彼が大藏次官の事務を後任の若槻に引繼ぐに當り、財政計劃成立せざるの故を以て、次官室を容易に明渡さず、爲に若槻を困らしたこともある。

◎西園寺は勿論彼を厄病神視してゐるだらうが、桂とても彼の的ハキせざるに

は、持餘しの體も見ゆる。其でも高橋の女房役には、差閊もなからう。

◎日佛銀行の骨組は、彼の財務官として駐英中に仕組で來た藝當と云ふものもあるが、是は什麼だか、蓋を開けねば譯つたものでない。

勤勉で正直

日本製炭株式會社長
貴族院議員男爵　園田安賢

◎彼は鹿兒島出身で、警視廳の小吏より總監迄躍進し。退官後、貴族院議員に兼ぬるに、宮中顧問官を以てし、先づ食ふに困らぬ結構なお身分だ。

◎由來警視廳及警吏の多數は薩人多くして、深く強き一種の芋閥を作り。彼の如きは、此點に於て、意外の出世をしたものである。

◎着實勤勉で、自づから人を服するの德あり。彼が總監たりし時も、何等驚天動地の働はなかつたが、別に惡評も殘さず、マー好總監として送迎された方だ。

◎然るに何を感せるか、實業界に飛出し、先づ朝鮮綿花會社で失敗し、更に近時日本製炭株式會社に肩を入れて、老後の花を咲かせんと、大に努力してる樣だ。兎角官吏上りは擔ぎ倒さるゝことが多いから、用心第一に存せらるゝテ。

◎頃者其嫡子の妻として、大將東郷の娘を迎へたるが如く、彼は薩人間に評判令く、亦た其人格は正直で立派なものだ。唯士族の商賣よりも、寧ろ喰はねど高揚枝の方が增ではあるまいか。

昔は下宿屋の主人だ

大日本麥酒
株式會社々長　馬越恭平

◎惠比須然たる彼の顏には、無限の愛嬌を湛へ、波繁き頰邊には幾十年間、世故に揉まれたるの痕跡を印してゐる。故に其一波の跡を辿り、一笑の値を尋ぬるは、蓋し彼を知るの捷徑だ。

◎彼は岡山產で、十八九歲で鄕關を出て、後東上して、下宿屋の主公となつてゐる中に、客の益田孝と昵近になつた。益田は三井の先收社にゐたので、彼の請に依つて、同社に彼を入るゝことにした。今の物產會社は、其後身である、後彼は益田と議合はずして退き、侯井上の推撰で麥酒會社に入つた。

◎從來朝日、サッポロ兩會社は、常に嫉視競爭の氣味であつたのを、彼れ大に斡旋して、之を合併し、今や一千二百萬圓の大會社となり、一ヶ年の產出額二十餘

萬石に達し、海内の上戸黨の腹を益々便々たらしめつゝある。

◎才氣あり、多少の俠氣もあり、一寸と話せる老爺だ。且つ伜の孝次郎も、獨逸藥學博士で、愚息でない樣だから、彼の惠比須面は、頃來愈々笑味を帶びて來た樣だ哩。

存外無慾もの

東京商業會議所會頭　中野武營

◎往年大隈等と共に官を罷めて野に下り、國會開設を呼號し或は第一期西園寺内閣に稅製整理、公債政策を以て、突擊せし時の元氣は、活火の閃々たるが如きものありしが、今は既に多少成功に甘せるか爲なるか、將た老齡爲すに耐えざるか、振はざることも亦た甚だしい。

◎東京株式取引所には、二十餘年來關係して、少からぬ功績がある。で少しく利己心あらば、五十萬や百萬位の金持には、何時でもなれたらうが、彼は存外無慾で、唯其主張と職分を滿足せしむれば、足ると云ふのだから、誠に其心事は皎々麗々である。

◎維新の際、彼は幕軍たり、大に薩長に苦められたのだから、始終之を敵視する感あり、爲に早く退官したとも傳へらるゝ位だ。若し然らずして節を薩長に屈し、巧に游泳せば、男爵位は贏得たらうが、之なき處が即ち彼の生命だ。

◎高松の貧乏士族の子で、少時多大の苦勞をしたものだが、之れが彼をして玉成せしめた源泉だらう。

吝な富豪

衆議院議員　小寺謙吉

◎横濱の平專、大阪の鬼權、及び彼の父泰次郎は、高利貸の三幅對として、一代に蛇蝎視されたものだ。其血液を受けたる謙吉の、人格の鄙吝なるは、語るものが寧ろ野暮だ。

◎然らば拜金宗ならば、其で何處迄もブン拔いたら宜さ相なものに、惣ひ、他の功名場裡にも、顏出しのしたい量見が、沒分曉ぢやないか。好し、這麼な連中が顏出した處で、單識者の物笑となる計りだ。

◎彼も議員たるには、毎度幾萬圓を散じて、選擧民を腐敗させて、獨り悅に入つ

てゐるが、之では出るものも出さるゝものも、均しく憲政を戕賊するものである。

◎金力萬能は歐米を風靡し、我邦も近來大分其風下になつた樣だが、幾部分は猶士道を存し、黃金以外に嚴立したものがある。抑〻黃金は天下の至寶だが、之が用處を過れば、我を傷け人を傷くるものだ。彼も柄にない議員などは思切つて、黃金善用の方法でも研究し、亡父の罪亡しでもしたが宜からう。

鈍重だが堅實

三井銀行取締役　池田成彬

◎明治二十五年三田の理財科出身で後遊米ハーバート大學を卒へ、歸朝後暫時、時事新報記者となり、次て三井銀行に入り、中上川の鑑拔で大阪支店の次席に進み、爾來漸次地歩を固めて、今日の榮を得たものである。

◎彼は米澤の富豪に生れ、氣品高く意志堅剛で、敢て權貴に阿り上長に佞ふことをなさず、克く友人故舊の難を救ひ、且つ常に部下を愛撫するから、甚だ令聞がある。

◎富家の生だけあつて、月給三四十圓の小僧時代から、毎時も煙草は葉卷、酒は伊丹の芳醇ならでは口にせぬと云ふ贅澤屋で、又屢々春屋に雪兒の喃々を聽くなど、其遊方は早川等に負けず劣らずである。

◎平生多く喋らず、言へば必ず實行すると云ふ風で、行内に自づから重をなしてゐる。惟ふに福々圓滿の早川の相棒には、彼が如き人物の配合が最も必要だらう。

親勝りの腕

東京株式取引所理事長男爵　郷誠之助

◎中野武營の跡を襲ふて、怒濤の上に立つ如き、危險千萬の東株理事長となれるは、男郷誠之助である。中野は老練堅實で、度量あり鑑識あり、且つ其職にあること十餘年であつたから、如何に矢釜しき株屋連も、批難排擊はし切れなかつた。其前の理事長、河野、金子でさへも、遁出したのに、獨り中野の永續が異彩を放てると共に、彼が其跡を受けての活動は、特に注目に値する。

◎彼は七八年も獨逸に留學したから、其頭は頗る新しい。且帝商及日醬の跡始

末を見事に遣つて除けたる鐵腕は、名門の驕兒に得難い珍である。

◎駄々羅遊もする、痴態も演ずる、が器局小ならず、機才湧くが如く、殊に潔白正直の質だから、行つた跡に襤褸が出ない。

◎曩に直取引中止を勵行して、兜町の魍魎連を戰慄せしめたるが如きは、誠に痛快である。彼の先考純造は、久しく大藏にあり、敏達の聞高かりしが、流石に酷似の點が多い。彼れ體健で春秋に富む、其前程は春海の如しだ。

圓滿と努力

不動貯金銀行頭取
ニコ〳〵倶樂部主

牧野元次郎

◎千葉縣産で高商出の才子だ、彼れ頗る福々せる人相を有し、其心理狀態亦た極めて圓滿であるらしい。

◎彼の從事してる不動銀行は、元櫻田本郷町の微々たる矮屋にあり、其業務亦た至極寂寞であつたが、彼れ充分に手腕を揮ふに至り、漸次隆盛に赴き、遂に現在の芝大門前の宏壯なる洋館に移る樣になつた。其間の苦心奮闘は、一顧に値する樣だ。

◎發展の原因は、盛に勸誘員を派し、巧に貯金の說法をなさしめ、主として山の神連の臍繰を吸收したのだ。當初は主人公も部下も、拙いものだつたが、漸次熟するに從つて、一向坊主も敵はぬ樣になつた、デお賽錢ならぬ貯金が雲集し始めた。

◎頃者ニコ〳〵倶樂部を設け、雜誌ニコ〳〵を發行し、相變らず巾着錢の吸收に腐心してるが、其太鼓の敲き方に、ニコ〳〵の音がする樣だ。

◎此方針で驀直に進まば、彼も蓋棺迄には財界の雄となれる、努め、其揮を緩むるなかれ。

明治生命保險株式會社々長
明治火災保險株式會社々長

阿部泰藏

◎我邦に於ける保險界の元祖で、人物も溫厚着實で、這麼な事業には適切な天質を有してゐる。

◎慶應出身で、明治初年の頃大に福澤の薫陶を受けたものだ。仕官の初に文部の小吏となり、後文相田中不二麿の腰巾着として渡米し、先づ物質文明の仰山

なるに腰を拔かし、更に保險業の堂々なるを感嘆し、歸來其眞似をやる樣になつたものだ。

◎維時明治九年、世は西南騷動で、上を下へと養くり返つてゐる頃だ。彼は頭取、外交會計庶務てふ四手八臂の働をなし。其相棒に物集女清久、外三名の傭人あり。屋賃月二十圓を支拂へる、ホンの形計の會社であつた。

◎其が膨脹に膨脹を重ねて、今や保險金七千萬圓積立金八百萬圓の大會社となつたのだから。運が向いて來ると、舟も山に押上げらるゝ樣なもので、殆んど人間業でない。

◎一見彼とても通常の人間だ、貶して云へば山が當つたので、褒めて云へば先見の明あるものだ。是れだから事業の快味は云ふに云へぬ處がある。

支那開拓

三井物産會社重役　**山本粲太郎**

◎三井物産の支那貿易總督に、山本粲太郎てふ快男子がある。彼は高商三田、帝大等何れの學閥もなく、又特に學問と云ふ程のことをしたことがないが天資

穎敏濶達で、同僚先輩等の均しく畏敬する所である。

◎彼は越前の無名僧の子で、少小にして上京し、三井物産の小僧より進んで穎朝尤の事務員となり、遂に上海支店長に榮進し、更に理事となり、屢々上海北京間を往復して、其事業の開拓を計ると共に、隱に我外交を援けて利權の扶植を努めた。

◎彼は金港堂主原亮三郎の女婿で。金港堂が一事盛に、飜刻書を支那に售出せるは、彼の援護に待つものが多い。

◎彼曾て倫敦行を命ぜられたるが、彼は帆船で横濱より倫敦着迄の間に、マドロス相手に、不自由なき迄に、英語を暗誦し、立派に用を濟した程だ。兎も角も、物産の支那に今日の優勢を保てるは、一に彼れ山本の功勳だ相だ。

贅六侮る可からず

株式仲買人百萬圓寄附者　**岩本榮之助**

◎贅六の分際で百萬圓を公共事業に奉納すとは、殆んど空前の珍談で。鴻の池も、住友も其眞似は出來ない、彼れ岩本榮之助、抑如何の人だ。

◎彼は多少文字のある、一年志願上りの中尉で、其職業は專門の仲買商だが、克く目先が利き且つ度胸もあるので、頓々拍子で遂に二百萬迄贏得たものだ。

◎此に於て其半を割いて、最も有効なる公共事業に喜捨すると云ふので、其方案を立つるため、東京より澁澤其他の名流を招いたことは、猶昨日の如くに思はるゝ。

◎同じく相場界の成金に、梅原龜七がある。之は其歩調を異にして、名實併せ得るの目的にて、先づ帝國新聞を創刊し、續いて本年は伊勢に鹿を爭ふたが、兩者共に思ふ樣に參らず、聊か煩悶の體だ。是に較ぶれば、岩本の行方は立派なものだ。

◎惡人でも孝子の眞似をすれば、賞與を受くる世の習況や之は男らしい男で、大々的慈善をなせるものだ、贊辭を呈せざるを得ない。

商品扱

報知新聞支配人　三木善八

◎報知は讀賣、日々、毎日と共に頗る古き新聞にて、當初は藤田鳴鶴、矢野龍溪、栗

本鋤雲、森田思軒、犬養木堂、尾崎愕堂の徒あり、大に剛健なる政論を唱へて、意氣冲天の勢であつたが、其割合に紙數多く出でず、毎時も貧乏であつた。

◎然るに三木は、初め下級薄給の一事務員として入社したが、精勵儕輩に超え遂に支配人として、一社の全權を振廻はす迄になつた。

◎彼は能く紙數の出ることを唯一の目的とし、從來の政論專門の看板を塗換へて、俗受專門、人氣取を第一とし、先づ村井弦齋を聘して、日の出島一流の筆法で時好に投じ、又植島長久の如き溫和なる記者に、一二の面を任ずる等、新聞を商品扱にし、遂に現今の盛を視る樣になつた。

◎既に新聞を商品視する以上は、記者の硬骨は大禁物だ。此故に田川大吉郎、石川安二郎の如きは皆斥けられた。而して紙數の出ることに於て、都下第一の稱がある。

◎主義主張に於て言はず、單に紙數の多出を以て成功とすれば、彼の如きは慥に成功者で、亦た其勞を多とせねばならぬ。

◎今の報知は商人や婦人に向くが、髯ある男には、一顧の値もない樣になつた。

經營の骨子

萬朝報副社長　山田藤吉郎

◎新聞經營術の巧妙なることに於て、彼は報知の三木と併稱せらるゝものだ。が世人は萬朝報には、唯黑岩涙香あるを知つて、彼あることを知らぬものが多い樣だ。

◎彼れ元繪入自由を經營してゐたが、如何なる動機に由つてか、黑岩の萬朝と合併し。五分々々の權利にて、黑岩を社長に、彼れ副社長となり、專ら賣捌、其他一般の經營に任ずることゝなつた。

◎黑岩が編輯上に頑張てる以上は、彼も紙數多出主義を以て、之に干涉する譯には行かぬ。彼が外交內政の妙手は、年一年に發揮せられて、自家の資產亦た益益增加するに反し。黑岩は債務を殖すのみだとの噂があるが、政治を說き人道を論ずるものと、牙籌專門家の間には、免かれ難い對照であらう。

◎寸鐵姦吏猾商の腸を抉り、貧者弱者の杖となり柱となる朝報に。彼と黑岩の相擁して立つは、恰も蕭何の韓信に於けるが如きもので、兩者一を缺く可からずだ。

機才橫生

大日本製糖會社長
東京商業會議所議員　藤山雷太

◎社長自裁し、幾多の重役刑罰に服し、且つ一千萬圓以上の大々缺損を生じたる、日糖會社の跡を引受けて、兎も角五朱の配當までなすに至らしめたる、藤山雷太は、當代財界の一傑だ。

◎長崎人で、少壯同縣會議長などをやり、居留地問題の如きは、大に其手腕を示したものだ。次で中上川の鑑識で三井銀行に入り芝浦製作所、王子製紙會社等で益々腕の冴を發揮し。又出でゝ泰東同文局を起し、日本火災保險に入り、拮据勉勵只管運命の開拓に從事せる折柄、偶〻男澁澤の推選にて、日糖社長に擧げられたるものだ。

◎品性は純良玲瓏ではないが、機才は縱生橫出で、恰も彼と同鄕の先輩伊東巳代治の面影がある。總體長崎は古い開港場で惡摺れしたものが多く、隨つて時時才物は出るが、人格の大い、德操の全いものは產せない樣だ。彼も文久二年生

と云ふからには、未だ中々將來がある、苟も事業界の大立物たらんとせば、今少しく心性の琢磨が肝心だ。

一か八か

横濱電氣鐵道會社其他十數會社重役代議士　福澤桃介

◎拜金宗の親玉たる故諭吉に見出され、又其愛孃の慕ふ所となり、三國一の婿殿となつたものだ。

◎お蔭で三年の米國留學をなし、且つ處世上諸種の便宜を得、最初は北海炭坑鐵道の東京支店長として隷脫の才を露はし、漸く岳翁鑑識の誤らざるを知られた。

◎外容は瀟洒たる貴公子だが、實際は勝敗を一擧に爭ふ賭博肌の男で、其一言一行誠に痛快な處がある、然れど權謀術數を不斷に狹んでゐるから、中々油斷は出來ぬ。

◎株にも米にも、其他利のある處何でも指を染むる、時として一戰數十萬を贏得ることもあるが、又一敗奈落の底に蹴落さるゝこともある。而して生存競爭の眞の快味は、此裡にあるのだ。

◎彼未だ年輕だ、其惡戲も是れから益々向上するだらう、だが結局財を得るも失ふも、元々盤上の白子黑子を交換する迄のものだ、拜金宗の實行も宜い加減にしたがご德用だよ。

獨立獨行の好模範

堀越商會主輸出商　堀越善重郎

◎彼は立志傳中に上すべき模範的商人である。明治十六年に高商を出で、校長矢野次郎より二三の紹介狀を得て飄然渡米の途に就いた。

◎時の紐育領事高橋新吉の紹介で、市俄古の一雜貨店に奉公したものゝ、何分にも薄給で一日二食しか詰込めない、晝食を我慢して喰はざること三ヶ月であつた、ならぬ勘忍とは此處の事だらう。

◎蛟龍久しく池中のものにあらず、彼は一日携へ來れる絹手巾、其他絹織物を以て各所の商店を廻つたが、存外多くの註文を得た。メコデ、メーソン商會と約して之に委託販賣をなし、身亦た傭はれて其店員となり、當初一ヶ年千五百弗

てふのを自から辭して其半額を受け、爾來大に信用を博し、遂に同商會の日本支店主任たること十年の後、明治二十七年に、今の堀越商會を創立し、變動劇しき羽二重貿易に、幾たびか運命を弄せられながら、遂に現今の富を築いたものだ。

◎今の妻は彼のメーソン商會時代に求婚廣告で、前田正名より得たものだ。奮鬪此の如く而も誠心誠意で此に至れるものだ。眞に貴ぶべき限りだ。

親分格

鐘ケ淵紡績會社專務取締役　**武藤山治**

◎彼は三田出身で岐阜の產だ、夙に米國桑港に渡り、商店の小僧となつたが別段面白くもないので、匆々歸朝して三井に入り、鐘紡の兵庫分工場長より漸次現位置に上つたものだ。

◎恰も好し、其頃各工場で職工の分取競爭が始まつた。彼は此處ぞと計り、存分の怪腕を揮つたので、關西に於ける職工の大部分を吸收して了つた。

◎此反動は彼に對つて、各工場主の聯合排擊となり、各新聞紙は聯合組の買收

の爲に、彼は面も向けられぬ程の攻擊を受けた。

◎其處で彼は、神戸クロニクルに、辯駁書を連載して、眞相を詳說したので、天下の同情は、翕然と彼に集つた。

◎神戸工場には、十萬の職工を有してるが、彼は之を愛撫督勵して、些の怨聲も出させない。

◎彼れ容貌魁偉にして、親分然とした處がある。即ち太つ腹で、時として思切つた藝當をやる、且つ年齒ヤット五十位だから、ウント運達の上るのは是れからだ

伯爵の嘴

（二）

九州の炭坑王　**伊藤傳右衛門**

◎九州で炭山の傳ネムと云へば、伊藤傳右衛門のことゝして、誰知らぬものもなき成金黨の幕の內である。石炭成金で彼地の三役株には、貝島太助安川敬一郎麻生太吉の徒がゐるから、彼の位置は前頭筆頭位な處で、兎も角も數百萬金

の所有者である。

◎現在の彼の資産は、彼が親爺の傳六が鶴嘴の先で稼ぎ出したもので、彼は其守成の地にあるのである。されば幼より傳六爺に隨つて坑内で育つたのだから、勿論一丁字だも知らう筈がない。が福の神は彼の頭に宿らせ給ひて、他の成金連の樣に別段苦勞もせずして、殆んど生れながらにして、黄金の花を握つたのである。

◎彼の宅は、筑前幸袋にある、數萬坪の庭園を有し、和洋兩樣の建築に意匠を凝した堂々たるもので、草深き田舍人の眼には阿呆宮とも見えん計りである。彼はこの内に憂居して數十百の店員を顧の先で使つてゐる。

◎世間では、彼のことを阿呆の樣に取囃してるか、店員等の語る所に由るに、社會の種々雜多の六かしい事は彼の知る譯もないか、石炭採掘取引等苟も石炭に關する經驗知識は實に老成なものにて、他の同業者も、專門の學者も、及ばない程である。

◎彼れのみとは云はない、凡そ今の成金宗の生命とする所は金力と權力の外

にはあるまい。文盲の彼の深く之に執着するのも、無理はなからうじやないか。彼は他の運動屋の勸誘と、同業者等の同情に由り、大枚三萬圓を投じて、一度衆議院議員を贏ち得た、之が抑、傳ネムの名を江湖に馳せた皮切だらう。

（三）

◎筑前幸袋の隅に、黄金を迂鳴せ、美人の膝を枕として極樂の夢でも見てゐれば、其で無難に濟むものを、止せば宜いのに立憲治下の代議士となつて、臆面もなく議政壇上の人となつた。彼は政友派であつたが、討論終結と共に各員起立に由つて、採決の幕となると、彼は何れに起立して宜いか、面喰つて了ふ、否な政友の方は、より以上の狼狽で、彼が爲には特に起立指導員が付してあつたと云ふ珍談も殘つてゐる。

◎議會で勅諭奉讀の式場に、戴帽の儘で乘込んで守衛に咎められ、東京に到着したのを着炭したと云つて笑はれ、其他幾多の滑稽を演じ笑種を蒔いたか知れぬが、彼には微塵の邪氣もない、又未だ何人にも惡まれたこともない。

◎彼は日露戰爭の際滿洲視察として他の議員等と共に渡滿し、伊勢參宮的の

笑話を留めたこともある。彼は前代議士の肩書と戰爭のお蔭で勳四等均一の恩典に浴したのが嬉しくてならぬ。其無邪氣さ加減も知るべしである。

◎最近に彼が浮名を轟かしたのは、伯柳原義光の妹を宿の妻として貰受け、隣里鄕黨に、之れ見よがしに其隆くもあらぬ鼻を蠢かしたのである。彼は一昨年の暮から昨春にかけ、番頭を連れて上京し、嗅取運動に肝膽を碎いた、其白羽の矢の立つたのが柳原の妹である。

◎聞說く彼は先づ結納として、三萬圓を柳原に贈り、仲介者へも札束を投じたとのことだ。傳ネム當年五十六、お嫁さんが二十六其差三十歲だ。之を田中光顯と小林孝子の取組に比すれば、何のことはないが、上流の結婚としては、突飛なる先例を作つたものだ。

◎この結婚も表面觀だけにすれば、石炭山の老爺に配するに、堂上のお歷々たる柳原のお姫さんと云ふので、大分不權衡の樣だが、其內實は、このお嫁さんは妾腹の出で、而も再婚とのことだから、別に驚くにも足りない。他の三井、大倉などが、素町人の成上りで、大名華族の種を貰ふのと何等の差もない。彼の爲す所

凡べて蓋もなく包もなく、赤裸々の遺口だから、常に俗耳を欹たすのであるがその憎くゝない所も、亦た其邊にあるのだ。

◎甚麼なる動機か、魂膽か其處迄研究する必要はない。善事をなせばドシ〳〵賞揚するが宜い。彼は數年前より其鄕里に女子技藝學校を設立し、其基本金なり維持費として十萬圓を擲つた。其位な金は花牌いちりをしても妾狂ひをしても直に消えて了ふ。其を此に投じたのは、恰も炭仲間の安川敬一郎が三百萬圓をかけて、專門學校を立てたのと、一對の美擧である。傳ネムも此に至つて隅には置けぬ樣になつた。

◎今や彼は前代議士勳四等兼華族の娘を嚊にし、特等車を發せぬ迄も汽車汽船は何時も一等席に傲然としてゐるが、野氣未だ滅却せざるものと見え、時々四合入の正宗の瓶を把つて、胡坐ながらにグイ〳〵呷りつけてる處は何處迄も炭山の阿哥だ。

荒尾門下の俊才

湖南汽船會社大東汽船會社兩專務取締役　白岩龍平

◎故荒尾精の薫陶せる、日清貿易研究所出身のものには、慷慨激越のもの多く。過ぎし日清日露の兩役に常に虎穴に出入して偉功を奏し、且つ屍を敵手に委せるものも少くない。

◎白岩龍平の如き亦た其一人にて、彼は岡山の產だ、例の研究所を出でし頃は、立派な支那通となり、日清戰役には、通譯官として川上將軍に直屬して、大に其信頼を得たものだ。

◎其後奮つて中清事情を研究し、遂に上海、蘇州間及長江沿岸都市間の航路權を攫得し、茲に大東湖南の兩汽船會社を創立し、自から其專務取締役となり、刻苦經營、今日の盛を見るに至つた。

◎創立の當初は、支那人の乘船拒絕或は外商の妨害等あり、多大の困難を嘗めしも、時勢の進展と、彼が鐵の如き決心は何物も動かす能はず、遂に初一念を貫一貫したのである。

◎荒尾の幕下にも、猶人材は大分殘つてゐる樣だが、支那事業として最も振つてゐるのは、彼の右に出づるものはない。大陸問題の是より益々暗憺たらんとするの秋、切に彼の自重奮勵を祈る譯だ。

如才ない男

三越呉服店專務取締役　日比翁助

◎三越が今日の隆昌を見るに至つたのは、曾て高橋義雄が、其基礎を築いた爲ではあるが、七八分の効は、之を日比翁助に歸せねばなるまい。

◎彼は久留米出身で、慶應義塾に學び、卒業後、海軍省慶應の事務員、モスリン商會、三井銀行等に轉々し、最後に三越に入り、高橋義雄の下に副支配人より、現位置に昇つたものである。

◎機敏、熱心、誠實が彼の生命で、彼の半生は此天資の鍛錬に供せられ、其が光輝を放つ樣になつたのは、三越入店以來を著しきものとする。

◎彼が卿地の久留米は、九州中最も堅實なる實業の發達を遂げたる處にて、其氣風亦た溫健である、而して彼は之を十二分に發揮したものだ。

◎三越が顧客の吸收に凡ゆる斬新の方法を講じ、痒ゆい所に手が届き、且つあ立派、あゝ便利、あゝ欲しいの念を不斷に客の腦裡に印せしむるに至り、滿都

の婦人をして、三越の品ならでは、着榮せぬ樣な心地あらしめ、曾ては白木屋、大丸等の下位にありしものが、今や一躍して、兩者を併せしより以上の賣揚高を見る迄にせし、彼も亦た偉い。

客ン坊

廣島商業會議所會頭
藝備日々新聞主幹　**早速整爾**

◎無所屬議員中の豫算通で、曾て國民黨成立當時は、又新會にあつて、細野次郎と共に其成立を妨げたとのことだ。

◎頭腦も確りして、腕もある。デ地方的根性を脫却して少しく世界の大勢を見せしめば、其輪廓も大きくなり、追々一國の良材となるだらう。

◎彼が養父勝三は、地方に稀な因業爺だ相て、彼が廣島商業會議所會頭藝備日日の主幹に兼ぬるに、藝備革新黨首領てふ物々しい權威を有するに拘はらず、性行の餘りに冷酷狡獪なるため、其選擧區の民心だも悅服せしむる能はず、選擧毎に貧乏至極の串本康三に惱さるゝに至つては、沙汰の限りとや云はむ。

◎醜漢井角や、前科ものゝ金尾稜巖輩でさへも、平生客まずして財を散ずる爲に、選擧區は存外安全だ。然るに彼の之に及ばざるは、一に其客なるが爲めだと思はるゝ、苟も大事を成さんとせば、客は禁物だ。民心を得るは、財を積むよりも貴きを知らねばならぬ。

斯父にして斯子あり

神國生命保險會社
專務取締役辯護士　**飯田延太郎**

◎彼は福岡出身の快男兒だ。彼の父飯田久助は當年七十で物故したが、是亦た中々變りもので、少壯より鍬を杖いて、畎畝の間に聖賢の書を繙いて、治平の道を講じ、後推されて久しく里正たり、爲に一鄕の風尙革つた位である。其死に及んで、重要書類を檢すれば、犧牲的貸金としたる借用證の一束がある。其意に曰く貧民の常として、徒に與ふれば恩に狎る。故に彼等の心を弛めずして、業に勵まんが爲に左券を取置くのであると、亦以て其志を窺ふに足るぢやないか。

◎彼は其一粒種の伜だ。壯にして中央大學を出で、辯護士となり、博士原嘉道の下にありしが、其業の餘りに朽子定規なるを物足らず思ひ、先年北海に炭山を購ひ忽ちにして數十萬金を得た同時に生命保險を營み、其業務又日々に隆昌

に赴きつゝある

◎彼既に成金的事業家となり、漸次多岐に亙らんとしてゐるが、其背面には平沼專藏、三浦泰助等の後援あり、意氣正に虹の如し。而して彼亦た先考の餘風を受けて克く後輩を養ひ、他の難を救ふの俠的行爲に富んでゐる。

發明の天才

醬油製糖株式會社取締役
諸機械製造業
鈴木藤三郎

◎一時鈴藤は、鈴久と併稱して、成金の一對とされたものだ。即ち彼が醬油釀造器械及醸造法の改善研究の結果、日本醬油會社を創立せし時の勢ひは、實に隆隆たるものであつたが、一旦破綻百出し、鈴久と運命を共にするに至つては慘の慘寂の寂たるものだ。

◎彼れ本來發明の天才を有するもので、從來其發明特許に係るものは、十を以て數ふる程である。そんなら其事に沒頭して、大々的發明でもやれば宜いのに、其處が凡夫の淺ましさで、時々黃金の山に上つて見たくなる。上らんとすれば方角違のことで、直に滑り落ちて了ふ。

◎人間の事は概して那麼なもので、多慾は必ず敗れる、好し敗れぬ迄も大事は出來ない。大事をやるものは、必ず大慾で一本氣で打通さねばならぬ。

◎彼れ若し眞に成功の人たらんとせば、須らく其天分に歸り、一心不亂に發明の大業を成すべしだ。黃金の山を作る人は、他に幾何人あるを知らず、亦た築いた處で、餘り永持ちのするものでもないよ。

太く短い生涯だ

相場師
松村辰次郎

◎實業と云ひ、虛業と云ふも最後の歸着は天運に待つの外はない、唯其盛衰興廢の期の長短にあるのみだ。故に其の期の最も短きものを相場とし、最も長きものを田舍百姓の土掘とする。太く短く派手で活潑に浮生の夢を弄せんとするものゝ爭ふて相場界に走るは、亦た怪む迄もない。

◎彼れ松辰は先天的相場師で、先づ堂島で小手調をなし、而る後上京して螭殼町に耳目を驚し、進んで馬を兜町に乘入れ、一時松辰將軍の呼聲は頗る高かつたものだ、

◎騎虎の勢凄じく、一舉百萬の財を攫取し、向ふ敵を撫斬にせんとするを、偶たま大澤幸次郎てふ剛のものに、裏を搔かれて脆くも大敗を取つた。

◎流石に相場屋だけに、金の切れ目も宜い。四十一二年の交、五十萬圓を割いて慈善事業に投じ、其他知人故舊の窮を救へることも甚だ多い

◎彼が道程としては、今や谷底に下つた處だから、峠に上つて再び馬を高處に立直すは是からで、其上下高低の多い程、快益々快だ。

株式界の剛のもの

小池合資會社代表社員
東京商業會議所議員
小池國三

◎兜町筋の金權は、何ぞ甲州猿に攫るゝの多きや。夫の雨敬、若尾、佐竹、根津、小野の徒は、皆この一六勝負の勝利者ぢやないか。而して彼亦た其裨將として、剛のものとせられてゐる。

◎彼等は長脇差の本場出身だけに、天下公許の大賭場たる、兜町蠣殼町に成敗を賭け、偶、大小成金を出すは、自然の數で、殊に其掛引の奇雋にして、陣法の森嚴なるは、信玄以來の遺風だ。

◎彼は昔若尾逸平の小僧に住込み、漸次手腕を鍛ひ、明治三十年始めて東京株式取引所の仲買となり、爾來甲羅に毛數を殖し、遂に甲州筋の一勢力を、市場に占むるに至つたものだ。

◎刻下信託業に銀行業に、獨立の機關を起し、盛に奮鬪してゐるから、猶益々金光銅彩を發するであらう。特に彼は慶應二年生た、天王山を爭ふは此後にあるのだ。

◎彼を始め、甲州軍の成金は中々多いが、彼等は猶太人の世界に於ける如く、山西人の支那に於けるに異ならず、唯財力の發展にのみ心を奪はれて、公共的事業に資せず、或は國力の發展を遺るゝもの多きは、聊か遺憾とする所だ。

士族商賣の成功

東京榮行取締役
芳谷炭坑會社取締役
竹内綱

◎彼は高知出身で、曾ては在野政客として、林有造、大江卓と共に、土佐三人男の稱あつたものだ。元宿毛藩の家老の家に生れ、維新の際は、彈雨の下に奔走したこともある。

◎下院議員として一二度出陣した。故に續いて政客たらば、林有造なみに、一伴相の椅子位は占め得たかも知れぬが。一朝政客の儚なきことを觀じて、實業界の人となつた。

◎土佐の先輩で、板垣、谷等を除くの外、政客としても、全然商賣根性を脱したものはない樣だ。彼も此例に洩れず、天下國家を口にしながら明治初年より外國貿易藩札引換等に浮身を窶したものだ。

◎然るに全然實業家となつて以來兎も角成功側の人となり、今や肩書の事業の外に、猶朝鮮方面に羽翼を伸べ、只管財力の吸收に殘生を託してゐる。

◎頃者彼れ七八十萬圓を、育英に投じたと聞くが、果して之ありとすれば、全く財奴たらざるとを、即ち腐つても鯛の味あるを知るに足るのだ。

溫順なる實業家

帝國生命保險會社々長　福原有信

◎日露戰後、一時經濟界の潮勢は、百餘の保險會社を產出せしめた。就中覇を稱するに至れるは、寥々指を屈するに過ぎないが、帝國生命の如きは、最も優勢な

るものゝ一だ。

◎彼は由來藥劑師で、曾て海軍の衞生部員となつたこともあるが、次で資生堂てふ藥店を創始し、之では大分儲つたものだ。其れから西洋小間物化粧品の輸入を企て、復亦た利潤を得、漸く實業界に濶步し得るの楷梯を得た。

◎彼は誠實勤勉な質で、何等奇警俊拔な點は見出さないが、資生堂の如きもの、又保險業などを行るには、最も適任者とせねばならぬ。彼の實業界に令名あるは怪しむに足らぬ譯だ。

◎且つ能く後進を推輓し、其店員で藥劑師となれるもの、既に十數名に及んでゐる。此他家庭能く治り、上下の分克く立ちて、何處迄も紳士的實業家の模型を示してゐる。

小人珠を抱いて罪あり

貴族院議員　麻生太吉

◎九州の鑛業界で、三井、三菱、住友等を除き、其地生拔の成金黨で、三役の位置に據るは、貝島太助、安川敬一郎、麻生太吉である。

◎麻生太吉は代々大庄屋株の家に生れ、相當の田畑を所有してゐたので、他の兩者が殆んど空拳より飛躍せるに比すれば少々見劣りがする。其れだけ其人物が亦たズット下つてゐる。

◎彼等の眼中、極樂天地を觀ずるは、一に爵位、金錢等の人造物以外には、何もない。故に之に執着するの度が、ズット飛放れて、寧ろ滑稽至極である。彼れ今は貴族院議員として、地方長者を代表し、蓋棺後の碑銘準備に取掛つてゐる。蓋し地方長者の因習として、前何々議員の肩書を碑面に刻するのが大變な名譽とされてゐるからだ。

◎先年藤棚炭坑を百萬圓前後で賣却し、是迄債鬼に惱まされし彼も、頓に生氣潑溂となり、春光家門に漲らむ計りだ。ソコデ彼は之れ全く平生信仰する神々の加護に出づるものなりとし、齋らし來れる金銀硬貨、大小紙幣を山の如くに神前に積立て、七珍八美の盛饌を備へ、且つ稽首拍手して曰く、南無何々大明神、家運繁昌金銀無量……

◎彼れ或時邸内に井を穿たんと欲し、之を村の甲乙若干の百姓等に命じた。然

るに工事意外に困難で、約束以上の勞力を要したので、彼等は增工賃を頻に請求するも、彼は愚圖々々理窟を竝べて、中々之を聽いて呉れない。デ氣逸の一若もの、卒然彼の股間に手を差入れ其睾丸をウント握占めた。此不意打に流石の彼も目玉を白黑させ「オヽ痛い助けて呉れい」若もの「ソンナラ增金出すか」と彼れ益々顏を蹙め「ウン〳〵」と是れ頃者東歸の客の土產話の一節だ。

◎彼が友人に安田耕作なるものあり、十數萬の產を有し、田舍大盡の一人だが、其客さ加減は夐に麻生以上の評判ものである。曾て郡會議員たり、居村より會議所まで三里の行程を日々往復する而して偶歸途に放屁する時は、慌てゝ之を握り、大事さうに持歸つて自家の田畑の作物の上に放つ。村人其馬鹿慾の强さに驚倒して之を嗤へば、彼は眞面目くさつて曰く「穀菩薩の息をされるのだ、之を粗末にすれば、罰が當るよ」と、聞くもの益々呆れかへる。

◎機を見て運命を賭し、巨萬の產を作すものは別物として、尋常凡々の材を以て、苟も富の光に浴せんとせば、少くも前者の如き極端なる、猶太式によるにあらざれば不可能の事である。而して今や物質文明の益々其歩を進むるに從つ

て、此の如き徒の愈々群起するを見る。富を作るも亦苦しいものじやないか。

忍耐は成功の基

濠洲貿易の開祖　兼松房次郎

◎兼松商店は、濠洲に於ける日商の元祖で、其首府シドニーにある同店は、規模宏壯で、英人及土人の信用も頗る厚い。

◎彼は明治二十年、一剣を杖いて單身渡航し、研究二年の後に開店し、爾來年々隆昌遂に今日の大を成すに至つたのであるが、彼が出世當初の活歴は、濠洲渡航後のものよりも、更に貴い。

◎彼は尾張の一貧家に生れ、年甫めて十一、京都に出で、乾物屋の小僧となり、殘酷の驅使に耐へて、三年の年期を勤上げ、其より無一文で東上し、途上斃れんとせるを情ある武士に救はれ、東上の後は酒屋の樽拾料理屋の出前持等となり、辛酸の數々を嘗めける時、又々以前の武士に救はれて、其家の門衛より、二本挿す迄に進んだ。

◎次で名古屋の三井兩換店に入り、八年間の辛抱を經て、進んで大阪支店の支

配人となり、遂に大阪實業界の雄者となり、經驗資力の充實するを待つて、濠州に飛躍する樣になつたのだ。

◎如上の行途を見る時は、彼は一に忍耐と剛健の氣力に由つて成功したのだ。徒に奇利を希ひ、僥倖を望む樣なことでは、決して大事は出來るものぢやない。

心眼の明

貝島家の參謀長　貝島嘉藏

◎九州の炭坑王と云へば、貝島太助のことで、貝島の山本勘助といへば、其實弟嘉藏のことである。無一物の坑夫より起つて、今や一千餘萬圓の大富豪となつた。元來太助が豪いからであるが、其幕裡には必ず何等かの相談役即ち參謀がなくてはならぬ。

◎實弟嘉藏は即ち其であつて、彼は盲目だが、开は形の上のことで、彼の心眼は萬人に勝れて明瞭である。彼は其指少しく石炭に觸れ、其耳一たび坑道に接すれば、直に鑛脈の如何と炭質の良否を鑑別する。而も其が百發百中だから、專門技師も往々舌を捲くことがある。

◎彼は啻に炭脈炭質を鑑別するのみならず、事業の經營より一般の策戰に長じ、阿兄の今日あるは、多くは彼の獻策に待つたとのことであるが、初め阿兄の事業甚だ振はず、幸に侯井上の後援を得ることゝなり、井上の阿兄の邸に臨んで、相議せし時の如き、彼は竊に押入の裡にありて傾聽し、應變の術を講じたと云ふ程である

◎太助の息男は、皆父に似ない不肖の兒なるに、たま〳〵山本勘助の嘉癖ある は、恰も元就の子の輝元に對して、小早川吉川の在るが如きもので、此大成金の屋臺骨も、彼あるが爲に盤石の堅をなすのであろう。

第二の尊德

金原銀行前頭取　**金原明善**

◎彼は遠州の男だが、一代にして巨萬の產を作し、且つ義俠と慈善の行爲は數へ切れぬ程ある。曾て私財を擲つて天龍川工事に盡くせる、其水源地に植林をなせる、又丸屋銀行の整理及小野組破產の時の援助の如き、何れも常人の爲す能はざる所を敢行して來たものだ。

◎身を奉ずること極めて質素で、七十有餘の今日に至る迄、何時も綿服で、食事は一汁一菜、外出すればテク〳〵歩行で車を用ゐず、居宅は何の飾氣もなき安普請だ。故に初會の人には、詰らなき一田夫として常に誤解さるゝ。

◎然れども國の前途や、人道の大義に就ては不斷の注意を怠らず、其爲すべきに臨んでは、猛然として起ち、身をも家をも擲つて顧みない。

◎均しく富を作せるも、其行逕は全然夫の平沼、大倉、安田輩の我利々々一天張なると趣を異にしてゐる。彼に貴ぶべきは、唯其點である。

◎彼れ老ゆると共に、都の華奢と虛僞の空氣に充塡されてるを厭ひ、今や去つて鄕里の村長となり、日夕、土臭い百姓を相手にしてるが、彼は彼等の天眞爛漫に接するのを無上の愉快としてゐる。

他山の石……二十四顆

（一）

◎大田黑重五郎は一時沈衰の極に達し、今にも廢絕せんとしつゝありし、芝浦

製作所を整理發展せしめた手腕家だ。當時の製作所は土偶の集合たりしも、皆三井重役だの三田系の關係あるもの計りで、始末に困まつてゐたのを、彼れ其任に當ると共に、ドシ〳〵之を放逐して、下級の俊才を拔擢し、身亦た大車輪の活動をやつたので、數年ならずして今日の隆昌を呈する樣になつた。彼は高商出身で、軀幹長大な蠻カラーである。

◎安藤保太郎は東京市電氣局理事だが、明法出身で若尾の世話で東電の書記となり、累進現地位に至つた。努力的で威重がある、甲州猿の先輩たる根津、小野等に何處か肖てゐる、未だ〳〵將來のある男だ。

◎米津恒三郎は風月堂の菓子屋の主人だ、彼は父と兄との後援に由り、明治十七八年頃西洋菓子研究のため、英、米、佛に出遊して大に得る所あり、歸來其法に則つて製出したのが、時運に投じて、今や菓子と云へば風月に限るものゝ樣になつた。先見の明と努力が、則ち其資本だ。

◎左右田金作は群馬縣下の出身だが、少壯にして横濱に出で、先づ洋銀相場で基礎を作り、次で兜町の株式仲買で當込み、其より足を洗つて堅氣の銀行屋と

なり、左右田銀行及同貯蓄銀行を兩手に提げてゐる。先年一度若尾の後を承けて上院議員となつた、文盲組だが機才のある幸運兒だ。

◎末永允は、書生より一變して筒袖前垂の酒店の主人となり、先づ菊正宗の瓶詰で當て、又日露戰役中醬油エッキスの上納で巨利を占めたものだ。佐賀生で、草場船山の塾にゐた漢學生の果で、友人が灘の嘉納より酒の取引せる其保證に立ちしが、友人失敗の爲めに其跡始末を引受け、爾來正直頑固と晝夜兼行の勤勉とに由つて成功の人となつたものだ。

◎濱口吉右衛門は豐國銀行頭取、富士紡績の重役其他各種の事業に着手してるが、彼は元來紀州の素封家に生れ、貧苦の味を知らぬ男だが、曾て鐘紡の救濟をやり、富士紡績を挽廻せる如き、聊か其手腕を見るに足るが、其行逕に趣味はないのだ。

（三）

◎鈴木馬左也は住友家の總理事で、埃國大使秋月左都夫の弟だ、彼が大阪府參事官たりし時、伊庭貞剛の知る所となりて、住友に入つたのである。不羈豪宕の

中に要領を得、贅六仲間には見ることの出來ない代物だ。

◎和田豐次は富士紡績の專務取締役にして、之を既倒に起して、我が紡績界の雄鎭たらしめし、其實際の經營者だ。この會社の發起人森村市左衞門も一時は匙を投げ、遂に善後の方法を日比谷平左衞門に託し、日比谷は彼を拔いて之に當らしたのだ。彼は三田出身で細心周密な男だが、其鋒芒は時々他を傷けて惡評を留むる。

◎渡邊亨は東京株式取引所理事で、種々の事業に手を出してゐるが、千葉生の早稻田出身だ。曾て東京日々の編輯長たり、其より久しく浪々生活をなし、後矢野二郎の周旋で、大江卓の下に株式取引所書記となり現地位に鰻上りに上つたものだ。昔は鋒芒多出だつたが、今は眞ン圓くなり、巧に相場に群るゝ餓鬼連を操つてゐるが、時々胸底に潛める剃刀の味をもやるから油斷が出來ない。

◎鈴木梅四郎は此次代議士として、東京市より當選したが、三田出身で曾て新聞記者たり、又三井銀行に入り、後王子製紙の刷新をやつて、大に手腕を認められたが、一種の事情の下に退いて言論界に飛出したが、彼も此方にかけては陣

笠たるを免れない。

◎土子金四郎は横濱火災運送保險會社の專務取締役だが、赤門出身で曾て正金銀行に入り、大分事務の練習をなせる程あつて、如才なく切廻はしてゐる。由來彼は口も八丁手も八丁、演說は勿論、高座で落語の眞似迄もやり、中々快活な樣に見ゆるが、存外神經質で人を容るゝの量に乏しい、マー今位な處が彼の相當の役柄だ。

◎杉浦龍吉は浦鹽斯德在留同胞間第一の成功者にして、彼は曾て露語を學び次で日露貿易に着眼して浦港に到り、先づ杉浦商會の一書記として努力歲月を積み、遂に其營業額一ヶ年六百萬圓に上るに至つた、營業の種目は銀行、雜貨、廻漕等である。あゝ精神一到の力、亦た驚くべきものである。

（三）

◎岩原謙三は芝浦製作所取締役たり、又三井物產紐育支店長をもやつた、思慮周密の敏腕家で、夫の山本条太郎と共に双璧として囑望されたものだ。彼は金澤生で商船學校出身だ、其缺點は局量小にして、餘り物に齷齪たるにあるのだ

から、今一番の修養がなくては大きくなれないよ。

◎山田英太郎は、曩に日鐵の常務取締役に就任して辣腕の聞あり、今は日清生命、成田鐵道等の重役として一方に雄視してゐる。早稻田出身で、初め記者であつたが、後實業界に轉じたものだ。性硬直で容易に人に屈しないだけあつて、行り出したら水火も辭せない猛氣がある、亦た刻下の快男兒だ。

◎神川程一は鐵道工夫から、日米銀行の副頭取迄成上つたものだ。彼は廣島の出稼百姓で、北米フレスノ市に於て勞働に就き、十ヶ年の辛酸を嘗め、遂に五六十萬の富を作り、今や旅館雜貨、銀行業を營んでゐる、是こそ眞に貴ぶべき富である。

◎田川森太郎は米領マニラに於ける成功者の第一人で、元船大工として二十幾年間世界を周遊し、偶〻マニラに上陸して鐵道工夫となり、請負人となり、遂に萬金の利を占め、今や商業と農事に從事し、年々繁榮に赴いてゐる、之も前記神川と同じ運命の男だ。

◎森永太一郎は西洋菓子のマシマロ、其他從來輸入をのみ仰ぎしものゝ和製

を始め、今や赤坂田町に一大製造場を設け、常に百餘名の職工を使つてゐる。彼は夙に渡米して菓子職工となり、其製法に熟すると共に、七百餘金を貯へて歸朝し、某銀行に預けしに、偶〻銀行破產の爲に忽ち無一物となりしも、堅忍不拔の彼は之に屈せずして奮鬪し、十年を出でずして名を成すに至つたのだ。

◎辰馬吉左衞門は灘の大酒造家で、現今一ヶ年の釀造高は二萬五千石を超ゆる相だが、二十年前には僅に二三千石の微々たるものだつた。彼は長者の當主だけに、溫厚な品の宜い男だが、其營業の隆昌を來せるは、番頭の辰榮之助を信任して、十分に其手腕を揮はしたからだ相だ。

（四）

◎後藤重信は天草生で、十八歳の春家產を賣飛ばして六百圓を得、之を携へて南洋の卑南に至り、先づ旅館業を營みしが忽ち敗亡し、遂に僅少の雜貨と玩銃を求めて、ボルネオ其他の島廻をなし、景品付の射的を試みしに、大に土人の喜ぶ所となり、一年を出でずして數千金を得、爾來卑南に雜貨店を設けて、島民相手の商賣でズン〳〵成功し、今や同地日本人會の副會頭だが、年猶僅に三十、此

後の活動が最も必要だが、彼も亦快男子の一だ。

◎御木本幸吉は眞珠の養殖で成功した男だ。志摩國鳥羽の漁家に生れ、少時は魚の行商或は饂飩屋などをしたが、偶眞珠の談を聞きて之が養殖に着手し、第三回内國博覽會の際箕作博士の指教を得、爾來熱心に之を研究し、蹉跌すること幾回なるを知らず、其間十餘年を閲し、親戚故舊は云ふ迄もなく、妻子も離散せんとする迄の困難に遭遇したが、彼は更に屈せずして之を遂行し、遂に印度產に劣らぬ佳良品を產出するに至り、今や毎年十餘萬圓の產額あり、曾て先帝陛下にも拜謁を仰付けられ、綠授章を賜はり、名譽ある實業家となつた、奮鬪の力亦た欽仰するに足るではないか。

◎大林芳五郎は貧六生で、呉服屋小僧より出身して、今や關西の建築王と云はるゝ迄になつた。初め東都の土木業者砂崎庄次郎の書記となつて、其要略を心得、而る後歸阪して大林組を創立し、其より幾多の波瀾曲折を經て現今の大を成すに至つたのだ。現に帝都の中央停車場工事の如きは彼の請負工事である。其長所は頭腦が緻密で設計を誤らず、能く部下を操縱して其心を得ると云ふ

のである。

◎日比谷平左衛門は鐘紡社長、兼東京商業會議所副會頭其他幾多の會社重役だが、彼は頗る勤勉家で紡績業に就いては、殊に精緻該博なる經驗を有し、如何なる學者專門家も敵はぬ程である。

◎大谷嘉兵衛は横濱の澁澤と呼ばるゝ程の紳董である。三重縣の出身で、壯時製茶貿易に成功し、爾來强健の體軀と圓滿の常識を資本として、奮鬪を續け、遂に今日あるに至つたものだ。

◎服部金太郎は今や日本時計王とされてゐるが、其昔は古時計の修繕等をなし、困難と共に大々努力をなし、軈て多少の資本を以て、外國時計の輸入で大利を占め、其より精工舍を設けて、柱時計及懷中時計を製作し、内地は勿論廣く東洋各地に販路を擴張し、其業益々盛大となりつゝある。而して彼れ體軀鐵の如く、其着實溫厚は世の深く稱する所である。

◎西野虎吉は出版業開成館主で、元大阪の三木の番頭だつたと思ふ何でも視學や、校長等の生捕方に妙を得て、教科書で當込み、今ぢや百萬以上の長者株だ。

四古武士

古人は外形を飾るのが簡單であつただけ、內容を修むるのは周密であつた。故に平時に強く、戰には猶強かつた、例へば豐公の征韓に、名ある武士の捕虜となれるものはなかつたが。日露戰爭には、遺憾ながら將校の捕虜がある。之では一國の前途も案ぜらるゝ、故に特に古武士的今人を表出して、外飾內粗の人の三省を求むる。

生ける軍神

學習院長　陸軍大將伯爵　乃木希典

◎日本武士の典型として、當今彼の右に出づるものはなからう。彼も往年一度敬遠された樣なこともあつたが、旅順攻圍前後に二兒を喪ひ、身亦た萬死を犯して苦節を盡くせるの赤誠は、深く國民の感激する所となり、今や殆んど生ける軍神として渴仰さるゝ樣になつた。

◎彼が軍事上の功績は、茲に事新しく記するの要もない。彼が近年學習院長として、華冑の子女を董督し、著しく風儀を刷新し、志氣を鼓舞せるは、嘆稱に値する

るの事實にして。殊に曩に妖婦下田歌子を院內より驅逐せる時の如きは、覺へず痛快を叫んだ。

◎云ふ迄もなく、彼は至誠無二の忠臣にして、眼中亦た我なく家なく、眞に其身を以て陛下と國家とに捧げたものである。

◎彼既に二兒を喪ひ、亦後を繼ぐものなき樣を見て、親戚故舊のもの、交々他より養嗣子を勸むるも、彼應せず、蓋し後を濟さんことを患へて然るものゝ樣だ、忠臣の心を用ゆるは亦格別だ。

（此稿校正の際、彼夫妻、先帝に殉死す、此に彼の全精神を傳ふる能はざるを遺憾とす。）

◎彼れ常に院の寄宿舍にあり、諸生と飲食を共にし、出入電車と辻車を用ゆるのみで、何時も軍服を脫いだことがない。質素、勤勉亦た類稀なりだ、而して彼れ當年六十四、吾人は謹んで其健康を祈る。

一代華族の唱首

濟生會顧問　伯爵　板垣退助

◎彼が滿腹の力量を發揮せるは、民選議院の建白、國會開設の請願前後に、最も熱烈に自由民權を絕叫せる時代にして。其後自由黨總理として政界を橫行し、

時に臺閣の重臣として去就せるの時は、恰も收穫期の果實を見る樣で、其果實は曾て豫想せる程大きくはなかつた。

◎土佐人として、彼は坂本の識略なく、後藤の濶量機變なく、唯誠實で勇猛熱烈なること、山路と谷を併せた樣な處がある。彼の性格、經歷よりせば、寧ろ武官として世に立てる方が、得策だつたかも知れない。

◎然れども我立憲政治の基礎は、彼等の涙血に由つて築かれたるものなれば、國民は大に彼等に感謝せねばならぬと思ふ。

◎頃者社會政策を發表し、殊に一代華族論を眞ッ向に振翳して、口に筆に熾に之を呼號してるが、一向に其反應のないのを見ると、社會は未だ其必要を認めてゐないと見ゆる。老人の冷水だ、切に自重攝養を祈つて置く。

繩暖廉式

（一）

◎觀樹將軍三浦梧樓といへば、浪人界の巨頭として、誰知らぬものもない。が彼

樞密顧問官
陸軍中將子爵

三浦梧樓

を浪人といひ、又彼が浪人を以て任ずるは、少々不可解だが、彼れ既に舞臺面を去り、樂屋を去り、大向の觀客の仲間入をなせる爲であらう。彼れたとへ、子爵の中將たるも、其は過去帳を飾れる華文字に過ぎないものだ故に浪人と云ふよりも、寧ろ隱居と云ふの勝れるに若かず。然るに浪人を以て任じ、又或方面より浪人視せらるゝは畢竟彼れ猶現世に未練を抱き、野心を有してるからだ。是れ即ち觀樹式で、彼が過去の行逕は、波瀾重疊の趣がある。

◎彼れ少小より、智勇辯力の士であつた。其二十七歲で、廣島鎭臺司令長官たり、三十幾歲で少將として、西南の役に、一面の指揮官となり、驍名を轟かせるが如きは、其然る所以を證して餘りある次第ぢや。

◎彼は長州出身で、高杉晉作系即ち奇兵隊側の一人である。維新の後には、越後口に向ひ、有名なる河井繼之助の兵を破て、奧羽に殺到し、殊勳を奏した者だ。

◎彼は年齡其他總ての點から、山縣などより少し後輩で、山縣には隨分目をかけられたものだ相だが、彼が軍職にあり、司令官其他好地位を轉々し、一旦歐洲視察より歸來、二十日會てふものを組織して、盛に歐式採長說を振廻はしたも

のだ。其意見には中々突飛な處があつたので忽ち保安潮進の山縣等と衝突し、遂に四十二三歳にして名譽ある位置を退くの止むなきに至つた。

◎彼にして能く時勢の推移を看取し、忍ぶべきに忍び、今少し突飛ならざりせば、今頃は勿論大將元帥位になれたのだが、其處が其れ悍馬の本性は馴すべからず、躾ね蹴る跳ぶと云ふ風に、思ふ存分にやらなければ、癪が納らない代物だ。此點は鳥尾得庵に似た處がある、が何れにしても行り出したら、猛火の中にも笑つて飛込むと云ふ勢だから、眼中固より元老も糞もあつたものでない。

◎伯大隈が外相たりし前後は、歐化主義の全盛時代で、鹿鳴館などでは、日夜舞踏會を開き、ヂャンヂャカ騒をやらかしたものだ。而して其意は對等條約をなすには、日本の舊慣を破つて、歐化せしめねばならぬと云ふ點にあつた。ソコデ一方に之に反抗して、國粹保存黨が出現し、其音頭取が鳥尾得庵、谷干城、曾我祐準、淺野長勳及び彼れ三浦等であつた。其機關として新聞日本之に膺り、羯南、雪嶺、日南、鐵昆崙の諸俊、一齊に筆を揃へて、歐化主義に猛擊を加へた。故に當時其發行停止の頻々たること、他に類例を見なかつた程であるが、彼等の主張は一

國に傳播し、遂に爆發して時の外相大隈狙擊となり、其より漸次下火となつた。

（二）

◎明治三十一二年の交、時の山縣内閣と自由黨は相抱合して、地租增徵を企てた。而して伯大隈は進歩黨を提げて、極力之に反抗した。從來彼は大隈とは常に反對側に立ちしも、其政見の一致するや、忽ち握手して、益々非增徵説を鼓吹した。是等は彼の無私坦懷で、眼中唯國家あるのみなるを知るに足るではないか。

◎朝鮮王妃事件は、彼の行逕に特筆すべきものであらう。日清戰後井上馨は朝鮮の秩序恢復、……民心鎮撫の目的で、其公使として差遣せられた。彼は力めて寛和の態度で之に臨みしに、朝鮮王室では竊に露國の勢力を利用し、表に感謝の意を現し、裏には舌を吐いて笑ふ樣な態度で、容易に御せられない。而して此變幻不測の藝當をなせるものは、謂ゆる東洋三大妖婦の一なる閔妃其人であつた。暫時にして井上其職を辭し、彼れ三浦は其跡釜に据ることゝなつた。

◎明治廿八年九月は、彼が朝鮮公使として赴任の時である。が當時閔妃殺の祕件は、管々しく此に叙する迄もないが、實に思切つたことをしたものだ。大勇猛

心を發揮して、疾風迅雷の働をなすは、蓋し彼が天稟の長所で、又短所である。

◎彼れ熱海に別墅を有し、年の半は其處に起臥してゐ相だが、能く其居民を導きて、善を爲さしむるので、彼の德望は次第に加はり、今では其地の生ける神の樣に思はれてゐる。

◎彼れ多少の禪味あり、大分俗界を超脱してるので、一向に體裁を顧みず、人爵を想はない。百姓も大臣も乞食も三井も同樣に視てゐる。而して浪人を以て居り、又無冠の宰相（？）即ち國の柱石を以て任じてる處が、彼の生命ぢや。

◎彼の姿の時々繩暖簾の中で、熊公八公と相竝んで濁酒を傾け、裏肴をつゝきつゝあるのが見受けらるゝ、熊や八は、彼を田舍の爺々として怪しまず、彼れ亦た彼等を話相手として嬉々たり、寛々たり、而も是れ好んで奇を求むるにあらず、吝なるが爲に然るにあらず、白雲自在岫を出で、岫に歸る途上の小景に過ぎないのである。

正宗の短刀　代議士　犬養　毅

◎犬養毅は聞ゆる精悍機略の士で、开が政界に於ける月旦は、略極つてる樣だ。彼の將來に、天下を取るの秋はなかるべきも、三四十騎の精兵を率ゐて、目に餘る大軍をも、馬蹄にかけて突破し過ぎ、覺へず人をして快を叫ばしむると云ふ不識庵一流の處が、其特色ぢや。

◎書が巧で、彼が前文部大臣犬養毅の肩書で各地を遊說し廻るや、田舍有志家連、日々彼の宿營を襲ふて、其揮毫を逼る。而して彼等は演說よりも寧ろ揮毫を珍重がるので、彼も面白半分に矢鱈に拋り付けるが、筆勢奔騰して、龍蛇雪を噴ぶの概がある。

◎彼の刀劍道樂は有名なもので、其鑑識は既に大家の域に入つてる相だ。其れから、圍碁も段以上の名人だと云ふ。體量十二三貫、眼ばかり大きく光らせてる僻に、何ぞ餘地の綽々として、趣味津々たるものあるやだ。

◎支那問題は、彼の夙に研究する處で、就中革命志士との訂交、在留學生の誘掖等は亦最も意を致したものである。去冬彼が頭山滿と前後して南淸に出馬したのも、亦た其將來に殷憂を擁してゐるからである。蓋し支那問題の、眞に解決

さるゝのは、猶向後數年の後なるやも知れぬから、彼の大志を果すも、亦た其時とせねばなるまい。

◎彼れ何時も貧乏だが、毫も之を意とせない。唯其志す所に懸命である。而して不思議に隱德者あり、絶へず其兵站を供給して呉れるのを見れば、彼も眞に德孤ならずである。

會津武士の標本

九州大學總長 理學博士 山川健次郎

◎彼は會津の人で、純然たる會津武士の典型を備へ、權勢に屈せず、名利を思はず、一意育英に熱中して國に報ゆるの外、亦た他意なきものだ。

◎曾て帝大總長たるや、當初彼に抗立せんとする教授連の鼻梁を折り、次で文部當局の壓迫を斥けたる如き痛快事少くない、殊に日露開戰當時に於ける七博士の開戰主張などには、最も彼の男らしき態度が見ゆる。

◎南北朝問題で、文部當局が北朝の事蹟を糊塗せんとするや、彼は躍起之を搏擊して、正に歸せしめた、此他彼の行逕を辿れば、那麼な痛烈なよが幾何もある。

◎先年九州の富豪安川敬一郎の三百萬圓を擲つや、彼を聘して其董督を委ねた。が次で彼は九大總長となり、大に九州健兒の陶冶に盡瘁してゐる。

◎彼は故少將山川浩の弟で、剛健雋烈の面影の酷似した處がある。兎も角其人格に權威あること、教育界に於ける第一人だらう。

塵中の仙

日本及日本人主幹 文學博士 三宅雄次郎

（一）

◎日本新聞が今の持主伊藤欽亮に移らざりし以前、即ち陸實の社長時代には、一種古武士的風格を具へて、其紙數の發行高は僅少なりしも、讀者は頗る堅實にして、或方面には隱然勢力を有してゐた。是を以て偶〻當路者と政見を異にするが如き時あるや、猛然として咆哮搏擊一歩も假さなかつたので、始中終發行停止の厄に遭つたものだ。が一難を經る毎に同情は一倍すると云ふ樣な勢で、歐風吹靡の裡に獨り「日本」の古色蒼然たるものがあつた。

◎當時の日本には陸羯南を盟主として三宅雪嶺及福本日南あり、文壇の三大

家を併有し、加之ならず詩人に青崖、湖村、俳人に子規の一派を收め、紙上常に鏗然として聲あり燦然として光があつた。然るに羯南の病んで之を伊藤に讓るや、伊藤は一切の事從前と異ならざる可きを約し、雪嶺一派を繫ぎながら、其内外の方略定ると共に直に、伊藤式を發揮して雪嶺等が退社の止むを得ざるに至らしめた。伊藤の人物よりすれば、斯るべきは當初より知れ切つたることなれども、雪嶺の素直に之を信じ、終に大に憤慨して退ける、其お目出度き處が即ち雪嶺たる所以にして、又雪嶺の今日ある所以だ。

◎元來雪嶺は哲學研究には髓分腐心したもので、其結果として見るべきものに我觀小景、王陽明、宇宙等の著があるも、彼は日本を退けるより雜誌日本及日本人を發行し、且つ他の某雜誌にも筆を執り、又同人間の請に應じて屢吃舌を揮ひつゝあれば、餘り熱心に哲學研究をも出來まい。

◎彼の文章を觀る時は誠に流暢にして話巧者の翁語を聽く樣だが、其演說は澁晦至極なもので、說者よりも寧ろ聽者をして汗を握らしむることが多い。併し、數言の中にも、千語換へ難き妙味を有し、特に諷嘲罵に勝れてゐる。で頃日

は其筆よりも其奇辯を珍重がらるゝ樣になり、曰く學校卒業式、曰く理想選擧、曰く何々々々と矢鱈に擔ぎ廻られ、ご當人も大に得意の態だが、之は亦た隨分と世を茶化したものである。

◎彼は本來沈默家で、其編輯樓上に來る時も無言去る時も無言、終に一日を無言にして送了することがある。が其文章に對して親切丁寧を極め、一字一句を苟もせず、校正毎に添削止む所なきので、活版小僧等も之には閉口する相だ。

（二）

◎彼の顏容風骨は、茫々寞々の頭山滿式だが、其中に多少の仙氣と俳氣を有してゐる。彼が曾て京大の文科學長としての下相談に對し、フ、ンと一笑を以て之に應へ、亦た他を語らざりしが如きは彼が名利の外に超然たるを知ることが出來る。輕薄無耻の學究連、往々苞苴に因り鬚塵を拂ひ、妻妾の如くにし、幇間の如くにし、辛ふじて博士號を得て、頓に意氣揚々たるものに比すれば、彼は慥に群鷄中の鶴だ。

◎彼が主宰せる雜誌日本及日本人を見れば、其昔日本が屢々發行停止を喰つ

た時の樣な異彩と元氣はないが、何處となく衣冠堂々として高處より稠人衆坐の中を俯視してる樣だ。之を他の雜誌の頻に富豪に媚び、權貴に佞ひ、或は隱を發き、微を抉り、以て大に售らんとするものより視れば、殆ど穢多と士族程の等差がある。然るに更に不思議なるは、彼が雜誌の賣高は、毎號一萬五千に上り、他の多數は之に敵する克はずと云ふに至つては雪嶺宗の信者も亦多い哉だ。

◎彼は晩婚の方だが、天はこの半仙半俗的の人に配するに、貞淑文雅の一才媛を以てしたのだ。三宅花圃は即ち彼が宿の妻で、舊幕臣田邊蓮舟の女である。和歌を善くし、文章に巧にして且つ懇切に良人に仕へて春風常に家庭に滿つると云ふ光景だから、人其意外の彼が艶福に驚倒せりと云ふ樣な譯だ。

◎彼には一種理想の動す可からざるものあり、常規常習に拘はらない處が面白い。之に就き談柄を求めなば多々的あるだらうが、試に其二三を收錄することに仕樣。曾て雜誌日本人の午歳の紀念として夫の鹿を指して馬としたる秦の丞相趙高の二千一百年祭を行ふことにした。で彼は諸方の古本屋を漁り、趙高の肖像を求めたが、何うしても見當らない。ソコデ自から怪しげな趙高を畫

き、之を熟視して曰く、アヽ馬鹿氣切つた顏だ」と。獨大に好がつてゐると、傍に居た花圃女子竊に臍茶の感に耐えずして曰く「目の下の黑子とお髯の工合はホントに能く誰かに似てゐますよ」と。此に於て彼亦た笑倒して曰く「お前も亦た鹿を指して馬とするのお仲間かい」。

◎初め彼れ哲學を東大に修め、卒業と共に文部省の小吏となつた。那麼な重箱の底に押詰められる樣なことは、彼には不可能なので、直にご免を蒙り、續いて其筋に對ひ、學士號の返還を要請したが、之は許されなかつた。即ち彼は徹頭徹尾無官の太夫大平民の一點張の男である。

（三）

◎ある時岩井某が小野小町を艸し、辰巳小次郎の紹介を得て彼に序文を懇囑した。彼は直に之を承諾はしたが、何度往つても書いて呉れない。癪で督促七八回の後、初めて本願を達することを得たので、早速印行に付することにしたが、間の惡い時は仕方のないもので、活版所で大事の大事の序文の原稿を失して了つた。之には松風軒も弱つたが、窮すれば通ずの頓智を得て、忽ち其記憶に存

するものを臚列して、彼を訪ひ、其事情を述べ、且つ手製模造の序文を出し、大概之にて間違はなからうと思ふが、一應念のために御覽を乞ふと云ふ譯だ。で彼は一讀してヤー是は酷い、殆んど舊態は全滅だと、直に筆を執つて完璧として吳れたが、其實は旨く松風軒に乘せられたのだ。

◎彼は徒走主義で、曾て伯林の眞中で馬車と競走し、偶〻靴紐の解けしために後を取つたが、之を抗言して曰く「之は僕の負けたのでない、靴紐の累の爲である」と。之ある哉だ、彼は某所の演說に臨んで曰く「兩脚を持ちながら、歩かぬ奴は兩脚を侮辱するものなり」と。

赤毛布

五二會長　貴族院議員　前田正名

（一）

◎五二會長としての前田正名も久しいものだが、元氣猶衰へず、昨年は歐洲視察に出掛けて、大分實のある報告を齎らし歸り、例の赤毛布的行脚で、各地の實業家を說法し、今春の貴族院では、大々的氣焰を揚げ、耄碌連の目を覺さした。

◎薩摩隼人で、熱列質素、正直が彼の生命である。曾て農商務次官まで漕付け、其れから野に下つたのだが、上手に立廻らば、大臣、男爵位には何時でもなれたらうが、其立廻りてふことが、彼には出來ない。其處が即ち彼の價値ある所である。

◎彼れ老軀七十に垂んとし、且つ瘦形で全然骨計りで動いてる樣で、羸弱この上もないが、又養生の宜いことも此上ないと云ふ方だから、柳に空折なしの譬に洩れず、平生頑丈を誇るものよりも、比較的無病息災である。

◎此の如き蒲柳の資にして、熱烈燃ゆるが如き意圖を行る、而も其が死に至るまで休まぬと云ふのだから面白い。世には彼を指して僞善呼りをするものもあるが、其は未だ眞に彼を知らないので、彼を累すには足らぬ迄も、聊か氣の毒千萬である。

◎我が實業振興の爲には、家を忘れ身を忘れて、奮闘に奮闘を續けて來た彼も曾ては相應の產を有せしも、奔走暇なく、出費限りなき爲に殆んど其を傾盡し、今では賃貸家屋に轉々の光景であるが、其の意氣は老て益々悲壯の感がする。

◎彼が實業上の貢獻は茲に絮說せずとも、世の既に認むる所であらうから、例

に由つて少しく其背景を窺くことゝしやう。彼の内君は公大久保甲東の令姪で、市子と云ふ才德兼備で、空乏せる米櫃の塡補より、會員の應接、乃至主人が痼癖玉の取鎭等、旨い工合に切つて廻し、主人が今日ある迄には、餘程内助の功を奏したものだ。

（二）

◎彼は薩摩出身だけに、海軍などに大分姻戚もある樣だ。彼が日露戰役中大連にて、一日其近親の少將山田彦八（時に旅順防備隊司令官なりしと覺ゆ）と相會し、談偶、時事に入るや、彼は慷慨悲憤して、卒倒氣絕したことがある。其感情の熱烈なること、以て知るべしだ。而して當時彼は永島松籟其他實業會員を隨へ、大連郊外に大菜園を作らせ、新鮮の蔬菜を旅順攻圍軍其他の出征隊に贈りて、大に軍情を慰めたのである。

◎往年子品川彌二郎、赤毛布的視察をやつて、大に勤儉力行の風を鼓吹したことがあつたが、彼れ亦た品川以上の簡易旅行を二十年來繰返し〳〵續行し、且つ勤儉力行のみならず、殖產興業上の智識開拓には、最も力めたものだ。頃者彼

の旅中に生せし一珍話がある。彼れ例に由り、胡麻髯を茫々と延し、七ッ下りの古帽の下より眼ばかり光らせ、粗衣を纏つて汽車の三等室に乘つてゐると、巡視の警吏は之は物騷千萬な爺々だ。何でも過般より頻に内地を騷がせてゐる、兇賊に違ひあるまいと、忽ち彼の袖を控へて威武高に訊問に及んだ。スルト彼は「何を馬鹿な、之を熟く視よ」と一枚の名刺を突付けた。其名刺には貴族院議員正三位前田正名としてあるので、警吏愕然、オヤ〳〵之は失禮致しました」と。是れ彼が北海道土產話の一つ。

◎彼は天性謹嚴で、日々來る數十通の書信に對し、必ず之を精讀し、且つ返信を要するものには、自から執筆するを常としてゐる。又彼は喫煙は嗜好する所であつたが、其肱股たる永島松籟の豪酒を禁せしめんが爲に、交換的に禁煙した程である。（別項永島松籟參照）

◎彼が曾て吏たりし時も、又在野の老志士たる今日とても、苟も請託の爲に、人の物品を贈るあれば必ず面折して之を返す、亦た其胸襟の涼しさが知らるゝぢやないか。

育英を樂む

日本中學校長　杉浦重剛

◎天臺道士杉浦重剛は現代には珍らしい古武士の模型を有した男である。曾て大學豫備門長迄なつたが、其限りで野に下り、今では稱好塾と日本中學校を專管し、人を作ることを以て天職とし、老の至るを忘れてる樣だ。

◎去る二十年頃歐化主義全盛の頃、彼は谷、曾我、三浦の徒と相結んで、國粹保存を標榜し盛に歐化主義を排斥したものだ。後三宅雪嶺、志賀重昂等と、新聞日本及雜誌日本人に據り、益々其主張を皷吹し、反對雜誌の國民之友などに相抗つたものだ。

◎彼は故侯小村とは管鮑の交があつた。小村常に曰く、彼は理想の愛國家で、我は實行的愛國家だと。蓋し是は知言だ。

◎兩三年來、彼は頗る重病に陷つたことがある。然るに權勢に親しむことのみを知る現代のことゝて、舊知門人の彼を慰むるもの稀れで、加之に活計も頗る困難なので、彼も大分閉口した樣だが、獨り醫博士三浦は熱心に加療せしめて、

遂に全快に至らしめた相で、此他高島呑象等も亦非常に厚意を表した。

◎貧と不遇は彼の問ふ處でない。又其說の世に迎へられやうが、迎へられまいが、彼の關する處でない。彼は彼の懷抱する主義に由つて生き、且つ死するのみだ。彼の拜金一點張、權勢本位の眼より之を視なば、果して如何に映ずるだらう。

◎彼れ當年五十有七と聞ゆ、健康も餘り勝れた方でないから、早稻田の狸親爺の樣に長生も出來まいが、願はくば這の古武士をして、一日たりとも生延ばして、其素朴剛頑の風に接せしめたいものだ。

◎此他彼は往年理學宗を唱へ、耶蘇敎の迷信を排斥し、佛敎の固陋を打破し、別に科學的研究に由り、世界人生を說明せんとしたこともある。亦以て彼が當年の新知識たることが知らるゝ。

◎故近衞公とは、非常に親密な間柄で、爲に上海東亞同文書院長をもしたことがある。公が長生して內閣を作るの秋もありしならば、彼も閣臣の一椅子を得、大に其主張を伸べたらうとの事だ。

◎彼の門生に臨むや、嚴として秋霜の如く、又煦々たる春日の樣で、其味津々だ。

陸軍の蕭何

陸軍省經理局長主計監　辻村楠造

◎土佐出身としては、一向に謀叛氣がない。頭腦明晰で、且つ性行も清廉潔白だから、今の如き尨大な陸軍經理の局に當るには、誠に無類の適材だ。

◎古い局長だが、野田豁通だの、川口武定だの、多少の非難を受けたものだが彼の前任の外松孫太郎は素朴簡捷で、何處となく田舎北雷の風があつた、匣中に藏せらるゝも、珠自づから光あり、蓋し陸軍經理者として令聞あつたもの前後彼以上のものはない。

◎外松の退くに方り、後任として辻村を陸相寺内に勸めたとのことだが、寺内も酷く信任してる樣だから、上原も亦然らむ。

◎毎議會で陸軍豫算の討議はゴタ〳〵の多いものだが彼れ政府委員の一椅子を占めて以來、餘程圓滑に行く樣だ。

◎曾て關東都督府の經理部長たりし時は、殆んど一手で滿洲經營の擴張を策した樣な觀があるが、何時も本省で切縮められたものだ。營口安東縣其他各地

に於ける軍政時代經營の遺跡は、皆彼の心血を注いだ好紀念だ。

◎彼は格勤廉直の一面に、膽量もあり猛氣もあり奇策もある。デ戰後の滿洲經營には和製ルーズベルトの後藤が飛出して、獨土俵を極込まむんする他方には、都督府あり軍政時代の方略を續行せんとする等で、隨分暗闘したものだ。而して彼はお神輿の大島を擔ぎ、遙に寺内に策應し、内には木下其他突飛な參謀連を指揮して、兎も角も難關を切拔けて來た。

◎彼が一躍して外松の跡目相續は外松の推選もあつたらうが、主として滿洲時代の彼を、寺内の認めた爲である。

◎彼れ元來蒲柳の資で、連年家庭に不幸つゞき、妻に先立たれ、兒を喪ひ、加之に陸軍經理てふ大々的劇務に當る。其神心を傷め、健康を害するは、亦た知るべきにあらずや、然れども軍國の事益々多端ならんするの折柄だ、切に彼の清福と加餐を禱る。

吏臭を帶びざる能吏

内務省警保局長　古賀廉造

◎法學博士で刑法學者だが、今では彼の說も大分徹が生えたとの評が多い。彼は佐賀出身だが極めて磊落な質で、邊幅を飾らない、漠とした樣で、チヤント要領だけは捉へてゐる。重箱揚子的の官海に、彼の樣な男は蓋し珍な方である。

◎彼は現內務大臣原敬の腹心で、特に司法省法學校時代よりの友人なれば、其關係も頗る親密だ相だ。往年大審院檢事より警保局長となり、前後二回まで同位置にあれば、其職務上には割合に老練精通な方だ。

◎元來彼は親方風な處があつて、意氣相感ずる處あれば、何でも背負込で世話をする。故に彼の門には官吏、有志家、書生、藝人凡有ゆる階級のものが出入する。而して彼は悉く之を引見して能く胸襟を披き、我も語り人にも聽くのだ。

◎武骨一點張の樣で、中々道樂が多い。先づ其數々を竝べて見れば、筑前琵琶、浪花節、乘馬、銃獵、自轉車、書畫、骨董、刀劍、相撲等であるか、就中琵琶は橘知定の仕込で、自慢の方だが、喉が好くなくつて、調子外れと來てるから、少々聞賃でも貰はねば聞く方に痺が切れ相だ。

◎青山隱田の聖者飯野吉三郎は始め大分警察の厄害となつてゐた相だが、一

たび彼の知を得てより、其得意の豫言も大に世に信ぜらるゝことゝなり、今では眞に其道の聖者の樣になり澄したものだ。

◎浪花節の如きも、ツイ先年迄は乞食藝として、中流以上の人は之を聽くを恥としてゐたが、彼が桃中軒雲右衞門を最負にし、其改良を慫慂してより、遂に今日の盛を見る樣になつたとのことであるが、兎も角も彼は無味乾燥の法學家に似す、趣味津々たる多感的の男である。

軍神廣瀨の師

海軍大學校長
海軍中將
八代六郎

◎彼は侯爵輕薄の本元たる愛知縣下の出身だが、獨り三河武士の風骨を存し、宛然本多平八の再生を見る樣だ。

◎曾て海軍兵學校教官たりし時の如き、學術と併せて專ら士風の振興に一身を委ね、小栗、財部、廣瀨等の俊髦は、皆其薰陶する所である。就中廣瀨の如きは血を啜つて義を結べるものだ。

◎權門勢家に結託するは、彼の蛇蝎の如くに厭ふ所で、往年財部の伯山本の騙

馬たらんとするや、彼等の一團は躍起となりて、其非を鳴らしたものだ。

◎聞ゆる酒豪であつたが、今は之を禁絶し、唯興に乘ずれば、得意の笛を吹く、而して內君琴を彈じて之に和する、此他謠曲にも堪能だ。

◎彼は唯其職に忠にして、一死君國に報ゆるの外、亦た功名富貴の何たるを知らぬ、故に部下に對すると恰も慈父の如く、己を奉ずること嚴にして、素朴此上なしだ。彼亦た國の至寶なる哉。

最年少の中將

第二師團長　陸軍中將　仁田原重行

◎中將として陸軍で最も年少者だらう。彼は少將松石安治と共に、福岡縣下筑後の產で、士官學校も陸軍大學も同期で、均しく優等卒業生である。

◎松石は現今第一流の戰術家として鬼名を博したものだが、不幸滿洲旅行で瓦斯中毒以來全く腦神經を錯亂せしめて不具の人となつた。

◎彼は松石の如く大膽で、奇變縱橫の略には乏しいが、頭腦冷靜透明で、大軍の部署進退の節度は、却て松石以上なるやも知るべからず、且つ品性高潔、風姿颯爽として古武將の面影がある。

◎第二師團長として赴任前滿洲守備隊司令官であつたが、號令頗る克く行はれ、爲に鐵道襲殺の馬賊も、一時跡を絕つた位である。

◎同じ福岡縣出身に少將立花小一郎、赤石元治郎がある。兩者共に鐵中錚々の聞あるものだが、皆雋烈勇往にして新知識に富めるの點、克く相似てゐる。

誠心誠意

第三師團參謀長　歩兵大佐　西川虎次郎

◎彼は勇猛果敢の裡に細心あり、未來の好師團長として囑望されてゐる。

◎日露戰役中、鄕里福岡のもの、緣因を辿つて來り、戰場の遺利を獲んとを求む、然れ共彼れ斷乎として之を斥けて面語を許さなかつた。人其過嚴を攻む、彼れ即ち公私の異を辨じ、聽くものをして、自づから襟を正さしめた。

◎彼亦同役中、遼東兵站監部に參謀長たりしが、晝夜軍務に鞅掌し、時に一睡せざるともあつか、爲に神經衰弱に陷つたので、人の入院靜養を勸むるものあるも、彼れ之を用ゐずして曰く、軍務に斃るゝは聊か宿志に酬ゆる所以だと、平然

として勤續し。唯寸閑に乘じて禪家の語錄或は傳習錄を愛誦して精神の慰安を計り、遂に平生の健康に復した美談もある。

◎軀幹長大、威風堂々、馬上の將軍として一段の見榮がする。たゞ現任地の中京は人情輕薄にして、脂粉の氣最も盛なる處だ。彼れ幸に其軟手雪脛の擒となるを免れよ之にかゝつては義經の智、項羽の勇も滅茶々々だて。

未來の士官學校長

陸軍教育總監部員歩兵大佐　森　邦武

◎彼は軍人としては、角の取れた常識の發達した、親切氣の多い男だ。デ現職の教育部長は好配置だらう。

◎桐生の商家の獨息子で、軍人になつたものだから、隣里目を欹てたが、順風に帆を上げ、軈て閣下の班に入んとするので、今では栃木縣の誇りとなつてゐる。

◎性來世話好で、彼の庇護推輓で世に浮出たものも少くないが、就中我住宅の隣地に、上毛青年の寄宿寮を設けて、之が監督の任に當り、以て國家有用の材を作つてゐるのは感々服々だ。

◎戰役後兩三年獨逸に留學したともあるので、陸軍教育制度には新知識で、亦た評判も宜い。

◎彼は尉官時代に一度隊附をやり、其後は何時も幹部の要職にゐるが、彼の如きは戰鬪攻伐の材としてよりも、後方勤務特に育英には天賦の良材だ。

◎士官學校は將校養成の最も重要機關だが、彼の將來は、之が校長として無類の適任だ。而して彼を知れるものは、亦均しく感を同じくしてゐる。

陸軍の支那通

關東都督府附歩兵大佐　守田利遠

◎守田利遠の眇たる一大佐では知らぬものが多からうが、滿洲地誌と云へば、苟も滿洲に關係あるものは、誰も之を知るならむ、同時に其著者としての彼を回憶するであらう。

◎本著は彼が滿洲在勤中、公務の餘暇に編述した尨然たる大作で、彼が根氣の優勢なることと、彼地理に精通せることが證せらるゝ。

◎義和團前より彼は清國に駐劄し、餘程能く清露の機微に精通し、今の如く大

陸問題の矢釜しき秋には、最も必要なる人物で、近者豐橋聯隊長より參謀本部に轉輔せられ、更に關東都督府附として、再び滿洲へ赴任した。

◎福岡出身で、少將門司和太郎は叔父に當り、山座圓次郎は從兄弟とか聞く。極めて圓滿平易な男だが、豪膽で熱氣に富める處は兩者に似てゐる。

◎能く部下を愛撫し、終まで面倒を見てやる。デ支那には豚尾のある彼の乾兒が大分居る樣だ。規則づく目の陸軍とは云ひながら、彼を隊付にするは可愛相だ。支那の大舞臺には幾個の守田があつても、足りないぢやないか。

樺山式

陸軍歩兵大佐

橋口勇馬

（一）

◎現に歩兵大佐で、何處かの聯隊長をしてゐる橋口勇馬と云ふ男は、重箱揚子的の軍人社會では、一寸毛色が變つてゐる。薩摩ッ兒で有名な寺田屋騒動に腹搔き切つて潔き最後を遂げたる橋口某の甥で、又蠻勇將軍樺山伯の甥に當る。

◎是等の系統を見ても彼が人と爲の一斑が窺ひ知らるゝだらう。春は高く、な

いが、筋骨逞しくデク〳〵肥つて巨眼巨口、若しも威儀を繕つて一喝すれば、三軍之を畏るゝといふ柄で、之に加ふるに山岳崩れ來るも、ビクともせぬ膽氣と、水火の中にも笑つて飛込む勇猛心がある。

◎彼にして今少しく頭腦明晰で、科學的才幹があつたら、三軍の司令たるべき大將ともなれ樣が、惜しむらくは素質だけあつて研磨足らず、謂ゆる地金の儘では仕樣がないと云ふ方であらう。

◎彼には徹上徹下、參謀たり副官たり得の資格はないが、之を一隊の長とし一團の首領とするには最も適してゐる。彼には事の大體を判し、首尾を看取するだけの明があり、且能く人に任じて疑はず、其部下の心を服せしむるの德を備へてゐる。而も其は彼が後天の修養より來るに非ずして、一に其天賦其儘である。

◎義和團事件には北京救援に差遣せられ、爾來久しく彼地に駐劄してゐたから一種の支那通である。日露開戰と共に彼は特別任務に服して北京、天津間にある幾多の浪人等を叫合して一隊を組織し、之を統率して遠く朔漠の野に敵狀を探り、又敵の腹中に匕首を擬したものである。尋常の男なりせば、箇樣の烏

合の浪人を指揮し、且つ其等をして樂んで死に就かしむる樣なことは出來ないのだが、其處は彼れ勇馬の長所だ、彼は彼等を手足の樣に働かして、拔群の功を奏したものである。

◎其際彼等は嗽嘛僧に化け、彼は無論其先達として譯の分らぬ言語を使ひ、妙不思議のお經を讀上げたこともある相だが、彼のことだから大抵嗽叭節でも迂鳴つて化の皮を繕つたものだらう。但お經位で危急の災難が遁れらるれば結構だが、或の時の如きは優勢の馬賊に其寢込を襲はれ、今にも一行の首が飛ばんとするに臨み、彼は優々寛々として、能く彼等が雲水行脚の理由を說き聞かせて、ナール程と感せしめて難なく通過したこともある相だ。是等は赤子の虎狼を退くると一般で、彼でなくては出來ない藝當だらう。

◎哈爾賓で名譽の銃刑に付せられたる橫川、沖、脇の三士も一面彼が指揮の下に活動してゐたらしいが、當時彼の部下たる數十の浪人間は、互に意氣を以て相許し、死を覲ること歸するが如きもの決した三士のみではなかつた。

（二）

◎戰役の七八分通片付いてから、彼は多少骨休の意味からでもあつたらう、鐵嶺軍政官てふ極めて平安無事なる村長樣を仰付けられたものだ、豪宕磊落で城を拔き壘を陷るゝか、或は枚を啣んで暗中に祕技を弄するの外何物をも心得ざる彼に村長の役は亦一の滑稽とも云ふべしである。

◎然るに戰時に多少の危險を犯して廣集して來る連中は、男女殆んど我利我利亡者のみで、油斷をすれば何時でも馬賊に早變をも爲かねぬもの計りだ、加之に鐵嶺には、其迄木村とか川崎とか、杓子定規の小矢釜しい軍政官を据ゑてゐたから、居留民も思切つた仕事も出來ず、去りとて役所では齷齪計りしてゐて功は上らぬ方であつた、で橋口の村長は大に歡迎されたものだが、サテ村長に据ゑて見ると、朝から晩まで戰場稼に出て來てる二足三文の女共に鼻毛計り讀ませて、一向村の世話も燒いて呉ねぬ、而して部下のものには萬事任せ切りで、月に一度か二度位其報告を聽いてヨカ〳〵との挨拶だから、氣樂な樣で心配な樣な有耶無耶で平和克復純民政の引繼まで通したものだ。

◎僕不關焉と云ふ風で押通しつゝも、有繋に責任は免かれぬから、部下にあれ

居留民にあれ、不埒な奴のある時は、容赦なく鐵拳を見舞つたものだ。而してこの鐵拳政策は、他の幾多の禁令諭告以上の效果があつた。

◎這麼な男に限つて、長鯨百川的の酒豪の多いものだが、彼は酒は一向飲めぬ、其代り女と來ては殆んど平等無差別で、女なくては一日も辛防し切れぬと云ふ豪傑だ。隨つてご贔負の女軍の間で常に角突合の絶間がない。其處へ彼が目尻を下げて「オイ喧嘩は休めてオイドンに任して置け」は面白い。

◎兎も角も、戰場驅馳の將として、一軍を率ゐて驀進し、克く部下をして其軍旗の下に死せしむるは彼の特色である。而して彼亦た遠からず、旅團長にはなるだらう。平時には何等音も香もなき彼も、一朝何れの國とか鐵火を交ゆる時には、眞に一國の干城として頼母しき男である。彼に老母あり、彼は頗る克く之に仕へてゐたが、今猶健在なりや否や。

斃れて止む

近衛騎兵聯隊長騎兵中佐

牧野正臣

◎陸軍特科の騎兵には、在外人物がある。先づ騎兵監の秋山好古は、機才あり、膽

略あり、未來の軍司令官として囑望せられてゐる。降つて第一、第二の兩騎兵旅團長共に英物の評があるが、就中吉田平太郎は曾て久しく陸軍省騎兵課長を勤め、新知識にして大局に通じてゐる。

◎牧野中佐は、頃者名和大佐に代つて、近衛騎兵聯隊長となり、輦轂の下を警固することゝなつたが、彼は聞ゆる、嚴正廉直の男だ、軀幹亦た長大にして威風あり、他日の好將軍だらう。

◎彼は笠間藩牧野子爵家の支族で、門閥育だけに、氣品は高いが能く下情にも通じて、部下を愛撫し、其心服する所となつてゐる。

◎ズット以前に、南清に駐劄してゐたこともあるので、彼地の事情にも明く、學問文章亦た侮る可からざるものがある。

◎先般何かの動機で馬に蹈まれたとかで、日々跛足を引きずりながら馬に跨り出勤してる。彼は何時でも職務に斃るゝ決心だから、案外平氣でゐるが、何をしても此流義だから頼母しいテ。

◎彼に一弟あり、本年帝大を卒て南洋事業に着手す、氣象風丰亦た相似てゐる。

五　長脇差

人生は意氣に感ずる、百萬石の殿を振つて、竹の柱に茅の屋根、好いた男に操を立つる遊女も。又欺き殺さるゝものと知りながら、笑つて敵邸に飛込む町奴も、其惜む所は一片の意氣だ。苟くも此意氣だに貫くを得ば、人生亦た何をか恨みむ、長脇差に貴ぶ所は。唯之あるが爲だ。

意氣と趣味の男

法學博士　辯護士　江木衷

◎法學博士江木衷は長州出身だが、長閥圏外の一人で、毫も事大的の心なく、何處迄も唯我獨尊流の男らしき男である。此點は長州出の三浦觀樹や、佐々木豪古等に似た處がある。

◎彼は明治十七年、奥田義人、石渡敏一、荒川義太郎等と同時に帝大を出たが、而も其首位であつた。先づ官人として警視廳に入り、時の總監三島通庸の下に立ち、次で外務、農商務、司法省、東京地方裁判所等に游泳し。故品川彌二郎の内務大臣時代、其參事官限りで、役人生活を斷念し。野に下つて一辯護士となり、其儘今

日に至つたのである。

◎彼も官游を續けたらんには、既に大臣の一椅子位は占め得たらむに、由來剛直洒脫の彼は、七八年間の官僚生活で深く其弊を知り、且つ其餘りに意氣地なきに厭き。寧ろ官僚の弊を打破して、立憲思想を鼓舞し。以て自家の性格に適する卓磊不羈の生活を營なまんが爲に、野に下つたのである。彼が凡俗に一頭地を拔いてるのは此點であらう。

◎陪審制度論は、彼が多年主唱する所で、既に議會の問題ともなつたが、之が爲には彼も人知れぬ苦勞をしてる相である。此他法律學上に一見地を有して、常に曲學阿世の學究連を痛罵してゐる。

◎彼れ冷灰と號し、漢詩に巧に文章に堪能である。曾ては豪酒豪遊、歸るを忘ると云ふ方であつたが、先年意中の佳人、欣々女史を娶りしより琴瑟頓に相和し。復た彼の姿を柳暗花明の巷に認めぬと云ふことである。

◎本年講談師、伊藤痴遊の東京市より候補として、大に援助を與へたが、萬事此筆法で、苟も意氣相投じ、理性相合ふや、

慕然之に赴き亦何物をも之を顧みない樣な江戸ッ兒風な處がある。チョイト今の法曹界の杓子定規連の中には出色じやないか。

浪華の彦左衛門

前衆議院議員 辯護士 日野國明

◎彼は伊豫の生で大阪の住人だ兩地共に物質的で極て俗惡な氣風を帶た中に、彼の如き氣節の士を見るは、恰も泥裡に一莖の蓮花を觀る樣な心地がする。

◎昔て大阪では、女郎屋の元締天川三藏を選出し、大に贅六の面目を蹈潰した跡に、日野を出した如きは、其人心も未だ全く痲痺し切らずにゐると見へる。

◎彼は市會議長になつて、一時大に大阪市政に貢獻したこともあり、今に市の一重鎭として雄視してゐる。

◎往年自由黨員として盡瘁したものだが、同黨の單に尨大にして、腐敗甚だしきを慨し、遂に河野、島田等の政界革新意見を賛して、國民黨に加盟した、

◎墮屋に居り素朴を旨とするも、志常に天下にあり、議論堂々として、氣を吐くこと虹の如く、贅六連の目玉を白黑さするは、廣い浪華にもマー彼位なものだ。

上州無宿の骨頭

群馬商工銀行監査役 代議士 細野次郎

◎彼は湯淺次郎宮口次郎と併せて群馬三次郎の隨一だ。他の二者は地方的で彼は獨り中央に飛翔してるから隨つて其名も多く記憶されてゐる譯だ。

◎彼に取るべきは云ふ迄もなく蠻勇猪突な點である。彼は是で敗れることもあらうか、亦た是で奇功をも奏する。

◎忠治逝いて以來長脇差の風、一向に聞えなかつたが、幸に彼の如きありて、時時溜飲を下ぐるは痛快だ。

◎財を作り名を成すを畢生の目的として、生死する奴輩は、蓋し愚中の愚で、尻の穴の最小なるものだ。

◎丈夫須らく、得失利害の外に立ち、天稟の向ふが儘に、縱横に切捲くるべしだ。又夫の徒に成功を說き失敗を談ずるは、抑〻事の末だ、丈夫の世に飛出せるは、那麼狀袋の樣な意味ぢやない。

◎彼が代議士たり、實業家たるは、其値鏹一文だ。彼に多とするは其意氣だ、日比

谷燒打の元氣にあるのだ。時事漸く多難、鐵腕其力を緩ふす可からずだ。

酒と女に半生を捧ぐ

（一）

福島縣知事　西久保弘道

◎體量約三十貫、幕相撲としても恥しからぬ大男の西久保弘道。當年知命の坂に上り、正に分別盛の男盛、其でヤット福島縣知事、而も知事としての新參だ。其將來も略知るべしだが、知事としては立派なものだ。蓋し彼は其氣格品位の大に群を拔いた處はあるが、惜しむらくば手腕之に副はざるの恨がある。

◎大山の搖き出せる樣な巨漢だけあつて、彼の行逕にも頗る餘地の綽々たるものがある。彼は東大で、城數馬、横田秀雄、太田峯三郎等と同級で、而も第四席の優等級に入り、第三學年迄は眞面目に修學したものだ、其間にも大男だけの珍話はある。

◎明治十九年の暑中休暇の際、彼は木下友三郎、柿原武熊、龜井英三郎、織田萬、長森藤吉郎等の腕白連と共に、谷中本行寺の座敷を借受けて、自炊をやつた。一日

長森等の發企で、麥とろを作つて食競をした處が、大概六七杯で參つて了ふ。然るに彼は一連十三杯まで平氣で傾け盡し、一同を呆と言はせたことがある。其れから彼は、擊劍、柔道が嗜好で、毎時でも暇さへあれば、ヤットー〳〵の聲に興を遣るのである。

◎其頃の彼は酒は飲んでも女の方には關係しなかつたが、一度友人に誘はれて、根津遊廓に遊んだ處が、友人等は特に彼の敵娼に、彼を厚遇すべく賴んでおいた。軈て宴撤し、友散じ、彼は紅閨深く蘭燈の下に導かれたが、敵娼は此處ぞと計り、腕に縒をかけて、情海の赤兒を生捕つたのである。木强武骨の彼も、一たび此情味を解しては嬉しくて耐らず。其より二六時中、惚氣の丸出しで、遂には學校の方も次第にお留守となり、登樓の彈藥には窮して來る、評判は益々惡しくなると云ふのが、斯道の常習である。然るに彼の敵娼は、一雨毎に彼を慕ひ、命までもと云ふ迄に濡合つて了つた。如斯なつては、彼も身の破滅だ、苦勞の種は十二分に根を下したのである。

◎果然々々、彼は卒業の五六ヶ月前に至つて、品行不正の廉で退校を命ぜられ

たが之も自業自得で止むを得ない。デ敵娼の年開を侍つて、其より七ケ年の放浪窮迫を忍んだ。左れども互に惚合てる彼等の眼には、別段窮達を意とせざりしならむ。情海の眞味は、實に貧富窮達の外に存するからである。窮餘彼は此女郎上りの妻君を連れて、廣島地方幼年學校の佛語教員に流れ込みながら、縁に名譽回復と登龍門の開拓にのみ腐心したものだ。

（二）

◎凡骨ならざる彼は、放浪生活中に多少の軍用金を調達し、再び上京して、大學へ復校の許可を得たものゝ、以前に勝る貧苦の極、流石の彼も其には閉口したらうが、甲斐々々しき山の神に慰められ勵されして、ヤット二十八年に小野塚、濱口、下岡、久保田等の俊才と共に卒業した。其成績は中位であつたが、兎も角も官海をも俗海をも、其卒業免狀なくては泳ぎ難い窮屈な世とて、彼も馬鹿々々しいことゝは知りながら、辛抱して其免狀を得たのである。

◎彼は手蔓を求めて、内務屬となつた。恰も倉知鐵吉、杉山四五郎、中山巳代藏等の若手豪傑連が黨をなして一升會を組織し、毎夜會飲、一升づゝ平げて放言高

談互に胸中の磊塊を排したものだが、彼れ西久保は、中山と共に其牛耳を執つてゐた。其外に豫備會があつて、之れは稍酒量の劣つたものが集つた。斯る光景だから、當時の内務省はアルコール熱頗る猛烈で、割合に仕事も上つた樣だが、時々失錯も演じたものだ。

◎彼が福島知事に祭り込まれる迄には、愛知、山梨、靜岡、茨城等の諸縣に參事官、警部長、書記官等種々の官階を鰻上りに登つて來つたものだ。曾て名古屋赴任の際の如きは、貧病未だ癒へず、寒中外套なしの新參事官の乘込に、出迎の屬官等、彼れ定めて外套を車中に遺失せるならむと、搜索に出掛けんする模樣なるに、細君傍にて堪りかねて曰く「宅では這麼に肥つてゐますから、外套は用ゐないのですよ」と、之には彼も覺へず失笑した。

◎彼は武術が好で酒が嗜で、一向邊幅を飾らない。否な彼には、飾る必要もなければ、又そんな餘計な錢もないのだ。故に毎時も綿服に鳥打帽で、拳大のステッキを打振つて、郊外散策をやり、屢々灰殼小僧や、田五作どもを驚したものだ。

◎彼は意志の强いだけ、容易に其主張を曲げない。故に到る處に多少の波瀾を

捲くも。元來恬淡にして毫も私利虚名を求めないから、未だ曾て怨を買つたことがない、彼は至誠の男である。

鑛毒退治

栃木鎭臺　田中正造

（一）

◎鑛山王として、古河市兵衞が天下に名を成した反面に、之を攻擊して均しく聲名を馳せたものを、栃鎭の綽名ある田中正造とする。古河の鑛山と云へば、即ち足尾銅山のことで。其鑛毒を防がんが爲に、彼は幾多の歲月を擲ち、且足を摺小木にし、舌を爛し聲を嗄し、朝に逼り野に叫び、殆ど身命を睹して狂奔し、遂に其目的を達して、銅山設備を完全ならしめ、幾萬の民を死地に救つたのである。

◎鑛毒退治の爲に、彼は幾回か兇漢に兇器を擬せられ、其一方には常に幾萬金を袖中に投ぜられんとした。が彼は何時も大喝して之を斥け、飽く迄栃木鎭臺の面目を發揮した。

◎之が爲に流石成金の古河も、太く辟易して防毒施設に、數百萬金を投じたと

のことである。古河は固より拜金の爲には、何物をも犧牲として掛れるを、彼の一片の意氣を以て、遂に之を排倒したのは、獨り關東男兒の氣を吐くのみならず、金力以外に、より重大なるものあるを知らしむるに足る。彼が生涯に幾多の俠的行爲の中につき、唯是のみは數仞の碑を百世に保留せしめて可なりだ。

◎清節を全ふせんとせば、素朴なる生活を營むのが第一要件である。若しも時流に從ひ新奇を追はゞ、遂に究極する所なく、其埋合せとして不善をなすは、滔滔たる俗輩の日々に醞釀しつゝある所である。此に於てか彼れ栃鎭が、大々的素朴なる生活が頗る興味を與へるのだ。

◎彼も昔は、庄屋格の家柄に生れたとのことであるから、相應の財産もあつたらうが。何がサテ、世の富豪顯官等を、這ふ虫とも思はぬ彼の事だから、鄕里の小役人や、糞桶隊長等の爲ることが、癪に觸つて耐らぬので、遂に政客となつたのである。一旦政客の群に投ずれば、端した財産の忽ち煙散するのは當然だ。ソコデ彼は貧乏神の道連となつたが、政黨の方では、方面の飛將軍として、嘔はるゝ樣になつた。

◎彼は何處に行くも、黒木綿に拳大の五ッ紋、小倉袴に火用心としたる頭陀袋的の煙草入をブラ下げてゐたが、栃鎭と云へて、同時に彼が此の異風をも連想されたのである。而して彼の東京に於ける定宿は、芝邊のお粗末なる下宿屋で、木賃宿に彷彿たるものであつた。其れから旅行は赤切符に赤毛布、サテは握飯に梅干の御隨行と云ふのだから、隨分簡便至極なものだが、一代の抱負を披瀝し、群鬼を罵倒するには、之にて充分であつた。否な日本現在の富の程度では代議士連も、此位質素に行つた方が似合つてるかも知れぬ。

（三）

◎由來栃木縣下は、古の長脇差の出所にして、國定忠治の如きは、最も傑出したものである。が其流風遺俗は今猶寒村僻邑に殘存してをる。而して彼は之を一身に集中してる樣な感がする。

◎彼の改進黨員として帝國議會に臨むや、常に怒罵狂號眼中殆んど人なしの慨があつた。が之は獨り議場のみでなく、同黨員の中でも氣に喰はぬものあれば、惡罵に次ぐに鐵拳を見舞つたものだから、彼に對しては何人も敬遠主義を

歌つたことがある。

◎回顧すれば去る廿六年の議會で、原敬は外務次官として政府委員席にあつた。當時朝鮮で暴徒の爲に、日本人が殺された人員を、彼は質問したので、原は、二十一人でせう」と答へたのか、不都合だと云ふので、彼は忽ち眥を張り卓を撲ち怒號し始めた。曰く苟も自國の人民が他國で殺されたと云ふのに、左樣な無責任極る答辯をなすのは、國賊野郎だと、頻に罵しかけたので、原も耐え切れずして遁げ出すのを、彼は益々追擊の度を進むるので、中野武營は、遂に見兼ねて之を押止めたことがある。

◎其後谷中村事件の如き、多少の波瀾はあつたものゝ、彼の全盛時は鑛毒問題で、今や寄る年波と共に頽然として老境に入つたが、猶何處やらに、宿昔の風丰を留めてゐる。

小星亭

千代田瓦斯會社
鬼怒川水力電氣會社重役

利光鶴松

◎大分縣出身で、元田肇などゝ同國である。若い時に苦學をしてヤット辯護士

となり、政黨屋となり、星亨の乾兒となつた。

◎彼の人物は既に定評のあることだが、恰も星の小型で、機才、膽力共に見るべきものがある。で後藤蠻爵なども常に彼を薄氣味惡がつてる位だ。

◎東京市政は森久保、佐竹等と相呼應して、縱行、横行、勝手に振舞つてるが、抑、振舞はせる市民も意氣地がないが、星以來植込みたる彼等の勢力は、牢として拔く可からざるものがある。

◎彼は親戚故舊に厚く、且つ甚だ孝行で、家庭も圓滿に治つてゐる、此點は星其儘な處がある。先般物故せる老母は久しき間病床にありしが、彼は誠心誠意之を看護し、其物故に先だち、枕頭に筆を執つて、老母の言を謹識し、永く子孫の訓戒とした相だ。

◎彼れ既に數百萬の富を擁し、數百の乾兒を有し、隱然猛虎負遇の勢をなしてゐる。親分星は、白晝大刀を揮つて人を脅かすが如く、餘りに大膽露骨を以て敗れしに鑑み、彼は努めて隱忍且つ他の耳目を避くるの術を講じてゐる、是れ彼の甚だ安穩なる所以だ。

甲州軍の部隊長

東京米穀取引所理事長代議士　根津嘉一郎

◎甲州長脇差組の隊長で、德川時代ならば國定忠治の向を張るかも知れぬ、が今の聖代には、盆呉蓙敷いて、賭場稼も出來ぬから、窮屈袋をつけて、株式市場に暴れ廻る樣になつた譯だ。

◎機才膽略は彼が先天的特有物で、加之に財運强くして、起仆幾年の練磨の末は、大當に當つて忽ち財界の幕相撲となり、同時に荒稼を止めて、堅實なる實業の立場に、旗幟を飜す樣になつた。

◎彼の現在關係せるものは、米穀取引所を筆頭として、東武鐵道、カブトビール、日清製粉、其他幾十の銀行會社に指を染め、彼の名を見ざれば、聊か寂寞を感ずる程の流行ッ兒となつた。

◎本年復た代議士として出陣したが、是は肩書だけのもので、政治家として鏹一文の値もない、マー國民派の米櫃の一となれるだけの者だ。

◎古物好で、近來大分蒐集してる相だが、之も樂むよりも、寧ろ誇りたい方だ。

◎彼れ曾て禪僧宗演に、祠堂を建てゝやる約言をしてる相だが、和尚も何遍行つても、會ても呉れないのには閉口してゐる。成金根性は大概這麽なものだらう、殊に甲州の大猿ときてるから、手が付けられないテ。

第二の雨敬

東京割引銀行頭取
富士製紙其他數會社重役
小野金六

◎信玄以來、甲州には久しく人らしき人を出さず、唯水晶絹絲、甲斐絹などの聲のみ高かりしが、近く明治十四五年頃より、財界に傑物を出すこと何ぞ頻繁なる。先づ雨敬を筆頭として、若尾逸平、佐竹作太郎、根津嘉一郎、小野金六等みな一方の將たるに足るのだ。

◎信玄の遺鉢を傳へしものと見へ、策多くして其行方が頗る堅實だ。小野金六は雨敬以來の人物で、何處にか長脇差の氣風を帶んで、キビ〳〵した點がある。

◎近時勃興の各地水力電氣、其他銀行事業等に關し、就中資力一千萬以上を擁する、富士製紙は彼の最も力瘤を入れる處なるも、偶〻蛸配當の襤褸を出しかけて、少々心痛の體だが、中々其位な事で屈するものでない、却て其が雨降つて地

固るの類となるかも知れない。

◎雨敬曾て曰く、俺の相談相手は、安田と小野位なものだと、亦以て彼の面目を窺ふに足るぢやないか

何時迄たつても壯士

東京市電氣局理事
井上敬次郎

◎星亨の乾兒で、一時は猛烈に悲歌慷慨をやつたものだが、政界には一向に功を成さず、移民業では大當を行り、忽亦た敗れ、今は全く實業家の班に立つ樣になつた。

◎熊本人で、夙に渡米し、菅原傳、渡邊勘十郎、山口熊野、日向輝武等と均しく、園丁や皿洗より漸次頭を擡げ、アイダホーの鐵道工事で妙な噂を留め、後布哇移民の有望を認めて、熊本移民會社を起し、續いて京濱銀行を創立し、一時四角八面に切廻はしたものだが、時利あらずして曾社仆れ、銀行破れ、且つ大頭目の星は兇刃に斃る。此に於て彼は起つ能はずと思ひの外。

◎奮勇一番東都の實業界に喰込みて、街鐵重役となり、更に一變して、現地位に

立つ樣になつた。

◎彼は圭角多く骨硬く、魴鮥の樣な男だ。實業家として餘り議論劇し、氣焰熾なるは不利の地に陷ることが多い。然るに這は熊本人に、殆んど特有の長所の短所だ。

◎彼の如きは、實業よりも、政界にあつた方が適任だが、浮世の通行はメーも參らぬものと見らる。

ムト金

實業新聞社長　代議士

武藤金吉

◎議會の篦迷組に佐々木蒙古、鈴木天眼、村松恒一郎（以上何れも今期落選）藏原惟廓、恒松隆慶、翠川鐵三、菅原傳及彼がある。何れ劣らぬ惡戲もので、議場で喧嘩の賣買は、彼等の專有の樣になつてゐる。

◎深い罪のない男だが、元々上州無宿の長脇差の血を承けたる、群馬縣下の出身だけあつて、無性に飛上りたいのだから、始末におへぬ代物だ。

◎然れども新聞を作り、小財を貯へ、一國の選良として何遍か起てる處を見ると、蠻氣の中に多少の猾才狡智を包んでゐるものと見ゆる。

◎但議場の篦迷は、餘り馬鹿々々しいから、チト眼を青表紙の上に晒し、臍下丹田に力を入れて、他年內閣乘取でも策したら什麼だい。彼も軈て五十になる、何時迄も餓鬼騷は醜いよ。

●西鄉南洲曰く……命も名譽も金も要らぬといふ男が一番長い。併し大事を爲すには、之でなくては出來ない。

●南洲の陸軍大將として、近衞都督たる時、某街に長屋を賃借し。自から其一室に居り、他の數室には部下の健兒を養つてゐた。而して其受けたる俸給は、常に棚の上に置き復た之を顧みない。弟從道之を知り、時々來つて無斷拜借をなし、竊に狎妓の笑を買ふの資とした相だ。

●或時の內閣會議で、何か面倒な問題が起り。後藤象次郎が頻に怪焰を揚げて、中局が結ばらぬので、一同閉口してゐると。隣席の從道は、竊に後藤の椅子を後方に放しおいた。軈て後藤が喋り了つて尻を下すと共に、ドシリ尻餅を搗いたので、滿場の大笑となり、折角の怪焰も其でお流となつた。

●兩雄の遺兒は何れも平々凡々で似たる處は其形貌位だ。英雄も二代は續いて出ぬものと見える。

六浪人組

浪人は夜の如きものだ、天下事なければ則ち布團着て寢たる姿が東山、月でも眺め酒でも酌んで終らむに、夜は必ず明くる時あり、即ち起つて活動する、天下も取るが首を取らるることもある。

無冠の英雄

支洋社大頭領　頭山滿

（一）

◎頭山をして元龜天正頃に生れしめたらば、二三十萬石位な城主には、何時でもなれたらうといふ評判のある位な男だが、惜い哉其が太平の今日に生れたのだから、一向に役をなさない長物である。だが其時代遑に飛出したので、奇行と逸話の種が出來るのである。

◎彼は福岡の生れで、當年五十五六だらう、骨格逞しき巨漢で、其面を見れば疎なる髯長く延びて、誠に茫々寞々たるものである。されど其瞳の底には、一種異

様の光がある、ドーかすると其光が電の如くに迸ることがあるのだ。

◎少時は、女傑として有名なる高場亂、即ち人參畑の婆さんの向陽義塾に學んで、刺客傳の講釋を聽いたものである。この婆さんも一度は良人を持つたこともあるが、意氣地なしとして之を拋り出して以來、全く獨身で行り通し、劍を學び、書を講じ、且つ慷慨時事を談じ、薩の西郷、長の高杉等と交を結び、殆んど變性男子となつたのである。其人物行動は、後に愛國婦人會を創立したる、佐賀の女豪奥村五百子に克く似た處がある。

◎彼の少時は頗る傲岸で、其眼中長者も何もあつたものでなかつた。で或時熟生等は彼を布團押で、（寢息を窺ひ何枚〳〵も其上に布團を積重ね、又其上には幾多の塾生が乘りかゝつて、ウン〳〵押付くるので、大抵の奴は押鮨の樣になつて平太張つて了ふのである）。大に彼の將來を誡め呉れんと、甲乙相會して密に手筈を定めつゝあるを、逸早く彼は之を看破し、毎夜磨ぎ澄したる壞劍の鞘を脱して寢床に忍ばすることゝした。で流石の腕白連も、身戰して到頭一手を染むとも出來ぬ樣になつたが、彼は身邊に白刃のあるのを忘れて、寢汚く蹈ん